

山形城三の丸跡

第4・6次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第190集



2010

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



やま がた じょう さん まる あと

山形城三の丸跡

第4・6次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第190集

平成 22 年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





第6次調査2区SD202 堀跡19層（西から）



「最上家在城諸家中町割圖」／山形県立図書館蔵

序

本書は、財團法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、山形城三の丸跡の調査成果をまとめたものです。

山形城三の丸跡は、山形盆地中央に位置する山形市の市街地に所在し、現在の霞城公園（本丸跡・二の丸跡）の周辺を取り囲むように形成されています。山形市は、中世から近世初頭までは、最上氏の城下町として栄えました。とくに近世初頭には最上義光によって山形城が本格的に整備され大規模なものになりました。現在は、山形県の県庁所在地として、県の政治・経済の中心的都市として発展しています。

この度、一般国道112号霞城改良事業にかかわり、山形城三の丸跡の発掘調査を実施しました。調査では、山形城三の丸に伴う掘立柱建物跡や土坑など数多くの遺構が見つかり、また三の丸を囲む堀についてこれまで確定できなかった部分を確認することができました。これらの遺構に関連した陶磁器や瓦等多くの遺物も出土しました。これらの調査成果は、これから三の丸跡の史実を究明していく上で、貴重な資料となることでしょう。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙や普及、学術研究や教育活動などの一助になれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成22年3月

財團法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口常夫

凡　例

- 1 本書は、一般国道112号霞城改良事業に係る「山形城三の丸跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、佐竹弘嗣、伊藤純子が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、鎌上勝則、安部実、阿部明彦、黒坂雅人、伊藤邦弘が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T…堅穴住居跡	S B…掘立柱建物跡	S K…土坑	S D…堀跡・溝跡	S P…ピット
S X…性格不明遺構	R P…登録土器	R Q…登録石製品		
P…土器・陶磁器	S…石・石製品	W…木・木製品		

- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 8 遺物実測図および拓本は、各々スケールを付した。なお、土器実測図の断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器を、網点を入れたものは黒色処理を表している。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2005年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調査要項

遺跡名	山形県三の丸跡第4・6次									
遺跡番号	山形県中世城館遺跡調査報告書番号201-002									
所在地	山形県山形市旅籠町一丁目									
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所									
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター									
受託期間	平成20年4月1日～平成22年3月31日									
現地調査	第4次調査	平成20年6月16日～10月31日								
	第6次調査	平成21年5月11日～7月30日								
調査担当者	平成20年度	調査課長	長橋至 安部実 伊藤邦弘（調査・整理主任） 佐竹弘嗣							
		調査員	高木萬							
	平成21年度	調査課長	阿部明彦 安部実 伊藤邦弘 黒坂雅人							
		専門調査研究員	佐竹弘嗣（調査・整理主任） 伊藤純子							
調査指導	山形県教育庁文化遺産課（平成20年度） 山形県教育庁文化財保護推進課（平成21年度）									
調査協力	山形ガス株式会社 山形市上下水道部 山形市教育委員会 山形県教育庁山教育事務所									
業務委託	基準点測量業務 東和測量設計株式会社 遺構測量業務 株式会社寒河江測量設計事務所 デジタルトレース業務 株式会社東都文化財保存研究所 保存処理業務 株式会社東都文化財保存研究所 理化学分析業務 パリノ・サーヴェイ株式会社									
発掘作業員	板垣牧子	上野健治	氏家健輔	鏡広子	柏倉賢助	片倉富代				
	木村弘一	草刈多喜	小林弘	齊藤健二郎	酒井秀雄	佐藤茂				
	斯波久一郎	東海林仁助	中野俊夫	中村幸治郎	原峯生	三澤国昭				
	山口秀男	渡辺佳子	渡辺庄一	渡邊みゆき	（五十音順）					
整理作業員	春日民子	金沢美由紀	後藤絵美	齋藤和子	白田光芳	中村史子				
	向田香織 (五十音順)									

目 次

I 調査の経緯		III 調査の成果	
1 調査に至る経緯	1	1 第4次調査	9
2 調査の概要	1	2 第6次調査	13
II 遺跡の概要		IV 理化学的分析	16
1 地理的環境	3	V 調査のまとめ	22
2 歴史的環境	3	報告書抄録	卷末
3 基本層序	4		

表

表1 発掘調査工程表	2	表4 薄片観察結果	20
表2 試料一覧	16	表5 遺物観察表	78
表3 蛍光X線分析結果	18		

図 版

第1図 地形分類図	5	第23図 第4次調査4区出土遺物	36
第2図 遺跡位置図	6	第24図 第4次調査5区全体図・層序	37
第3図 遺構配置図	7	第25図 第4次調査5区遺構・出土遺物	38
第4図 山形城虎口および道路配置図	7	第26図 第4次調査6区全体図・層序	39
第5図 大グリッド設定図	7	第27図 第4次調査6区遺構(1)	40
第6図 調査区概要図	7	第28図 第4次調査6区遺構(2)	41
第7図 脳土薄片	19	第29図 第4次調査6区遺構(3)・出土遺物(1)	42
第8図 脳土化学組成散布図	20	第30図 第4次調査6区出土遺物(2)	43
第9図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)および 砂の粒径組成	21	第31図 第4次調査7区全体図・層序	44
第10図 破洞物・基質・孔隙の割合	21	第32図 第4次調査7区遺構(1)	45
第11図 第4次調査1区全体図・層序	24	第33図 第4次調査7区遺構(2)	46
第12図 第4次調査1区遺構(1)	25	第34図 第4次調査7区遺構(3)	47
第13図 第4次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)	26	第35図 第4次調査7区出土遺物(1)	48
第14図 第4次調査1区出土遺物(2)	27	第36図 第4次調査7区出土遺物(2)	49
第15図 第4次調査2区全体図・層序・遺構	28	第37図 第4次調査7区出土遺物(3)	50
第16図 第4次調査3区全体図・層序・遺構(1)	29	第38図 第4次調査8区全体図・層序・遺構(1)	51
第17図 第4次調査3区遺構(2)	30	第39図 第4次調査8区遺構(2)	52
第18図 第4次調査2・3区出土遺物	31	第40図 第4次調査8区出土遺物(1)	53
第19図 第4次調査4区全体図・層序	32	第41図 第4次調査8区出土遺物(2)	54
第20図 第4次調査4区遺構(1)	33	第42図 第4次調査9区全体図・層序・遺構(1)	55
第21図 第4次調査4区遺構(2)	34	第43図 第4次調査9区遺構(2)	56
第22図 第4次調査4区遺構(3)	35	第44図 第4次調査9区遺構(3)	57
		第45図 第4次調査9区出土遺物(1)	58

第46図	第4次調査9区出土遺物（2）	59	第55図	第6次調査2区造構（2）	69
第47図	第4次調査9区出土遺物（3）	60	第56図	第6次調査2区出土遺物（1）	70
第48図	第6次調査1区全体図・順序	61	第57図	第6次調査2区出土遺物（2）	71
第49図	第6次調査1区造構（1）	63	第58図	第6次調査2区出土遺物（3）	72
第50図	第6次調査1区造構（2）・出土遺物（1）	64	第59図	第6次調査2区出土遺物（4）	73
第51図	第6次調査1区出土遺物（2）	65	第60図	第6次調査2区出土遺物（5）	74
第52図	第6次調査1区出土遺物（3）	66	第61図	第6次調査2区出土遺物（6）	75
第53図	第6次調査1区出土遺物（4）	67	第62図	第6次調査2区造構外出土遺物（1）	76
第54図	第6次調査2区全体図・順序・造構（1）	68	第63図	第6次調査2区造構外出土遺物（2）	77

写真図版

卷頭写真1	第6次調査2区S D202 堀跡19層（西から）	写真図版30	第4次調査7区出土遺物（5）
卷頭写真2	「最上家在城館家中町割」（山形県立図書館蔵）	写真図版31	第4次調査8区出土遺物（1）
写真図版1	第4次調査1区～3区完掘状況	写真図版32	第4次調査8区出土遺物（2）
写真図版2	第4次調査4区～6区完掘状況	写真図版33	第4次調査8区出土遺物（3）
写真図版3	第4次調査7区～9区完掘状況	写真図版34	第4次調査8区出土遺物（4）、9区出土遺物（1）
写真図版4	第4次調査1区～3区検出造構	写真図版35	第4次調査9区出土遺物（2）
写真図版5	第4次調査4区検出造構	写真図版36	第4次調査9区出土遺物（3）
写真図版6	第4次調査5区、6区検出造構（1）	写真図版37	第4次調査9区出土遺物（4）
写真図版7	第4次調査6区検出遺物（2）	写真図版38	第6次調査1区出土遺物（1）
写真図版8	第4次調査7区検出遺構（1）	写真図版39	第6次調査1区出土遺物（2）
写真図版9	第4次調査7区検出遺構（2）、8区検出遺構（1）	写真図版40	第6次調査1区出土遺物（3）
写真図版10	第4次調査8区検出遺構（2）、9区検出遺構	写真図版41	第6次調査1区出土遺物（4）
写真図版11	第6次調査1区完掘状況	写真図版42	第6次調査1区出土遺物（5）
写真図版12	第6次調査2区完掘状況、SD202 4・6層遺物出土状況	写真図版43	第6次調査2区SD202 堀跡2層出土遺物
写真図版13	第6次調査2区SD202 7・10・11・21層完掘状況	写真図版44	第6次調査2区SD202 堀跡3層出土遺物（1）
写真図版14	第6次調査1区造構検出状況（1）	写真図版45	第6次調査2区SD202 堀跡3層出土遺物（2）・堀跡7層出土遺物（1）
写真図版15	第6次調査1区造構検出状況（2）	写真図版46	第6次調査2区SD202 堀跡7層出土遺物（2）
写真図版16	第6次調査2区SD202 石組検出状況	写真図版47	第6次調査2区SD202 堀跡8層出土遺物、堀跡9層出土遺物（1）
写真図版17	第6次調査2区SK204	写真図版48	第6次調査2区SD202 堀跡9層出土遺物（2）・堀跡10・11層出土遺物
写真図版18	第4次調査1区出土遺物（1）	写真図版49	第6次調査2区SD202 堀跡13・15・17・19・20・22層出土遺物
写真図版19	第4次調査1区出土遺物（2）	写真図版50	第6次調査2区SD202 堀跡層不明出土遺物、堀跡石組1・石組4出土遺物
写真図版20	第4次調査2区出土遺物	写真図版51	第6次調査2区SD202 石組5・SK204土坑出土遺物
写真図版21	第4次調査3区出土遺物、4区出土遺物（1）	写真図版52	第6次調査2区造構外出土遺物（1）
写真図版22	第4次調査4区出土遺物（2）	写真図版53	第6次調査2区造構外出土遺物（2）
写真図版23	第4次調査4区出土遺物（3）、5区出土遺物	写真図版54	第6次調査2区造構外出土遺物（3）、泥面子・賽子
写真図版24	第4次調査6区出土遺物（1）	写真図版55	第6次調査2区出土金屬製品（1）～（3）
写真図版25	第4次調査6区出土遺物（2）		
写真図版26	第4次調査6区出土遺物（3）、7区出土遺物（1）		
写真図版27	第4次調査7区出土遺物（2）		
写真図版28	第4次調査7区出土遺物（3）		
写真図版29	第4次調査7区出土遺物（4）		

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

山形城跡は現在国指定史跡となっている本丸・二の丸と、その周辺を取り囲む三の丸を含め、東西1,480m、南北1,881mの範囲で遺跡として登録されている。

山形城跡の発掘調査は、山形市教育委員会、財團法人山形県埋蔵文化財センター等によって幾度か行われ大きな成果をあげている。平成15年度の本丸復元工事に伴う発掘調査では、金箔瓦や銅瓦などの最上氏時代の城郭建設に関わる重要な遺物が数多く出土し注目された。また、平成20年度山形城三の丸跡第5次調査では、三の丸西側の堀跡の一部を確認することができた。

今回の調査は、一般国道112号霞城改良事業に伴う道路拡張部分の発掘調査である。平成19年11月に、県教育委員会によって試掘調査が行われた。国道拡幅予定地に3本の試掘トレンチを設定し、壁面と床面を精査した結果、近世以前の遺構が検出された。合わせて古代・中世・近世以降の遺物が出土し、時期的に複合したエリアと想定された。試掘調査を実施した三の丸内部は、後世の擾乱も認められるが、盛土や表土下に良好に遺構が残されていると確認されたことにより、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県教育委員会、財團法人山形県埋蔵文化財センターの三者による協議を行い、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託を受け、財團法人山形県埋蔵文化財センターが調査主体となり、記録保存の発掘調査を行うことになった。

2 調査の概要

A 発掘調査

調査は、国道112号の旅籠町一丁目付近の道路拡幅部分約2200m²を対象とし、2次（平成20年度第4次調査、平成21年度第6次調査）に分けて実施した（表1）。調査区は、隣接する民家および工事事務所への進入路・駐車場を確保する必要性から11箇所に分割して設定した（第6図）。

発掘調査では、遺構・遺物の明確な位置を記録するために、国土座標関係を平面直角座標系第X系（世界測地系）を基準とした方眼座標（グリッド）網を設定した。基準点は国土地理院設置の街区基準点から5点を視準点として調査区内に公共座標杭を設置し、本遺跡のグリッド設定の基準杭にした。グリッドは、山形城の全域を囲むように南北をX軸、東西をY軸とし、1グリッドあたり300m四方の大グリッドを設定した（第5図）。さらに大グリッド一つをさらに南から北へ~00~99、西から東へ~00~99と3m四方の小グリッドに分割した。よってグリッド番号を「大グリッド南北・大グリッド東西・小グリッド南北・小グリッド東西」の順で示すために、「AA0000」のように6桁のアルファベットと数字で示した（本調査では、調査区が大グリッドの「FF」「FG」「GF」に含まれる）。

調査方法は、まず各調査区の範囲を確定した後、重機を使って基本的にVI層の遺構検出面まで60~90cmほど表土を掘削した。それと並行してジョレンなどを使って遺構の検出・確認作業を行った。その作業が終わると移植コテなどで遺構を半裁して土層の確認作業をし全体を掘り下げる遺構精査作業を行った。その間に適宜、土層断面や遺構平面図等の図面の作成や写真撮影等の記録作業を行った。今回の調査では、図面作成の効率化を図るために業者委託による遺構測量および図化業務作業を行い、撮影データから断面図や遺構平面図の作成、さらに報告書作成までと一貫した作業を行った。

第4次調査

現地調査は平成20年6月16日から10月31日まで行った。調査部分は、国道112号旅籠町交差点から西側へ150mの地点から大手町交差点までの道路拡張部分である。調査は、地域の方々の日常生活に支障が生じないように調査区を9箇所に分割して行った。1区画を約2週間かけて調査し、一つの区の調査が終わると埋め戻して、次の調査区に移ることを繰り返した。調査工程は以下のとおりである。

I 調査の経緯

1区 6月16日～6月27日

2区 6月30日～7月10日

9区 7月14日～7月25日

8区 7月28日～8月8日

5区 8月18日～8月29日

6区 9月1日～9月12日

7区 9月16日～10月3日

4区 10月6日～10月17日

3区 10月20日～10月31日

各調査区の期間中に業務委託による造構配置図および平面図作成のための等高線測量を実施した。また現地での調査説明会を10月25日に行い、調査は予定どおり平成20年10月31日に終了した。

第6次調査

現地調査は平成21年5月11日から行った。調査部分は、第4次調査1区と道路を挟んだ東側の道路拡張部である。現存する江戸時代の絵図面などから、山形城三の丸の土塁跡と堀跡があったと推定される部分で、調査は1区が6月12日まで、2区が6月15日～7月30日までとし、それぞれ調査期間中に業務委託による造構配置図および平面図作成のための等高線測量を実施した。現地で

の調査説明会を7月18日に行い、調査は予定どおり平成21年7月30日に終了した。

B 整理作業

報告書作成のための整理作業は、平成20年度と平成21年度の2カ年にわたり作業を実施した。

平成20年度は、第4次調査の図面、写真等の記録類の整理と遺物の基礎整理（洗浄・注記・復元）を行った。図面整理は、遺構測量業務委託の遺構平面図と断面図の校正を行った。

平成21年度は、7月まで第4次調査の実測作業を行い、8月から第6次調査の基礎整理（洗浄・注記・復元）と第4次・第6次調査の実測、トレース、拓本の遺物整理作業と、各種図版の作成、遺物の写真撮影、版組みを行った。遺構全図および遺構別図は、遺構測量業務委託のデジタルデータから作成した。写真図版は、撮影したものから報告書に掲載するものを選出した。その後、遺構図・遺物図・写真図版の版組みを順次行っていた。報告書作成の版組み作業と並行して本文執筆を行った。

また、第4次・第6次調査の金属製品の保存処理と、瓦と須恵器の理化学的分析を業務委託した。

表1 発掘調査工程表

平成20年度発掘調査（第4次調査）

月 週	6月				7月					8月				9月					10月					
	3	4	5	2	3	4	5	2	3	4	5	1	2	3	4	5	2	3	4	5	2	3	4	5
機材搬入	○	6/16																						○ 6/31
機材搬出																								
1区				☆ 6/26																				
2区					☆ 7/10																			
3区																								
4区																								☆ 10/17
5区														☆ 8/28										
6区															☆ 9/11									
7区																☆ 10/2								
8区								☆ 8/6																
9区							☆ 7/25																	10/25
調査説明会																								

平成21年度発掘調査（第6次調査）

月 週	5月				6月					7月					
	3	4	5	1	2	3	4	5	2	3	4	5	1	2	
機材搬入	○	5/11													○ 7/30
機材搬出															
1区							☆ 6/4								
2区														☆ 7/29	
調査説明会										7/18					

○機材搬入

○機材搬出

☆等高線測量

II 遺跡の概要

1 地理的環境

山形城が所在する山形盆地は、南北40km、東西20kmにおよび、東側は藏王連峰から御所山に連なる奥羽山脈に、西側は白鷹山などの白鷹丘陵によって囲まれている。山形市はその東南部に位置し、その東は宮城県（仙台市）に境を接している。山形市の市街地は藏王山系を源流とし南東から北西方向に北流している馬見ヶ崎川によって形成された扇状地に広がっている（第1図）。現在の馬見ヶ崎川は、近世初期に山形藩主鳥居忠政により改修された流路とされており、近世初頭頃は、本遺跡東側、現在の山形県郷土館「文期館」辺りを西流していたと推定されている。馬見ヶ崎川は、流域が浅く流路が狭くて蛇行しているために、一旦豪雨があるとすぐ氾濫が起り、幾度も市街地が洪水の被害に見舞われたことが記録に残されている。特に遺跡周辺は、南東から北西に緩やかに傾斜しており、濁流が流れ込むなどの被害に見舞われると推定される。今回の調査区は、山形城三の丸の堀および土塁付近に位置するが、調査により堀が何度も改修された跡があり、このことからも当時の馬見ヶ崎川の暴れ川の様子が想像される。

扇状地では、扇頂部から扇央部にかけて透水性の大きい疊層が堆積し、河口水や降水はすみやかに浸透して伏流水となり、扇端部で泉となって湧きだし湧水帯を形成する。山形城の本丸・二の丸は、馬見ヶ崎川扇状地の扇端部にあたり、湧水帯が南北に走っているため二の丸堀はかなりの地下水の湧出があったと想像される。城南一丁目遺跡では、山形駅西側の調査で中世から近世にかけての井戸が数多く見つかっている。いずれも深さが2m程度で、地下水位が今よりずっと浅かったことが推定される。一方本遺跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇央部にあたり、土砂が厚く堆積し、地下水位が深く乏水地となるため、調査区の三の丸堀は當時水不足であったと推定される。調査区で見つかった近代のものと思われる井戸は、深さが7.5mあったが枯渇しており、水源に恵まれなかったことを証明している。

2 歴史的環境

山形城は、山形市の市街地中心部に位置する大規模な輪郭式平城で、別名「霞ヶ城」と呼ばれている。初めて山形城を築いたのは、延文元年（1356年）に羽州探題として山形に入部した斯波兼頼といわれている。斯波氏（後に最上氏を名乗る）は、山形において周囲の領主と養子縁組や姻戚関係を結ぶことで勢力を拡大していく。

初代兼頼によって築かれた山形城は、後世の山形城の本丸ぐらゐの広さであったと推定され、村山盆地に散在する城館ほどの小規模なものであった。現在のように大規模に改修されたのは、11代当主最上義光の時代で、最上氏の版図は最大となる。特に慶長5年（1600年）の出羽の関ヶ原合戦と言われる出羽合戦の恩賞で、それまで山形周辺の石高20万石を支配するにすぎなかつたのが、新たに最上地方や庄内地方も支配下となり石高57万石（実質石高は100万石）の大大名となる。

山形城の改修工事が行われたのは、16世紀末から17世紀初めごろのようである。実際に文禄元年（1592年）、朝鮮出兵のため肥前名護屋に出陣していた最上義光が、家臣に城の普請について指示している書状が残されている。この改修工事によって、本丸（東西144m、南北133m）、二の丸（東西433m、南北474m）、三の丸（東西1553m、南北1617m）と同心円状に三重の堀を構えた輪郭式城郭となる。当時の絵図面によると、本丸には義光が居住し、二の丸・三の丸内には一族や重臣などの上・中家臣の屋敷が置かれていた。特に十一口の出入門付近には、重臣を配して城へ出入りする人々の管理を行わせていたようである。

三の丸外の南・東・北の三方に城下町が建設された。城外は大別して武家屋敷と町屋敷に分かれ。武家屋敷は三の丸の東側に下級家臣團の屋敷が配置された。町屋敷は、羽州街道沿いに市日名のつく市場町と、看町や旅籠町などの交通運輸の町、銅町や鍛冶町などの職人町が配置された。山形城外の商工業の中心地は、こうした町割に基づいて形成された。

II 遺跡の概要

最上氏は義光の死後、元和8年（1622年）に最上家中の御家騒動で改易を受け、代わって譜代大名の鳥居忠政が石高20万石で入部することとなる。忠政は最上氏時代の繩張り図をもとに本丸・二の丸の大改造を行っている。現存する二の丸堀は、鳥居氏の時代に築かれたものである。しかし、鳥居氏の後に石高20万石で入部した保科正之が奥州会津に移ってからは、計10氏もの領主が山形藩への入部・転封を繰り返すこととなる。それに伴い山形藩の石高も減少していく。明和4年（1767年）に入部した秋元氏は、18世紀後半に山形城の改修を行い、二の丸大手門の東方に「新御殿」を建設し自ら居住する。また三の丸東側には侍長屋を建設する。しかし最後の藩主である水野氏時代には、わずか5万石と最上氏時代の10分の1以下となり、これにより最上氏時代に造られた広大な山形城を維持していくことは困難となり、城の東側の大手門や商業地以外の三の丸内はほとんどが畠となつたようである。

明治維新以後山形城は廃城となり、三の丸堀が次第に埋め立てられていく。明治期には東半はほとんど埋め立てられた。明治29年（1896年）には、本丸・二の丸跡に大日本帝国陸軍歩兵32連隊が置かれ、終戦まで利用されている。

今回調査を実施した地点は錦口から小橋口の間の部分で、ちょうど三の丸堀が北西側へと屈曲する手前の部分である。「最上家在城諸家中町割図」では、調査区に6名の武家屋敷の記載がある。この中で分限帳で確認できたのは、「小（北）櫛大学」と「佐竹庄（彦）八」の2名である。前者は、「最上義光分限帳」と「最上家中分限帳」で、後者は「最上家中分限帳」で確認できた。それぞれ石高300石と650石で召抱えられていることが確認された。他の4名は分限帳において確認することができなかつた。調査区付近に「一ト通」という名の通りがある。その由来は、最上義光の時代に「岡一ト齊」という伯樂（馬などを診る医者）が30石の知行を与えられ居住していたところから名づけられた地名である。

3 基本層序

第4次調査区の地表面の標高は、東端付近で136.9m前後、西端付近で134.6m前後を測り、概ね東から西に約2.3mの比高差をもつて低くなっている。そのため、

東側1区～5区までの調査区は、各層ともほぼ平らに堆積しているが、西側の6区～9区調査区は全体的に掘り込みが深くなり、各層の検出面は一律でなく複雑な様相を呈している。また、調査対象地は民家の敷地であったこともあり、建物基礎部分や水道管、ガス管等が埋設されて、表土付近はかなりの範囲で搅乱されていた。遺構確認面までの深さは、58～95cmであった。

遺跡の基本層序は、概ね以下の土質による。

I. 建物建設の際の搅乱や現代の盛土層

II. 近代の整地層

III. 近世の整地層

IV. 旧河川の堆積層

V～VII. 近世の自然堆積層

各層とも、黒褐色系の堆積土が基本であり、若干の砂礫、炭化物等の混入が見られるものの、ほぼ均質である。以下、各層を詳述する。

I層は、建物の造成に伴い基礎工事の礫・砂利・砂などの搅乱、盛土が中心である。特に5～8区は破壊されたコンクリート等を含む土層で、重機による点圧のため、非常に硬くしまつている。

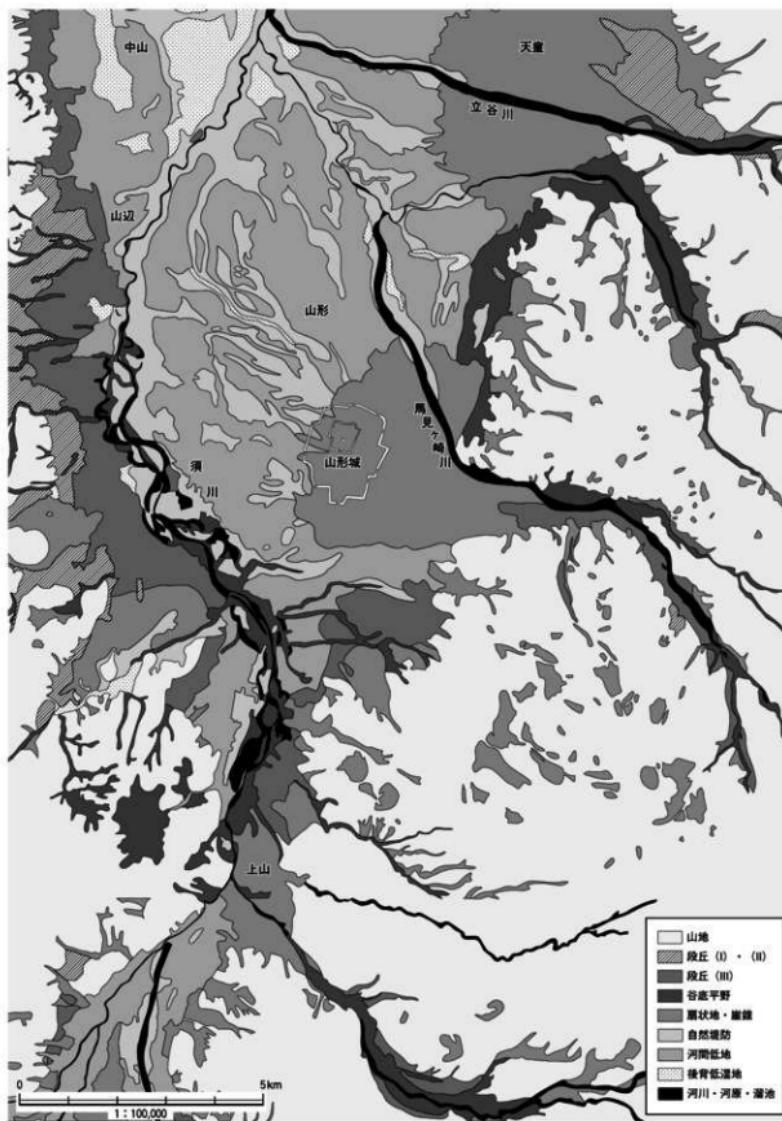
II層は、近代以降と推定される整地層で、ほとんどの調査区で炭化物や焼土が含まれ、堆積状況から明治期の火災の跡と思われる。7区では、近代と思われる瓦器や陶磁器が出土した。

III層は、近世の層で江戸時代の整地層と思われる。7区では、三の丸時代の瓦が大量に出土している。古絵図面から武家屋敷があった場所であり、屋根瓦に使用されたものと思われる。8・9区では、旧河川の流れ込みにより粗砂と小礫を含み、奈良平安期の土師器と須恵器の破片が出土した。

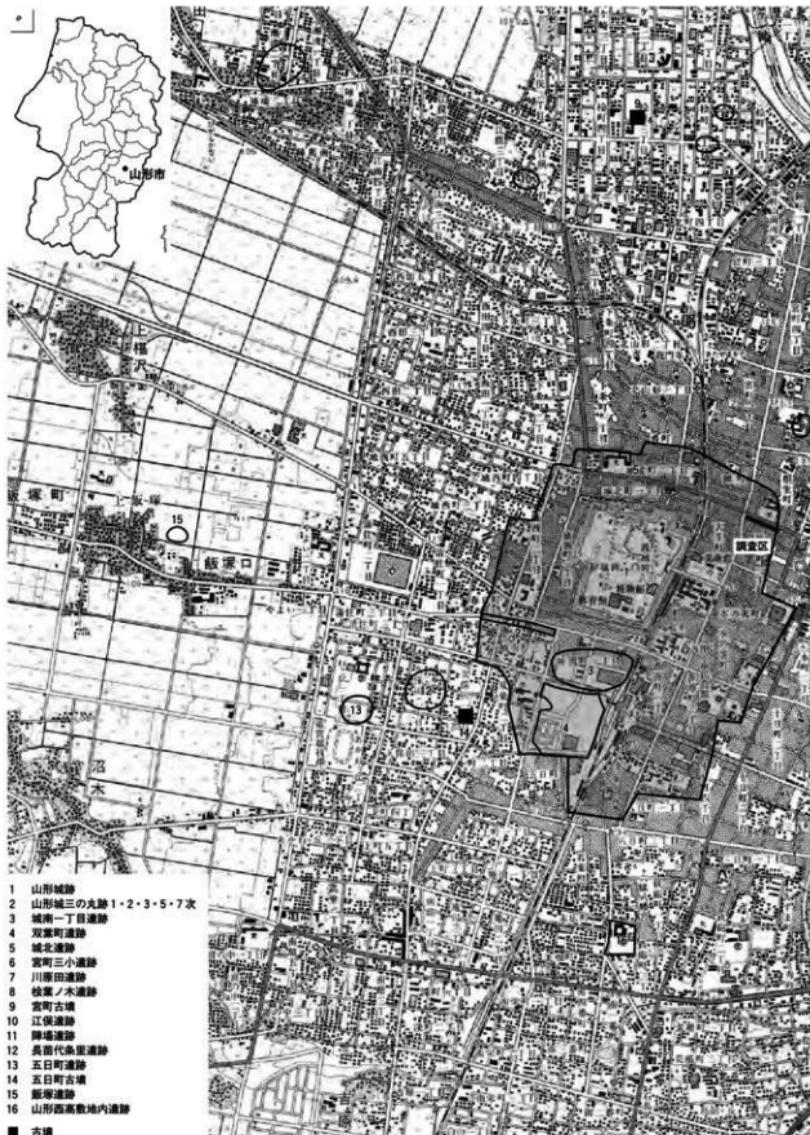
IV層は、2区と3区の東側の土層で検出され、粗砂や小礫が大量に含まれていることから、この場所に水路などの何らかの流路があったと考えられる。

V～VII層は、近世の自然堆積土。粘性があり、かたくしまる。それぞれこの上面で近世の遺構が確認された。

第6次調査区は土塁跡・堀跡を含み、第4次調査区の基本層序とは若干様相を異にする。1区のI・II層と2区のI～IV層は現代の整地層で4次のI層にあたる。2区のV～VII層は炭化物を多量に含み、明治期に発生した火災後の整地層と思われ4次のII層にあたる。



第1図 地形分類図



第2図 遺跡位置図（国土地理院発行2万5千万分の1地形図「山形北部」・「山形南部」を使用）

III 調査の成果

1 第4次調査

1区

東西約14m、南北約9.5mの範囲で掘削を行った。一部擾乱が見られるが、検出状況は良好である。地表面から遺構検出面（IV層）までの深さは約58cmである。

検出された遺構は、土坑14基、ピット43基、溝跡7条、性格不明遺構4基である。ピットは東側に集中して見つかり、柱穴の構成状況から掘立柱建物跡の存在が推定される。炭化物を含む土坑や、一辺約1.2mの石組の遺構が検出された。遺構からは土師器・須恵器の小破片が出土するが、多くは流れ込みの可能性が高い。

出土遺物は1~19の19点を掲載した。1・8はピット、2・5・12は溝跡、7・9・16・17は土坑、15・18は性格不明遺構から出土した。その他は遺構外出土である。1は返りを有する須恵器の壺蓋で、7世紀末から8世紀初頭の所産と推定される。2は須恵器の高台付壺、5は須恵器の壺で、8世紀後半から9世紀初め頃のものと思われる。12は青花の角形皿である。7・9は同一遺構から出土し、7は土師器の壺、9は錫蓮弁文をもつ青磁碗の破片である。8は関東系土師器の壺で8世紀前半の所産と思われる。遺構外出土遺物は、3が須恵器の壺、4が須恵器の壺、6が土師器の小型壺である。10は肥前陶器の皿で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。11は肥前磁器の段重の蓋で、19世紀初めの所産と思われる。13・14は型打皿で瀬戸美濃産と考えられるが、13には目跡が残る。15・16は黒色の平瓦である。瓦は1区と7・8・9区で大量に出土した。ほとんどが三の丸時代の近世の瓦である。17・18は金属製品の和釘で頭部が残る。金属製品はすべての区から出土した。特に四角い断面をもつ日本古来の和釘が多く出土し、何らかの建築物の存在が推定される。19は中国明の「宣徳通宝」で、調査区東端から出土した。銭貨は第4次調査全体で9点を図示した。

2区

東西約12m、南北約10mの範囲で掘削を行った。中央

部付近にマンホール設置等による擾乱が見られる。地表面から遺構検出面（VI層）までの深さは約95cmである。

検出された遺構は、土坑14基、ピット50基、溝跡3条、性格不明遺構3基である。ピットは概ね浅く、覆土は粗砂・小砾を含んでいる。調査区の南側では長さ8m、幅1.5mの落ち込みが見られ、砂礫層であることからこのあたり一帯が近世の川跡だったと推定される。東側1区との境界にあるS X2054と南側に連続するS X1055の性格不明遺構には直径10~20cmほどの礫が集中している。河川の流路に伴い堆積したものと思われる。

出土遺物は20~32の13点を掲載した。21・27・31がピット、25が溝跡、20・24・26・30・32が性格不明遺構からの出土で、それ以外は遺構外出土である。1区同様土師器・須恵器の出土は流れ込みの可能性が高い。21は土師器の有段壺で、内面に黒色処理が施されている。27は陶器の脚部で、器種は不明である。31は波来錢で熙寧元宝である。25は天目茶碗の破片で、中世のものと思われる。24は肥前陶器の皿、30は釘、32は永楽通宝で、S X2054から出土した。20は須恵器の大型の壺の破片で8世紀のものと思われる。26は在地産の染付の碗である。遺構外出土遺物は、22が土師器の長胴壺で、底部に木葉痕が認められる。23は瀬戸美濃陶器の折縁皿の破片で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。28は円盤状石製品で中央部が穿孔される。29は煙管の吸口部分である。

3区

東西約10m、南北約9mの範囲で掘削を行った。西側は建物基礎による擾乱のため、遺構は確認できない。地表面から検出面（VI層）までの深さは、約70cmである。

検出された遺構は、土坑13基、ピット36基、溝跡5条で、このうち柱穴と思われるピットは15基である。全体の規模や形は不明だが、掘立柱建物跡（S B3101・3102・3103）を3棟検出する。北西方向に主軸を持つ建物がわずかに位置を変え、2度の建て替えを行っている様子がうかがえる。南東側から北西側に向かい砂礫層が広がり、S K3046土坑を切っている。南側のピットでは河川

Ⅲ 調査の成果

による浸食が見られる。東側の1・2区では砂礫層の上に遺構が見られ、3区は1・2区より早く砂礫が流れ込み堆積したと推定される。また東側遺構検査面の下層から南北に直径10~20cmの集石が検出された。

出土遺物は33~43の11点を掲載した。遺構内からの遺物として、S K3049土坑とS D3035溝跡から古代の遺物が多く出土した。33・37・38がS K3049出土で、33は須恵器の壺蓋、37は土師器の高台壺、38は土師器の壺である。土師器はどちらも内面が黒色処理されていて年代は37が9世紀前半、38が8世紀中頃と考えられる。34~36はS D3035から出土した。いずれも須恵器の壺で破片の調整や色調から同一個体と推定される。同じ遺構から永楽通宝14枚(43)が発見されたまま出土した。40・41は土坑からの出土である。40はかわらけの灯明皿で、口縁部から内面上部にかけて煤が付着し、黒く変色している。遺構外ではあるが、同じかわらけの灯明皿39が付近から出土している。41は肥前陶器の皿で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。42は遺構外の遺物で、肥前磁器の香炉と考えられる。年代は17世紀半ばから18世紀半ばの所産と思われる。

4区

東西約14.3m、南北約11.7mの範囲で掘削を行った。東側約4分の1と西側の一部は建物基礎による擾乱のため、遺構は残っていない。地表面から遺構検査面(VI層)までの深さは約64cmである。

4区にも全体の規模は不明であるが、3棟の掘立柱建物(S B4101・4102・4103)が想定される。3棟ともほぼ同じ場所にあり、建て替えしたものと考えられる。また、主軸方向や建て替え状況など、3区の建物跡との共通性も認められ、関連がうかがえる。建物跡周辺の土坑やピットには、焼土や炭化物を多量に含むものが多く、火災にあった可能性も推測される。検出された遺構は、土坑24基、ピット34基、溝跡4条で、このうち柱穴と思われる土坑、ピットは23基である。柱穴の深さは、3棟とも40cm~60cmの間でほとんどは底部から大量の礫が出土し、敷石・根固め石として使用されたものと思われる。特にS K4002は根固め石が現状のままで検出されており、柱を抜き取った後そのまま放置されたものと考えられる。S B4101の掘立柱建物構成柱穴となるS K4048・S P4045・S P4043・S P4040・S P4037はS P4043~

S P4040間が約1.5mをのぞいて約2.4m間隔であり、S P4037の東にはS K4002が約2.4mの間隔で並ぶ。S B4102掘立柱建物構成柱穴となるS P4046・S P4044・S P4042・S P4038は約2m・1.2m・2mの間隔で並ぶ。さらにS P4042の東にはS P4032・S P4064・S P4011が1.6m・2m・2m・2.4mの間隔で、S P4038の東にはS P4034・S P4063・S P4007が約1.2m・2m・2.4mの間隔で並ぶ。S B4103掘立柱建物構成柱穴となるS P4047・S P4026・S P4027・S P4029・S K4033は約1.5m・1.2m・1.5m・2.4mの間隔で並ぶ。S K4033の東にはS P4005・S P4008が1.2m・2.4mの間隔で並ぶ。これらの事からS B4101は、南北4間×東西1間以上、S B4102は、南北2間×東西3間以上に1間の庇付き、S B4103は、南北4間×東西2間以上の掘立柱建物が想定されるが、調査範囲に制限があり詳細の確認には至らなかった。

出土遺物は、44~68の25点を掲載した。45・46・53は建物を構成するピット、土坑内から出土した。45・46は須恵器の壺で、8世紀中頃の所産と考えられる。53は瀬戸美濃の天目茶碗で、16世紀後半の所産である。47・49もピット出土で、47は須恵器の瓶である。49は土師器壺の体部で、継ぎ目の加工痕が明確に残る。50~52・62・63・68は土坑から出土した。50は壺形系陶器の鉢、51は須恵器系陶器の擂鉢である。擂鉢は擂り目から13世紀~14世紀の所産と思われる。52は肥前陶器の皿で、同じ遺構から両端が細く尖った棒状鉄製品68が出土した。62は中央部が窪んだ円形の石製品で、遺構外出土の61はこれに類似する。63は中央部窪孔の円盤状石製品である。54・55・58・64は溝跡出土である。54は青磁の碗で、13世紀の所産と思われる。同じ遺構から、肥前陶器の小形の瓶58と漆を漬すのに使われる和紙の漆滌64が出土した。55は青花の端反皿で、15世紀~16世紀の所産と思われる。以下は遺構外の遺物で、すべてV層から出土している。44は須恵器の壺蓋で、8世紀中頃の所産と思われる。48は土師器壺で底に木葉痕が残る。56は肥前磁器で段重の蓋、57は在地産の陶器で鍋、59は器台形土製品で、径1.5cm程の孔が開けられている。60は山文軒丸瓦で、「山形」の地名か「山形城」の名称を表していると考えられる。

5区

東西約12m、南北約7.6mの範囲で掘削を行った。中

央部約3分の1は排水パイプ、水道管など近現代の埋設物が多く、遺構の遺存状況は良くない。地表面から遺構検出面（V層）までの深さは約78cmである。

検出された遺構は、土坑12基、ピット16基、溝跡2条である。S D5005（a・b・c）は、幅約2m、最深約2m、長さ約10mまで検出した。出土遺物は、69～76の8点を掲載した。69・75・76が溝跡S D5005、72・74が土坑から出土した。69は青磁碗で15～16世紀の所産と思われる。75・76は釘である。74も釘で、72は砥石である。以下は遺構外出土で、70は15～16世紀の青磁碗、71は肥前磁器の合子蓋、73は煙管の吸口である。

6区

市道錦口北小路線を挟み、調査区を東西に二分して調査を行った。西側部分は、東西約7.1m、南北約8.5m、東側部分は、東西約2.2m、南北4.3mの範囲で調査した。西側部分の南側約3分の1は建物基礎により深い地點まで搅乱がおよんでいるが、土坑等の遺構が検出された。覆土の状態から三の丸の時期と判断される。西側部分の北側と東側部分については古代の遺構が主体である。地表面から遺構検出面（VI層）までの深さは約80cmである。

検出された遺構は、土坑22基、ピット16基、溝跡6条、竪穴住居跡2棟（S T6002、S T6016）である。検出されたピットのうちS P6048はS T6002の、S P6006はS T6016の遺構内柱穴と考えられる。竪穴住居跡は、2棟とも調査区際での検出で、S T6002は搅乱に南側を切られているが、一辺が約3mの方形と考えられる。S T6002は深さ約10cm、S T6016も深さ約10cmで貼り床がなされ、いずれも奈良時代の竪穴住居跡と考えられる。S T6002からは土師器の高坏82が、S T6016からは土師器の坏87が出土している。また2棟の竪穴住居に挟まれた溝（S D6001）からも同時期と考えられる土器が多く出土しており、一帯で古代の集落が営まれたと考えられる。

出土遺物は77～117の41点を掲載した。S D6001からは多数の遺物が出土し、8世紀前半の所産と考えられる須恵器の坏蓋（80）、土師器坏（84・93～97）、土師器の壺（104）がある。土師器坏には、有段坏（84）や、内面を黒色処理したもの（93）が見られる。この他にも、ピット、土坑、溝跡などから遺物が出土している。77・

78・79は遺構出土であるが、縄文時代後期の深鉢の破片で流れ込みと考えられる。81は須恵器の高台坏、82は土師器の高坏脚部、83は当初古代の遺物と考えたが古代のものではない。85～90は土師器の有段坏で内面が黒色処理されている。98・100・101・103は土師器の長胴壺である。105は陶器と考えられる。106・107・108はかわらけ、112は陶磁器の焼成に使用される焼台、114は七輪のミニチュアで子どもの遊び道具と思われる。116は煙管の吸口である。以下は遺構外の遺物で、91・92は土師器の坏で、92は内面を黒色処理されている。99・102は土師器の長胴壺、109は香炉か。110は在地産の土瓶、111は肥前磁器の仏花瓶で19世紀後半以降の所産と思われる。113は焼台、115は円盤状石製品で、117は煙管の吸口である。

7区

東西約18m、南北約9mの範囲で掘削を行った。調査区中央にコンクリート堀の基礎が残るため、東西に二分して調査を行った。東側部分は、東西約10m、南北約8.8m、西側部分は東西7.3m、南北9.2mの範囲で調査した。東西とも南側に深い搅乱がおよんでいるが、北側は比較的安定している。地表面から遺構検出面（VII層）までの深さは約75cmである。

検出された遺構は、土坑32基、ピット21基、溝跡9条、性格不明遺構2基、竪穴住居跡5棟（S T7001～7005）である。遺構は全体的に掘り込みが深く、特に土坑は深さ50cmを超えるものが多い。竪穴住居跡は、重複が著しく全形等、不明な点が多い。6区から7区の東側部分までは古代の遺構が多く認められるが、7区西側部分の遺構の多くは、近世の土坑やピットである。西側中央部で検出された長さ4.5m、幅1mの南北の石積み遺構（S X7047）には多量の近世瓦が混入していた。三の丸時代のものと見られ、8・9区でも同様の瓦が出土したことから、当地区に瓦葺きの建物が想定される。この地点は三の丸内であり、瓦屋根の建物という点を考慮すると武家屋敷跡と推定される。

出土遺物は整理箱6箱におよぶ。そのうち118～174の57点を掲載した。古代の遺物として、S T7001から出土した9世紀末の横瓶の破片（128）の他、8世紀前半の所産と思われる須恵器の坏蓋（118）、高台坏（122）、坏（123）、9世紀前半の須恵器の坏蓋（119・120・121）、

Ⅲ 調査の成果

壺(124)、瓶(126)が出土した。130・133は土師器の壺で、130は8世紀前半所産の関東系土師器と考えられる。131は土師器の有段壺で131と133は内面黒色処理されている。134・135・136は土師器の長胴壺、137は8世紀の所産と思われる土師器の長胴壺である。古代の遺構外出土遺物は、125・127が須恵器の甌、129が土師器の高壺、132が土師器の壺、134が土師器の長胴壺、138は土師器の甌である。近世の遺物はS X7047から大量の黒色瓦、陶器、石製品が出土しており、154・156は唐草文軒平瓦、160は連珠三巴軒丸瓦、162は丸瓦、140は17世紀前半の所産と思われる瀬戸美濃の折縁皿、165は砥石、166・167は温石である。その他の遺構出土遺物として、141は16世紀後半の所産と思われる瀬戸美濃陶器皿、144は16世紀末の肥前陶器皿で内面に胎土目が残る。147は肥前陶器の瓶類、150は在地産擂鉢、152は瓦質土器の火鉢、157は裏面に縱横の線刻を施した唐草文軒平瓦、164は石鉢、170は鉄製品であるが用途不明、172・173は釘、174は永楽通宝である。遺構外で出土した遺物として、139はかわらけ、142・143は18世紀初めの肥前陶器で143は向付、145は瀬戸美濃磁器の端反碗、146は肥前磁器の碗、148是在地産の香炉、149は肥前磁器の銷唐草文の仏花瓶、151は17世紀前半の所産と思われる瓦質土器の火鉢、153は同じく瓦質土器の七輪、155は唐草文軒平瓦、159は18世紀前半の赤瓦である。赤瓦は、黒瓦に比べ水を吸わないため耐久性がよいとされた。161は黒瓦の丸瓦である。163は増堀か取瓶と考えられ高温で被熱した痕跡がある。168は円盤状石製品で16世紀末から17世紀初めの出土例がある。169は鎧の付着が著しく原型の推定が難しいが、鉄製の短刀と考えられ、長さ295mm、刃渡り推定225mm、厚さ4.5mmを測る。年代は不明である。171は煙管の吸口である。

8区

東西約6m、南北約9mの範囲で掘削を行った。調査区の北半分程から整地層と考えられる面を検出。南側は後世の掘削により失われているが、遺構は確認できる。地表面から検出面(VII層)までの深さは約80cmである。

検出された遺構は、土坑12基、ピット17基、溝跡3条、性格不明遺構1基、河川跡が1条である。調査区北東側で検出された溝跡S D8005の下層から、旧河川を検出した。深さは約1.5m、幅は4m以上と推測される。

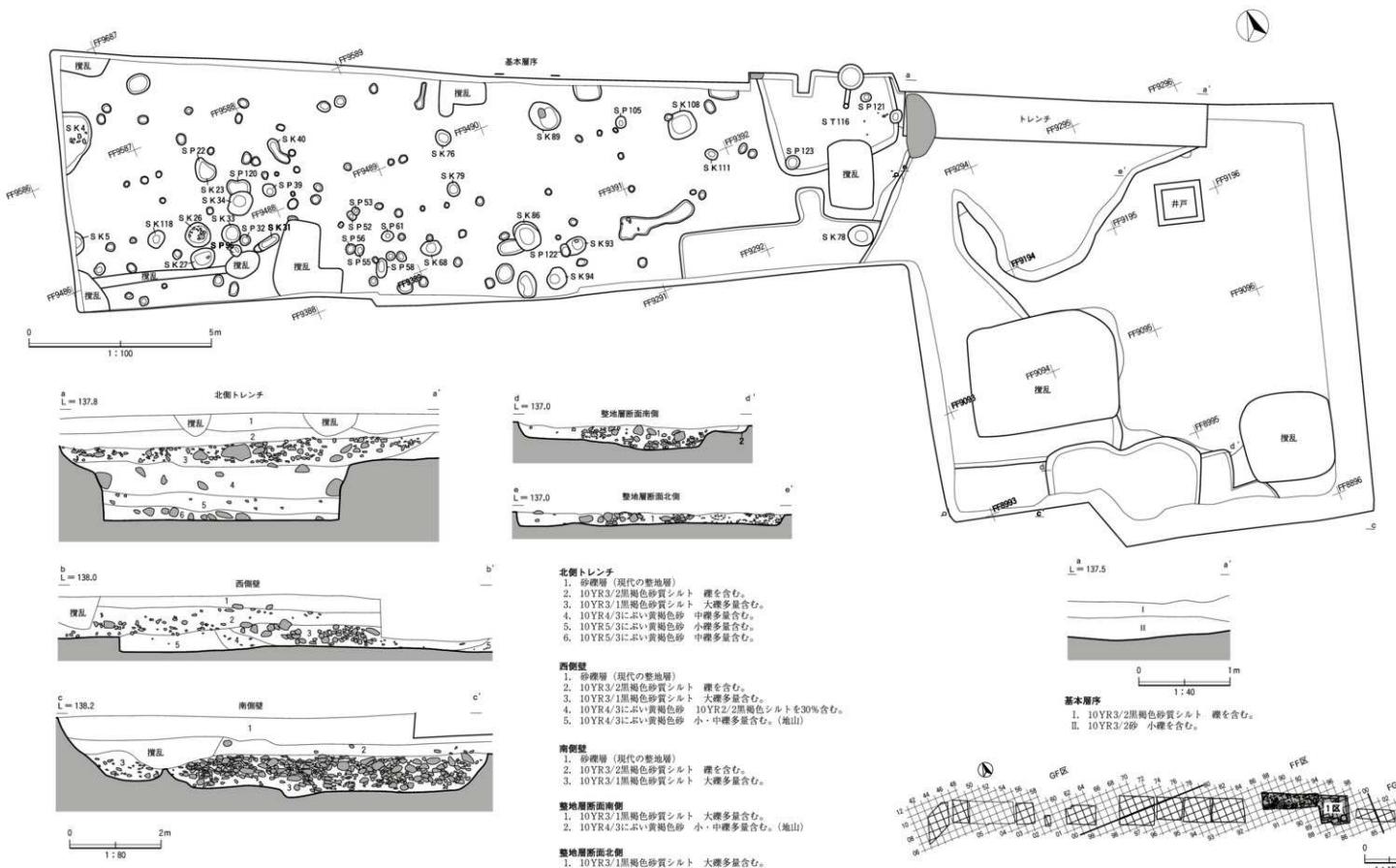
旧河川からは土師器、須恵器の小破片が出土する。調査区北半分の土坑の多くは炭化物・焼土粒を1~3層に含んでいる。

出土遺物は175~225の51点を掲載した。古代のものがわずかに見られるがほとんどが近世以降の遺物である。SK8008からは9世紀前の所産と思われる須恵器の高台壺(175)、かわらけの甌(180)、中砥と思われる砥石(211)、中央部が円形に窪んだ石製品(216)、金属製の煙管の吸口(217・218)、和釘(221)が出土した。その他の遺構から出土した遺物で、176は8世紀後半の所産と思われる須恵器の有段壺、177は8世紀前半から中頃の所産と思われる内面が黒色処理された土師器の壺、181は胎土目が残る16世紀末の肥前陶器の甌、182・183は瀬戸美濃の志野皿、184は肥前陶器の碗、185は17世紀前半の肥前陶器の溝縁皿、186は17世紀前半の瀬戸美濃陶器の織部の茶碗、202は陶器の瓶、208は丸瓦、212・213は碁石と思われる円盤状石製品、215は硯、219・220は和釘、223は銭である。北東角の遺構からは、在地産陶器の皿(187・188・189)、碗(190)、鉢(191)、油徳利(203)、在地産磁器の型打皿(198・199)、碗(195)、会津本郷産の陶器の仏飯器(201)、18世紀中頃と思われる肥前磁器の蓋(192)、18世紀末から19世紀初頭の所産と思われる瀬戸美濃磁器の碗(196・197)、蛇の目凹形高台を持つ18世紀後半の肥前磁器の皿(200)、砥石(209・210)、赤瓦の平瓦(205)、金属製品の簪(222)、洪武通宝(224)が出土した。遺構外から出土した遺物として178は土師器の長胴壺、179は9世紀中頃の土師器の壺、194は瀬戸美濃磁器の碗で19世紀中頃の所産と思われる。204は焼成に使用される焼台、206は黒瓦の連珠三巴軒丸瓦、207は赤瓦の連珠三巴軒丸瓦、214は円盤状石製品、225は、漆器の碗だが年代は不明である。

9区

東西約10.5m、南北約10mの範囲で掘削を行った。調査区の西端で、以前駐車場だったため基礎等の擾乱が多く見られる。地表面から遺構検出面(VII層)までの深さは約90cmで、I層とII層は敷地造成用の盛土である。

検出された遺構は、土坑18基、ピット14基、溝跡9条、性格不明遺構4基である。柱穴の他に方形や精円形を呈する大型の土坑が検出された。概して掘り込みが深く、60~70cmの深さを持つ遺構が多い。本区から多く



第48図 第6次調査1区全体図・層序

の瓦が出土しており、瓦葺きの建物が想定される。遺物は北側で土師器・須恵器など古代の遺物の出土が多いが、明確に古代の遺構と判断されるものはなく、三の丸造成時の混入と考えられる。南側は近世の遺物が多い。

出土した遺物は226~276の51点を掲載した。注目すべき遺物は遺構から出土した平安時代の平瓦258・259である。凹面に布目痕を残す。226は8世紀の所産と思われる須恵器壺の肩部分、227は須恵器の高台壺、228は8世紀中頃から後半の所産である須恵器の壺、229・230は9世紀中頃から後半の所産である須恵器の壺、231・232は9世紀後半所産である内面が黒色処理された土師器の高台壺、234は9世紀中頃から後半の所産である土師器の長胴壺、235は9世紀後半所産の土師器の長胴壺、236はかわらけの皿である。244は16世紀末の所産と思われる胎土目が残る肥前陶器の皿、247は蛇の目四形高台を持つ在地産磁器の皿、250は19世紀初頭以降の瀬戸美濃磁器の徳利、251は瀬戸美濃磁器の小徳利、255是在地産と思われる壺である。237はかわらけの皿である。238・239は16世紀後半所産の瀬戸美濃陶器の折線皿である。241は16世紀末から17世紀初頭にかけての肥前陶器の向付である。242・243は18世紀初頭の肥前陶器の皿である。243には内面に胎土目が残る。246は19世紀以降の瀬戸美濃磁器の小杯である。256は瓦質土器の鉢である。269・270は石鉢である。272・273・274はそれぞれ金属製品の刀子、和釘、環状金属製品である。遺構外の遺物としては、233は土師器の長胴壺、240は16世紀末所産の肥前陶器の皿、245は19世紀中頃から後半の所産と思われる瀬戸美濃磁器の碗である。248・249は瀬戸美濃磁器の型打皿である。252・253是在地産の擂鉢、254は17世紀前半所産の備前産の擂鉢である。257は瓦質土器の羽釜である。260~267は同じ層から出土した瓦である。260は黒瓦の唐草文軒平瓦、261は文様は不明であるが赤瓦の軒平瓦、262は黒瓦の平瓦、263・264は黒瓦の丸瓦、265・266は赤瓦の丸瓦、267は装飾瓦の一部と推定される。268は石鉢である。271は石製品の硯で年代は不明である。275は寛永通宝の破片である。

2 第6次調査

1区

東西約35m、南北は西端約7m、東端約11mのL字形の範囲で掘削を行った。一部に擾乱が見られるが、遺構の検出状況は良好である。地表面から遺構検出面までの深さは約42cmである。遺構は主に調査区西側で検出され、堅穴住居跡1棟（S T116）と多数の土坑、ピットが確認された。土坑、ピットは近世の遺構と推定される。ピットは集中して見つかり、その構成から掘立柱建物跡の存在が推定されるが、確定には至らなかった。

S T116は一部、擾乱が床面に達しているが、比較的良好な状態で検出された。東西約3.5m、遺構北側は調査区外に伸びている。深さ約16cmで、貼り床は認められず、床面からE P121・123が検出された。E P121・123は柱穴とも考えられるが、E P121は直径約28cm、深さ約11cm、E P123は直径約38cm、深さ約9cmとやや浅い。S T116覆土中には、須恵器片、土師器片が見られ、8世紀前半のものと推定される須恵器の高台壺（281）、壺（283）が出土した。隣接するトレンチからも同時期と考えられる須恵器の壺（282）、蓋（280）が出土している。

調査区東側は遺構の空白域で、近代の井戸と、整地層と考えられる不定形の礫層が認められるのみである。この空白域は幅約13mで、S D202堀跡と隣接する位置関係にあることから土塁跡と推定され、整地層は土塁廃絶時のものである可能性が考えられる。

1区の出土遺物は277~352の76点を掲載した。277~283が須恵器、284が土師器、285・286がかわらけ、287~321が磁器、322~325・339~341が陶器、326~331が瓦質土器、332~338が瓦、342が土製品、343~347が石製品、348~352が金属製品である。東側整地層からの出土が多く、遺構出土の遺物はS T116の須恵器2点と、S K98の寛永通宝（352）のみで、その他は粗掘時の検出遺物である。352は写真のみ掲載した。

整地層から出土した遺物は、279・285・289・292・294・296・298・300~304・306・310・312・315・317・318・321~324・326・332・334・336・337・339・341・343・347の計31点である。須恵器は8世紀前半のもので、流れ込みと考えられる。かわらけは灯明皿で、煤の付着が見られる。陶磁器類は19世紀前半のものが主体

Ⅲ 調査の成果

で、碗蓋、碗、皿、猪口などの食膳具類が大半を占める。289・294・298・302~304・310・312・315・317は肥前磁器で、315・317は同一個体の鉢と考えられる。296・300・301・306・318は瀬戸美濃産の磁器である。292・321は在地産と考えられる。322~324は灯火具の秉燭、339は素焼きで皿状を呈し、複数の穴が開けられているが用途は不明である。341は陶磁器の焼成に使用された焼台で、製品とともに持ち込まれたものと推測される。326は瓦質土器の火鉢である。瓦は332が平瓦、334が連珠三巴文の軒丸瓦、336・337が丸瓦である。343は石鉢、347は風間産の砥石である。

粗掘時の遺物は、277・278・284・286~288・290・291・293・295・297・299・305・307~309・311・313・314・316・319・320・325・327~331・333・335・338・340・342・344~346・348~351の40点を掲載した。須恵器・土師器は8世紀前半のものと考えられる。陶磁器は、主に19世紀代の所産と考えられ、多くが食膳具類である。287・288・291・293・295・297・299・308・309・311・313・314・316が肥前磁器、290・305・307・319は瀬戸美濃産である。320・325は在地産と考えられる。340は焼台である。瓦質土器はいずれも火鉢と考えられるが、329は香炉の可能性がある。瓦は333が赤瓦、335は連珠三巴文の軒丸瓦である。342は土製の賽子、344は石臼、345・346は砥石で、風間産と考えられる。いずれも石材採取時の工具痕が認められ、345は近代のものと推定される。金属製品は348が火箸、349が鍔、350が煙管、351が寛永通宝である。

2区

調査区は東西約16m、南北約5mで、地表面から遺構検出面までの深さは最大で約165cmである。三の丸堀と考えられるSD202と土坑1基(S K204)が検出された。

S K204は径約140cm、深さ約70cmの土坑である。SD202東岸の石組4の下で検出され、堀が機能していた段階で掘られた土坑と考えられる。出土遺物は497~501の5点を掲載した。497は19世紀初頭の肥前磁器の碗である。498は土製品で、ミニチュアと考えられる。499は丸瓦、500・501は用途不明の石製品で、中央部に窪みを持つ。この他に赤色の漆器碗が出土している。

SD202は幅約8.5m、深さは最大約3.8mで、調査区を南北に横切っている。西側が城内、東側が城外にあた

り、東側岸に護岸のためと考えられる石組が確認された。石組は1~6まで確認でき、少なくとも5回の補修が行われている。初期の石組5からは17世紀前半の遺物が検出されており、17世紀代には護岸がなされていた可能性が高い。この時期の堀の深さは最大でも1.7m程度で、1~18層がこの時期に当たる。その下には短期間に堆積したと考えられる砂層19~25層が確認され、砂層下には東岸の崩落層と考えられる27~32層が確認された。最下の33層は泥層で初期の堀底の堆積層と考えられる。遺構の様相から、堀は当初4m近い深さを持っていたが、短期間に砂で埋まり、その後元の深さに復旧されることなく廃絶となったことが窺われる。砂の堆積層については、元和9年(1623年)の馬見ヶ崎川の洪水により山形城の外堀が破損していることから、このときに流れ込んだものである可能性が考えられる。

遺物は2・3・7~13・15・17・19・20・22層、石組1・4・5から出土しており、砂層堆積後の1~18層の間で多く検出されている。2層出土の遺物は353~368の16点を掲載した。主体は陶磁器で、353・354が肥前磁器の碗、355が瀬戸美濃の碗、356が瀬戸美濃の小杯、357~359は肥前磁器の皿、360・361は型打皿で瀬戸美濃産と考えられる。いずれも、18世紀末から19世紀の所産である。362・363は在地の陶器で、362が壺、363が秉燭。364~368は金属製品で、364・365が釘、366~368が寛永通宝と考えられ、366・367は鉄錢である。

3層は369~385の17点を掲載した。369~384が陶磁器で、385は火鉢と考えられる瓦質土器である。369・370・372は大堀相馬の陶器で、碗、香炉、小杯である。369は18世紀前半、372は18世紀後半の所産と考えられる。371は在地産の碗、373が皿である。374~379は磁器で、375・377・378が肥前磁器、374・376・379は瀬戸美濃産と考えられる。374~376は碗でいずれも19世紀代の所産である。377は肥前磁器の皿で、裏面に「一ト」の朱書きがある。378は肥前磁器の八角鉢と考えられる。379は型打皿である。380は擂鉢で、在地産と考えられる。381は肥前陶器の壺で、二彩唐津と呼ばれるものである。382・383は在地産の秉燭、384は在地産の植木鉢である。

7層は多数の遺物が出土し、386~413の28点を掲載した。386は8世紀前半の須恵器で、流れ込みと考えられ

る。387～407は陶磁器類で18世紀末から19世紀にかけてのものが主体となる。387～389・401は陶器で、387が大堀相馬の小壺、388は肥前陶器の碗、389は在地産の鉢である。401は大堀相馬産の徳利と考えられる。390～400は磁器で、390・391は肥前磁器の蓋、392・393は碗で18世紀中頃のものと考えられる。394・395は瀬戸美濃、396・397は在地産の碗である。398は肥前磁器の広東碗で、18世紀末から19世紀初頭の所産と考えられる。399は肥前磁器の皿で、400は在地産の徳利である。402は在地産の秉燭である。403・404は在地産の擂鉢である。405は土師質土器で火鉢、406・407は窯道具の焼台である。408は砥石で、仕上砥と考えられる。409～413は金属製品で、409～411が小型の釘、413は煙管の吸口、412は竈状であるが、用途不明である。

8層は出土遺物414～430の17点を掲載した。時期は19世紀代が中心か。414は流れ込みの土師器で、高壺の脚と考えられる。415はかわらけである。416は瀬戸美濃磁器の小壺で、器厚がごく薄い。417は肥前磁器の碗、418～420は磁器皿で、418が瀬戸美濃産、419・420は在地産と考えられる。421は肥前磁器の角鉢である。422は在地産の擂鉢、423・424は秉燭である。425は泥面子と考えたが、下部に穴が設けられており、別の用途も考えられる。426は焼台である。427～430は金属製品で、427は小型、428はやや大型の釘、429は端がコイル状の金属製品で用途不明、430は鉄錢である。

9層では431～448の18点を掲載した。431がかわらけ、432～444が陶磁器、446が砥石、447・448が釘である。432は瀬戸美濃の陶器碗、433・434は大堀相馬産で433が碗、434が蓋物である。435～440は磁器で、435は瀬戸美濃の端反碗で焼繼がある。436は19世紀前半と考えられる肥前産の段重蓋である。437は肥前磁器の猪口、438・439は皿で438が瀬戸美濃、439が在地産と考えられる。440は肥前産の仏飯器である。441～444は陶器で、441・442が在地産の秉燭、443が益子産の土瓶、444は焼台である。445はミニチュアの土製品である。

10層以下は遺物が少ない。10層は449・450の2点で、18世紀前半と考えられる肥前磁器の碗である。11層は4点で、451～453が肥前磁器、454は火箸である。13層は5点で、455はかわらけ、456・458は肥前磁器で碗と徳利、457・459は在地産の皿と鉢である。15層は2点で、

460が土師器甕、461が在地産の擂鉢、17層は土師器の有段壺462が出土している。460・462は流れ込みと考えられる。19層は陶器3点が出土しており、463・464は在地産の瓶と碗、465は瀬戸美濃産の瓶である。20層ではかわらけの466、22層では16世紀末頃の肥前産陶器皿467が出土した。

石組は比較的の搅乱が少なく、護岸の開始と最終期の年代を窺うことができる。石組1は477～490の14点を掲載した。477～480は陶器で、477は肥前陶器の向付、478は肥前陶器の碗で17世紀代、479・480は大堀相馬の碗と小壺で、18世紀代のものと考えられる。481は肥前磁器の碗である。482～485は瓦で、平瓦、丸瓦がある。486は石鉢、487はおはじき型の泥面子、488～490は金属製品で、488が釘、489が鎧、490は煙管の雁首である。石組4は491・492の2点を掲載した。491は流れ込みの須恵器。492は平瓦である。石組5は護岸の初期段階と考えられ、出土遺物は493～496の4点を掲載した。494・495は瀬戸美濃の陶器で、494が16～17世紀の志野皿、495が17世紀前半の四耳壺と考えられる。493は素焼きの秉燭、496は石鉢である。

他にS D202の出土層不明遺物468～476の9点を掲載した。468が土師器、469・470が肥前磁器碗、471が焼台、472が泥面子、473が毛抜き、474～476が寛永通宝である。476は鉄錢で損傷が激しく写真のみの掲載とした。

この他、遺構外出土の遺物として、502～543の42点を掲載した。502～504は須恵器の蓋と壺、505・506は土師器の甕で8世紀前半のものと考えられる。507～511は磁器碗で、507・508は肥前、509・510は瀬戸美濃産、511是在地産である。513～516は磁器皿で、513・515・516が肥前、517～519は瀬戸美濃産の型打皿、514是在地産で438と同形である。512・520～526は陶器で、512は大堀相馬産の碗、520は在地の鉢皿、522是在地の秉燭、521は醤油徳利で付近の商家越前屋の名入りである。523は関西系、524は肥前系の擂鉢である。525・526は焼台、527・528は瓦、529・530は瓦質土器で529が火鉢、530は五徳か。531は円筒状で開口部を持つ石製品、532～534は砥石、535は硯である。536～543は金属製品で、536～538が釘、539が煙管の吸口、540が筒金具、541～543は銭で541が文久通宝、542・543は寛永通宝と考えられ、543は鉄錢である。

IV 理化学的分析

山形城三の丸跡出土瓦および須恵器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

今回の分析調査では、山形城三の丸跡の第4・6次調査で出土した瓦および須恵器の胎土分析を行い、同時に、山形盆地内に所在する平安時代の窯跡である小松原窯跡および平野山古窯跡より出土した瓦と須恵器の胎土分析も行うことにより、瓦および須恵器の産地について検討を行う。また、山形県内各地の窯跡出土資料の当社による分析例との比較も行い、その産地に関わる資料を作成する。

B 試 料

試料は、いずれも奈良・平安時代のものとされている瓦および須恵器片合計9点である。受領試料には、試料番号1~9までが付されている。試料番号1~3は、山形城三の丸跡第4・6次調査で出土した遺物であり、試料番号1、2が平瓦、試料番号3は須恵器の蓋である。試料番号4~6は、山形盆地南部の山形市松原に所在する小松原窯跡から出土した遺物であり、試料番号4、5が平瓦、試料番号6は須恵器の壺である。試料番号7~9は、山形盆地西部の寒河江市に所在する平野山古窯跡群より出土した須恵器の壺である。各試料の試料番号、出土遺跡名、種別・器種などを一覧にして表2に示す。

表2 試料一覧

試料番号	種別・器種	注記等	出土遺跡	時代	分析	
					薄片	蛍光X線
1 平瓦	S P9023 F 2		山形城三の丸跡	奈良・平安	○	○
2 平瓦	S K9007 F 2		山形城三の丸跡	奈良・平安	○	○
3 須恵器・蓋	S P1050 F 2		山形城三の丸跡	奈良・平安	○	
4 平瓦	S Q 2 H F 4		小松原窯跡	奈良・平安	○	○
5 平瓦	S Q 2 H		小松原窯跡	奈良・平安	○	○
6 須恵器・壺	D 43		小松原窯跡	奈良・平安	○	○
7 須恵器・壺	S Q33 Y		平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○
8 須恵器・壺	S Q33 Y 底下層		平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○
9 須恵器・壺	S Q 4 ⑤		平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○

C 分析方法

当社では、これまでにも山形盆地や庄内平野に分布する古代の遺跡から出土した須恵器の胎土分析を行っている。高温焼成と胎土中の砂粒が少ないという須恵器の胎土の特性により、分析手法は薄片作製観察と蛍光X線分析を併用し、それらの結果を合わせて解析を行っている。本報告においても、瓦試料も含めて同様の分析手法を用いるが、山形城三の丸跡出土の須恵器試料、試料番号3については、破片が少量であるため、蛍光X線分析のみを行う。したがって、薄片作製観察に供する試料は8点、蛍光X線分析は9点である。以下に各手法の処理過程を述べる。

(1) 薄片作製観察

薄片観察は、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報が多い。この情報をより客観的な方法で表現したものとして、松田ほか(1999)の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細繹までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、ここでは薄片観察法による胎土分析を行う。以下に手順を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細繹~中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基

質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

(2) 蛍光X線分析

SiO_2 、 Al_2O_3 、 TiO_2 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の主要10元素および Rb 、 Sr 、 Y 、 Zr 、 Ba の微量5元素について蛍光X線分析法によって分析する。以下に各分析条件を記す。

a) 装 置

理学電機工業社製 RIX1000 (FP法のグループ定量プログラム)

b) 試料調製

試料を振動ミル(平工製作所製 T1100; 10ml 容タンクステンカーバイト容器)で微粉碎し、105°Cで4時間乾燥する。この微粉碎試料についてガラスピートを以下の条件で作成する。なお、胎土表面に塗装または着色が確認される試料については、これらを除去し、試料として供する。

溶融装置；自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ピートサンプラー (3491A1)

溶剤および希釈率；融剤(ホウ酸リチウム)5.000 g : 試料0.500 g

剥離剤；LiI (溶融中1回投入)

溶融温度；1200°C 約7分

c) 測定条件

X線管；Cr (50kV - 50mA)

スペクトル；全元素Ka

分光結晶；LiF, PET, TAP, Ge

検出器；F-PC, SC

計数時間；Peak40 sec, Back 20 sec

D 結 果

(1) 薄片作製観察

結果を表4、第9・10図に示す。砂粒の種類構成を見ると、いずれの試料も石英の鉱物片を多く含み、少量の斜長石の鉱物片を伴う組成を示す。石英と斜長石以外の鉱物片および岩石片の種類構成も、8点の試料においてほぼ同様であり、鉱物片では微量のカリ長石が含まれ、岩石片では、頁岩、珪質頁岩および砂岩の堆積岩類と凝

灰岩および流紋岩・デイサイトの火碎岩・火山岩類が少量または微量含まれ、さらには花崗岩類や変質岩、珪化岩および火山ガラスも微量含まれている。また、試料によっては微化石である植物珪酸体も少量または微量認められた。各試料における各砂粒の量比は異なるが、8点の中で分類できるほどの組成のまとまりは認められない。

なお瓦試料では、試料番号1と4に核結状に濃集する酸化鉄の散在が認められた。また、試料番号2にはカリ長石の溶融と斜長石表面におけるムライトの晶出が認められ、試料番号5においても斜長石表面におけるムライトの晶出と凝灰岩の溶融が認められた。須恵器試料では、試料番号6と7で斜長石のムライト化が著しく認められ、試料番号8では斜長石表面のムライト晶出が認められたが、試料番号9ではこれらの現象は認められなかった。カリ長石の溶融は、焼成温度が1150°C以上で発生し、ムライトの晶出は1200°C前後、顕著なムライト化は1200°C~1250°Cで生じる(五十嵐, 2007)ことから、試料番号2と5の瓦の焼成温度は1200°C前後であり、試料番号1と4の瓦の焼成温度は、それよりも低いことが推定される。また須恵器でも、試料番号6と7の焼成温度が最も高く1200°C~1250°Cであり、試料番号8はそれよりやや低い1200°C前後、試料番号9はさらに低い1200°C未満であることが推定される。なお試料番号9には、花崗岩に微文象状組織を示すものが認められ、珪化岩は緑レン石やセリサイトなどを伴い、火山ガラスのほとんどは平板状のいわゆるバブル型を呈している。

胎土中の砂の粒径組成では、瓦試料4点に共通性は認められず、モードとなる粒径は、試料番号1、2、4、5で順に粗粒シルト、中粒砂、極細粒砂、中粒砂と極細粒砂となっている。須恵器試料では、小松原窯跡出土の試料番号6は中粒砂をモードとするが、平野山古窯跡群出土の試料番号7、8は細粒砂をモードとし、試料番号9は中粒砂をモードとしている。

碎屑物・基質・孔隙の割合では、瓦試料4点がいずれも碎屑物の量比7%前後を示し、須恵器試料のうち、試料番号6~8の3点は約12%、試料番号9は約15%を示す。

(2) 蛍光X線分析

結果を表3に示す。ここでは試料間の組成を比較する

方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した（第8図）。

- a) 化学組成中で最も重要な元素 (SiO_2 , Al_2O_3)
 b) 粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素である CaO , Na_2O , K_2O の3者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合 ($\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O}$) / ($\text{CaO} + \text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O}$) を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合 $\text{K}_2\text{O}/(\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O})$ を縦軸とする。
 c) 嬰石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、 TiO_2 , Fe_2O_3 , MgO を選択し、 Fe_2O_3 を分母とした TiO_2 , MgO の割合を見る。
 d) 各微量元素を選択する。組み合わせは、 Rb - Sr と Zr - Ba とする。また、これらの散布図では、出土遺跡さらに瓦と須恵器で、それぞれ異なる記号で示した。作成した5つの散布図を概観すると、いずれの図においても、瓦試料4点は互いに非常に近接した位置にプロットされていることが確認できる。

須恵器試料では、 SiO_2 - Al_2O_3 、長石類主要、有色鉱物主要元素の各散布図において、小松原窯跡出土の試料番号6が、平野山古窯跡群出土試料の3点から離れた位置にプロットされている。また、長石類主要元素と有色鉱物主要元素の各散布図において、山形城三の丸跡出土の試料番号3が、他の須恵器試料から離れた位置にあることが指摘される。さらに詳細にみれば、平野山古窯跡群出土試料3点の中でも、 Rb - Sr 散布図以外の各散布図において、試料番号7と8の近似性とこれら2点か

らやや離れた位置にある試料番号9という関係が看取される。

E 考 察

今回の分析試料のうち、試料番号4以降の6点は窯跡出土試料であることから、胎土中の砂粒の鉱物・岩石組成は、窯跡周辺の地質を反映していると考えてよい。大沢ほか（1986）や日本の地質「東北地方」編集委員会（1989）などを参照すれば、平野山古窯跡群も小松原窯跡も山形盆地西縁を構成する山地を背後にしているがこの山地を構成する地質の主体は、草薙層や水沢層、本郷層といったいずれも頁岩、珪質頁岩、凝灰岩を主要な構成要素とする新第三紀中新世の堆積岩類である。

また、同時期の流紋岩・ディサイトからなる溶岩も分布している。さらに、これら新第三紀の地質の背後には白亜紀～古第三紀に貫入した花崗岩類の分布も記載されている。このような地質からなる山地の縁辺部に堆積した碎屑物は、上述した各地質に由来する岩石片が混在していることが推定され、それは今回の窯跡試料に認められた岩石組成とよく一致する。なお、同様の地質学的背景は、米沢盆地から山形盆地、新庄盆地を経て庄内平野に至る最上川沿いの地域に共通するものであるため、この地域に分布する窯跡出土の須恵器の岩石組成は、今回の小松原窯跡試料と平野山古窯跡群試料との間で認められたような類似性を示すと考えられる。

したがって、現時点では、薄片観察のみによる窯跡の判別は難しい。ただし、今後の分析例の蓄積によっては、詳細なレベルでの違いを見出せる可能性はあると考えられる。また山形城三の丸跡出土の瓦および須恵器についても、薄片観察からは最上川流域の窯跡産であることはほぼ確実であると言えるが、その地域内での絞り込

表3 蛍光X線分析結果

試料番号	主要元素										微量元素						
	SiO_2 (%)	TiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	MnO (%)	MgO (%)	CaO (%)	Na_2O (%)	K_2O (%)	P_2O_5 (%)	Ig-loss(%)	合計(%)	Rb(ppm)	Sr(ppm)	Y(ppm)	Zr(ppm)	Ba(ppm)
1	65.98	1.17	23.17	5.04	0.02	0.55	0.41	0.47	1.09	0.10	2.00	100.00	71	52	22	222	309
2	67.37	1.24	22.13	5.18	0.02	0.60	0.42	0.49	1.12	0.05	1.38	100.00	69	50	25	238	296
3	69.58	0.98	19.80	3.27	0.03	0.98	0.43	0.65	2.24	0.03	2.01	100.00	103	67	18	195	369
4	66.83	1.21	22.73	4.88	0.01	0.54	0.39	0.41	1.11	0.01	1.88	100.00	65	51	26	232	318
5	66.54	1.22	22.97	4.91	0.01	0.52	0.38	0.49	0.98	0.01	1.97	100.00	62	47	20	234	373
6	72.51	0.84	16.92	4.61	0.02	0.49	0.54	0.48	1.54	0.03	2.02	100.00	83	59	27	221	372
7	67.04	0.86	21.13	5.80	0.02	0.93	0.49	1.02	2.04	0.04	0.63	100.00	113	75	21	237	422
8	66.81	0.85	21.36	5.94	0.02	0.96	0.42	0.99	1.91	0.03	0.71	100.00	98	69	25	231	401
9	68.49	0.77	18.95	4.64	0.02	0.76	0.54	1.05	1.85	0.19	2.74	100.00	116	82	26	176	436

みはできない。

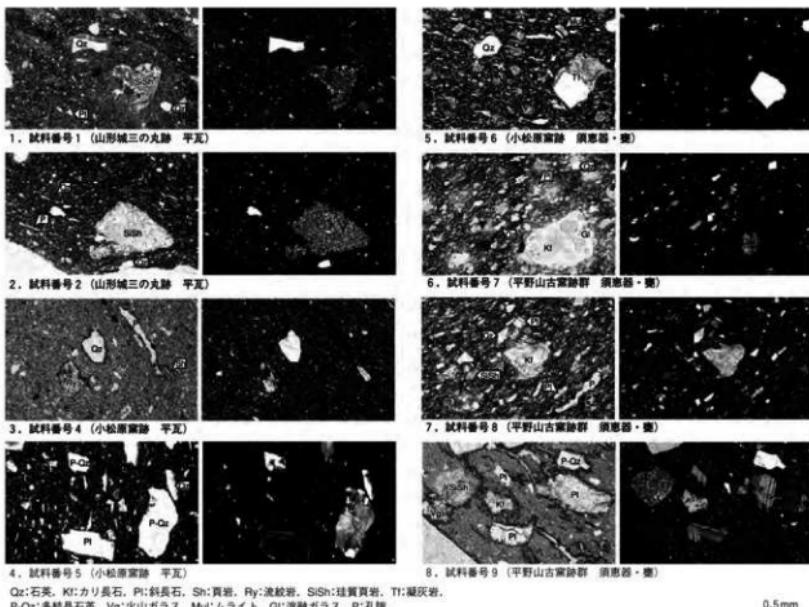
一方、蛍光X線分析による化学組成値からは、山形城三の丸跡出土瓦と小松原窯跡出土瓦との間に非常に高い近似性が認められた。

また、これまでに当社により分析事例が得られており、山形盆地南部に位置するオサヤズ窯跡出土瓦の組成と比べると、有意な差が認められる。薄片観察により、鉱物・岩石組成の類似も確認され、さらに焼成温度の違う瓦が混在することまで一致したことから、現状では山形城三の丸跡出土瓦の産地が小松原窯跡である可能性は高いと判断される。今後とも、古代瓦の産地の分析事例を得ることができれば、上述した産地推定の確度をさらに検証することが可能になると考えられる。

須恵器試料については、山形城三の丸跡出土の試料番号3と各窯跡出土試料との間に、化学組成の近似性は認められない。したがって、山形城三の丸跡出土須恵器の産地は、小松原窯跡および平野山古窯跡群以外の窯跡で

ある可能性がある。

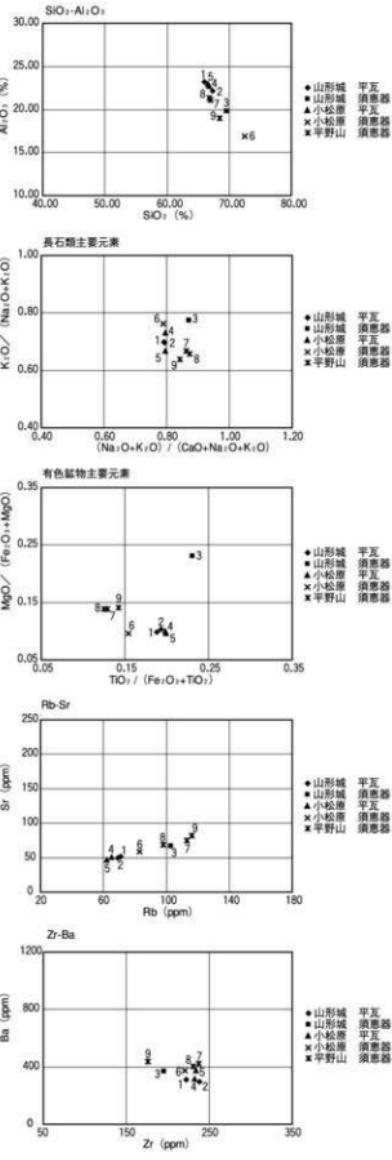
山形県内で確認された古代の須恵器窯跡出土試料の当社による分析事例としては、庄内平野に位置する荒沢遺跡、泉森南窯跡、山形盆地東部の天童市に位置する二子沢古窯跡、小松原窯跡に近い山形盆地南縁の丘陵に位置するオサヤズ、三木本の各窯跡、そして長井盆地に位置する蛇崩窯跡と米沢盆地北部に位置する平野古窯跡の各遺跡がある。現時点では、各窯跡試料とともに分析試料数が少ないために、同一窯跡出土試料間の組成のばらつき状況が明瞭でない部分もあるが、今回の試料番号3の組成と近似する試料は認められない。やや近似する傾向が認められるのは、長井盆地の蛇崩窯跡や米沢盆地の平野古窯跡の一部試料である。もちろん、これだけでは試料番号3の須恵器が長井盆地や米沢盆地からの搬入ということはさきないが、今後はそのような可能性も含めて分析事例の蓄積を行う必要があると考える。



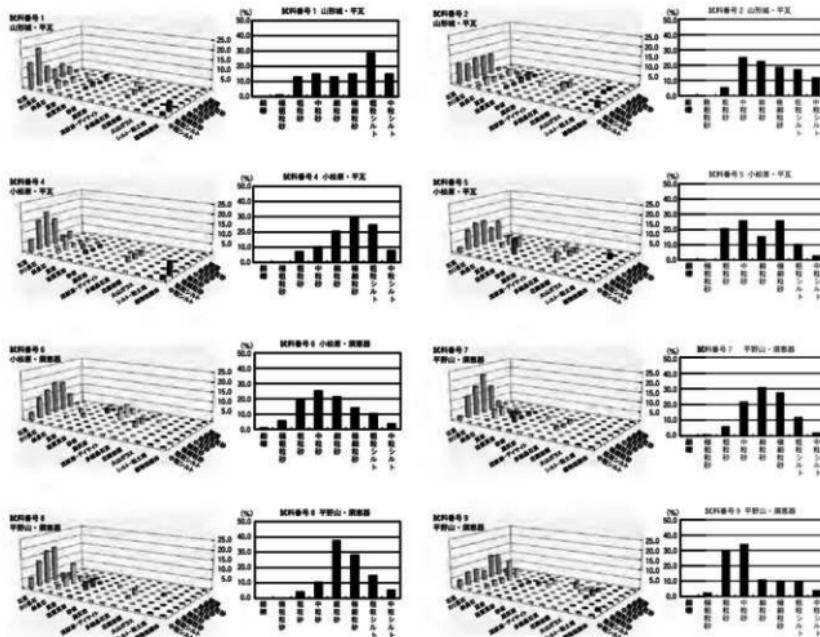
第7図 胎土薄片

表4 薄片観察結果

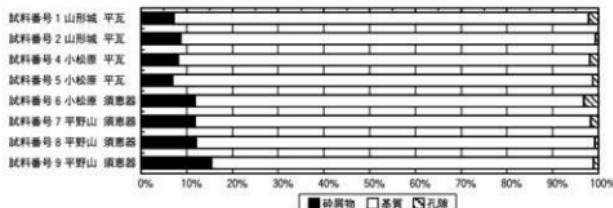
試料番号	薄片区分	薄 片 の 様 式 構 成										合計
		基 物	片 物	2) 2) は ね 片 物	3) 3) は ね 片 物	4) 4) は ね 片 物	5) 5) は ね 片 物	6) 6) は ね 片 物	7) 7) は ね 片 物	8) 8) は ね 片 物	9) 9) は ね 片 物	
1	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	粗粒砂	4	2	3	2	1	1	1	1	1	1	12
	中粒砂	7	11	11	22	21	2	1	1	1	1	14
	細粒砂	5	3	2	2	2	2	2	2	2	2	12
	粗粒砂	8	1	2	11	1	1	1	1	1	1	14
	粗粒シルト	18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	中粒シルト	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	粘土質	1191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	粗粒砂	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17
	中粒砂	8	2	2	3	2	2	2	2	2	2	19
	細粒砂	8	1	2	2	2	2	2	2	2	2	14
	粗粒シルト	7	3	3	3	3	3	3	3	3	3	23
	中粒シルト	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
	粘土質	299	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	5	2	11	11	11	11	11	11	11	11	9
	粗粒砂	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	13
	中粒砂	17	2	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	細粒砂	23	1	9	2	2	2	2	2	2	2	38
	粗粒シルト	19	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10
	中粒シルト	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	粘土質	1416	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
	粗粒砂	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	10
	中粒砂	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
	細粒砂	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	10
	粗粒シルト	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	中粒シルト	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	粘土質	537	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
	粗粒砂	8	0	3	3	3	3	3	3	3	3	21
	中粒砂	16	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27
	細粒砂	17	2	2	2	2	2	2	2	2	2	23
	粗粒シルト	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
	中粒シルト	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	中粒シルト	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	粘土質	786	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	粗粒砂	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
	中粒砂	26	2	2	2	2	2	2	2	2	2	33
	細粒砂	31	7	4	2	1	1	2	2	2	2	47
	粗粒シルト	25	2	1	8	8	8	8	8	8	8	42
	中粒シルト	17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
	中粒シルト	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
	粘土質	1127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	粗粒砂	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10
	中粒砂	17	2	10	4	4	4	4	4	4	4	36
	細粒砂	16	1	5	8	8	8	8	8	8	8	27
	粗粒シルト	12	2	2	2	2	2	2	2	2	2	14
	中粒シルト	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
	粘土質	699	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	細粒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	粗粒砂	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
	粗粒砂	26	5	8	4	5	5	5	5	5	5	32
	中粒砂	21	1	18	1	1	2	3	3	3	3	60
	細粒砂	8	1	4	2	2	2	2	2	2	2	19
	粗粒シルト	12	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18
	中粒シルト	7	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17
	粘土質	965	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	孔隙	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



第4図 土壤化学組成散布図



第9図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（%）および砂の粒径組成



第10図 碎屑物・基質・孔隙の割合

V 調査のまとめ

今回の発掘調査は、一般国道112号霞城改良事業に伴う山形城三の丸跡の緊急発掘調査である。

発掘調査は道路拡幅部分の2,170m²を対象として、平成20年度から平成21年度までの2ヵ年で行った。調査の成果は以下のとおりである。

主な検出遺構は、土坑、柱穴、溝跡、掘立柱建物跡、竪穴住居跡などである。調査区に制限があることや、市街地の調査ということで搅乱も随所に見られたが、大局的に見ると各区により遺構の粗密が認められることや、各区分における検出遺構の性格の違いを見ることができる。また、出土遺物の内容も、その区の役割を考える情報を提供している。これらのことを総合して、三の丸における当該地区の様子を考察してみる。

当該地区は遺構の時期や性格・役割により大きく三つに分けることができる。一つ目は奈良・平安時代にさかのぼる古代の集落跡である。第4次調査で7棟、第6次調査で1棟の計8棟の竪穴住居跡が検出された。残念ながらどの住居跡も調査区外との際であったり、搅乱により切られたりして全形を知ることは困難であるが、出土遺物等からその様相の一端を知ることができる。S T 6002の土師器の高壺脚部、S T 6016の土師器の有段壺、S T 7001の須恵器の横瓶、S T 116の須恵器の高台壺は7世紀末～9世紀前半の特徴を備え、奈良・平安時代に造られたものと思われる。竪穴住居跡以外からの出土遺物も8世紀前半が主であり、この地での古代の集落の存在が考えられる。

二つ目は中世以降の掘立柱建物跡を主体とする建物の検出である。建物を構成する柱穴が第4次調査の1区・3区・4区で見つかった。特に3区と4区では、北西方に向に主軸を持つ建物跡が合わせて6棟見つかった。全体の規模や形は不明であるが、わずかに位置を変えて繰り返し建て替えを行っている。馬見ヶ崎川による水害や火災などの被害により、このような遺構が残ったことが推測される。

三つ目は近世の堀跡の検出である。S D202は、その規模や検出位置から山形城三の丸堀跡と判断した。これ

まで江戸時代に作られた数種の山形城下絵図面により当該地における三の丸堀跡の大体の位置を知ることはできたが、正確な位置関係を把握することはできなかった。しかし今回の発掘調査で堀跡の存在とその規模を確認し、城下絵図に描かれた堀と遺構としての堀跡の位置を特定することができたことは大きな成果と言える。また、調査を進める過程の中で、東側岸に護岸のための石組（1～6）が確認された。

堀跡の土層断面から4回の底面の変遷が推定された。新しい順に第1期（1～18層）はシルト層で、初期の石組5からは17世紀前半の遺物が出土しており、17世紀には護岸がなされ、崩落のたびに石組を補修していたと考えられる。この時期の堀の深さは最大でも1.7m程度である。第2期（19～25層）はその下に短期間に堆積したと考えられる砂層である。22層から16世紀末頃の肥前陶器が出土した。第3期（26～32層）は砂層の下の東岸の崩落層である。遺物はほとんど出土しない。第4期（33層）は最下の泥層で初期の堀底の堆積層である。遺構の様相から、堀は当初4m近い深さを持っていたが、短期間に砂で埋まり、その後元の深さに復旧することなく廃絶となったことが推定される。堀跡からの出土遺物は、第1期の層が中心で、18世紀初頭から後半の陶磁器が多く確認された。また、乗焼や墓石、泥面などの生活用品、子供の遊び道具が出土し、当時の生活の一端が窺われる。

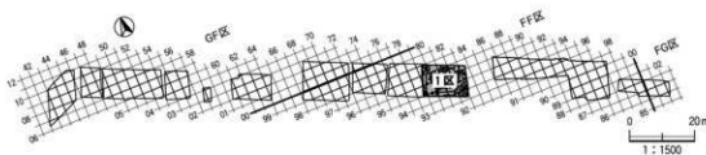
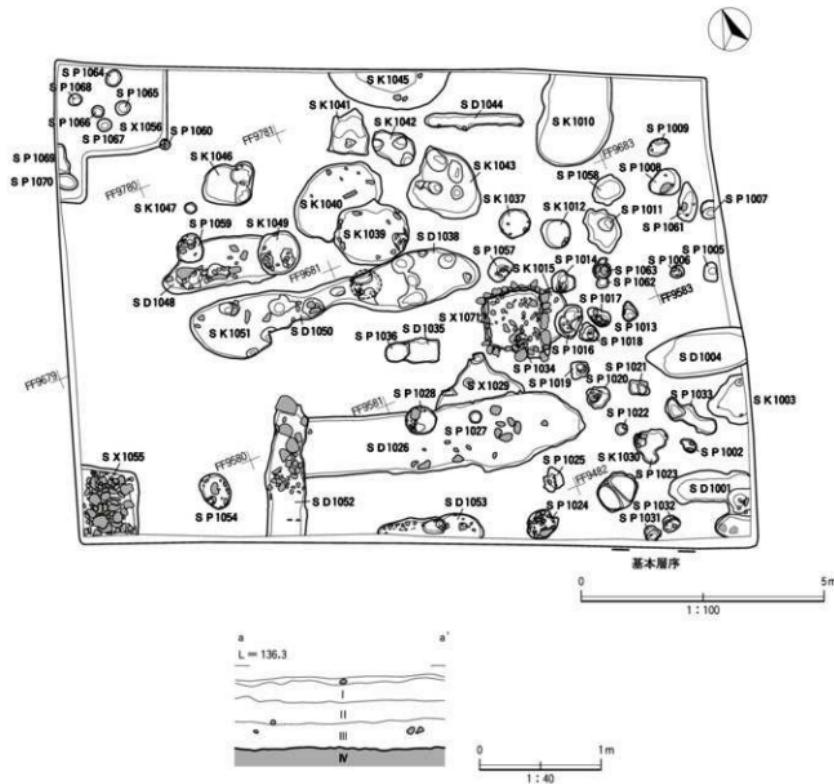
当該地区的調査で平安時代の瓦片が出土した。これまで山形盆地において、生産地以外で古代瓦が出土することは稀であった。しかし今回理化学的分析の胎土分析により、山形城三の丸跡出土瓦と小松原窯跡出土瓦との間に非常に高い近似性が認められた。小松原窯跡は山形市の南西部の山形盆地の西縁に位置し、当該地区とは約3km足らずの距離にある。小松原窯跡で生産された瓦が使用されたことは容易に想像できる。小松原窯跡は年代測定により9世紀前半という結果が出ており、当該の古代集落跡の時期と合致する。当時の役所や寺院の建物の存在や集落との関係等、今後さらに検討が必要と考える。

参考文献

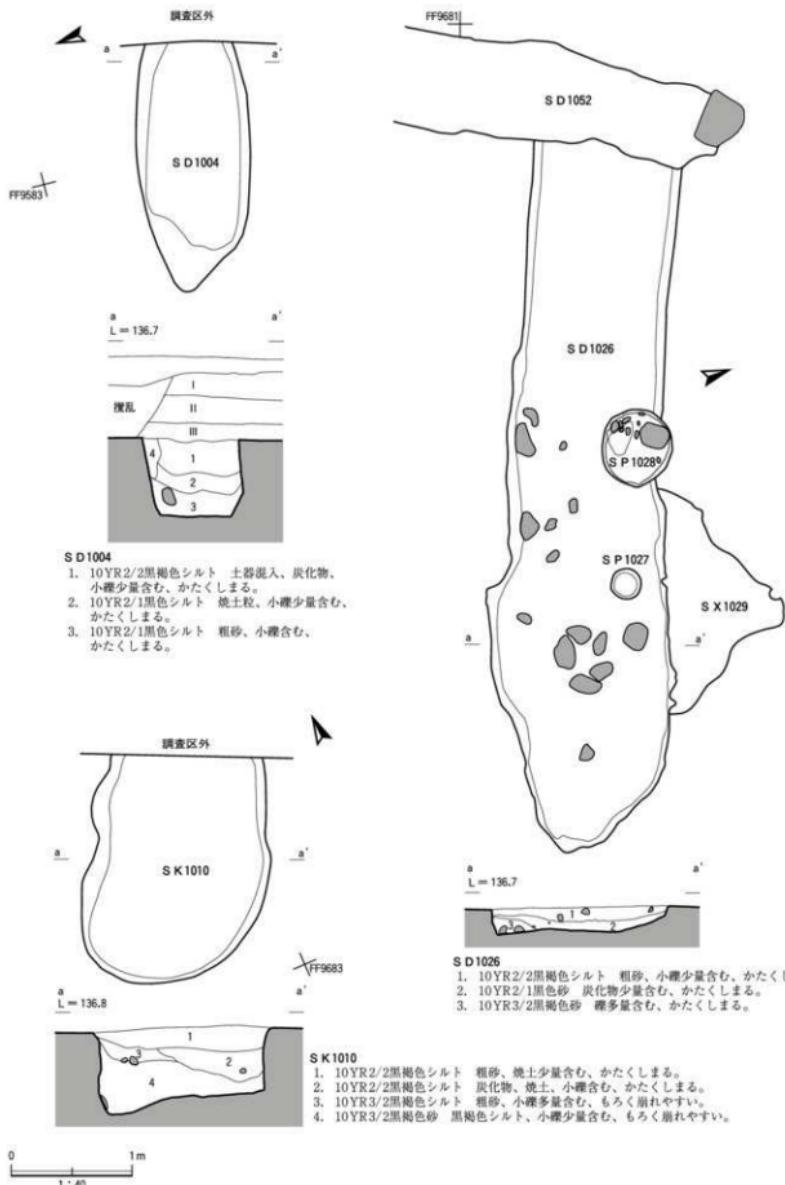
- 山形市 1976 『山形市史 別巻2 生活・文化編』
- 山形市 1973 『山形市史 資料編1 最上氏関係資料生活・文化編』
- 愛知県瀬戸市 1998 『瀬戸市史 陶磁史編6』
- 藤澤良祐 2002 『瀬戸・美濃大窯場年の再検討』(財瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第10輯抜刷)
- 大橋雄二 1994 『古伊万里の文様』
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁会10周年記念』
- 東北大學埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大學埋蔵文化財調査年報7』
- 東北大學埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大學埋蔵文化財調査年報11』
- 江戸遺跡研究会 2001 『國説 江戸考古学研究事典』
- 高橋信歌 1973 『最上時代 山形城下絵図』誌趣会
- さあべい・同人会 2009 『さあべい』第25号】
- (財) 山形市文化振興事業団 最上義光歴史館 2005 『発掘された山形城三の丸』
- (財) 山形県生涯学習文化財団 2000 『報告「山形学」シンポジウム'00 城下町山形』
- 山形市教育委員会 2003 『山形城三の丸跡(山形市立第一小学校敷地内)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第15集)
- 山形市教育委員会 2004 『又葉町道路(山形城三の丸跡)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第17集)
- 山形市教育委員会 2009 『山形城三の丸跡(城北道路)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第30集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 1998 『平野山古窯跡群第12地点道路発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第52集)
- 財團法人山形県埋蔵文化財センター 1999 『城南一丁目道路発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第69集)
- 財團法人山形県埋蔵文化財センター 2005 『山形城三の丸跡発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財センター調査報告書第142集)
- 財團法人山形県埋蔵文化財センター 2006 『小松原窯跡 長者屋敷道路 納ノ上道路発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第147集)

理化学的分析 引用参考文献

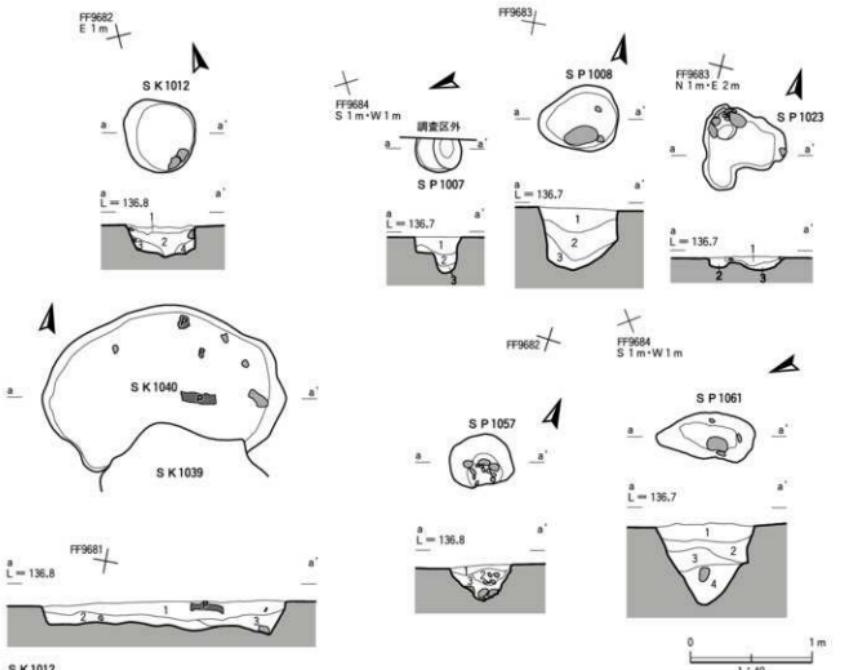
- 五十嵐俊雄 2007 『土師器・須恵器等に関する焼成温度推定手法の開発 徳永重元博士献呈論集』パリノ・サーヴェイ株式会社 p.281-297
- 松田順一郎・三輪若素・別所秀高 1999 『瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察—岩石学的・堆積学的による—』日本文化財科学会第16回大会発表要旨集 p.120-121
- 日本の地質「東北地方」編集委員会 1989 『日本の地質2 東北地方』共立出版 p.338
- 大沢慎・三村弘二・久保和也・広島俊男・村田泰章 1986 『20万分の1 地質図幅「仙台」』地質調査所



第11図 第4次調査1区全体図・層序



第12図 第4次調査1区遺構(1)



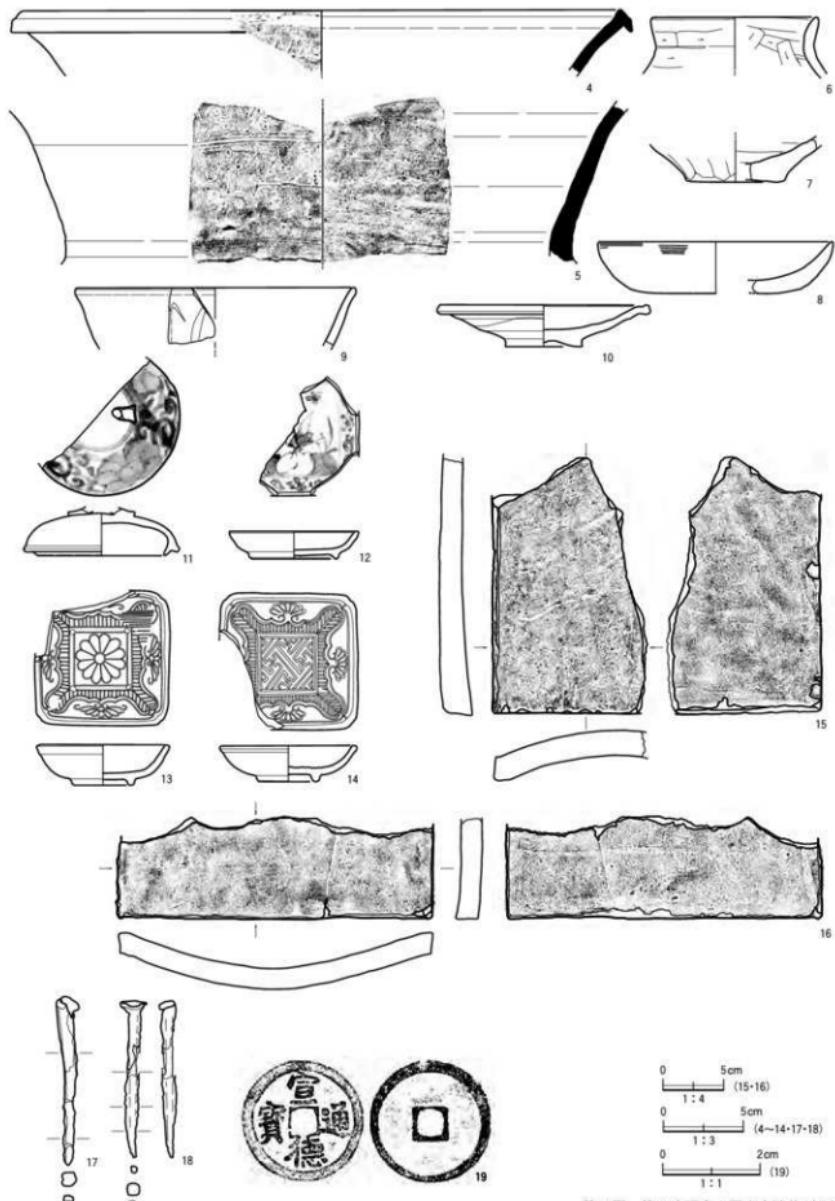
SK 1012

1. 10YR2/2暗褐色シルト 小礫、中礫を含む。粘性中。しまり中。
2. 10YR2/2暗褐色シルト 小礫、中礫を含む。粘性中。しまり中。
3. 10YR2/2暗褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトがまだら状に混入。粘性中。しまり中。
4. 10YR2/2暗褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロックを少量含む。粘性。しまり中。

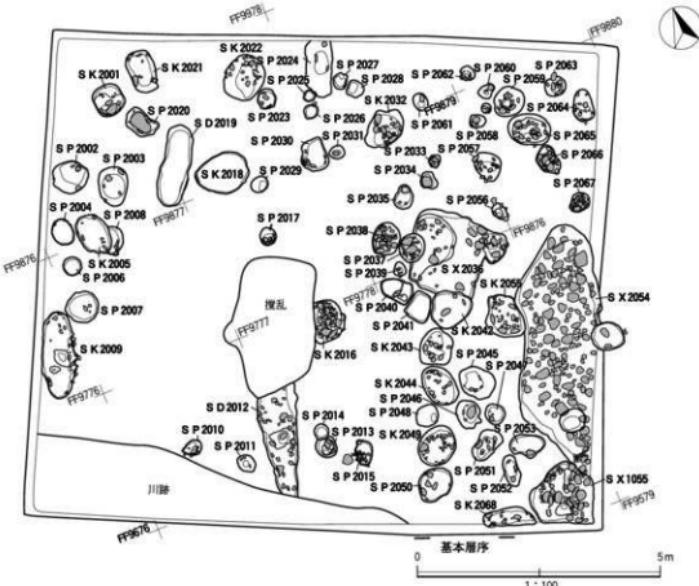
SP 1007

1. 10YR2/2暗褐色シルト 中礫、炭化物多量含む。かたくしまる。
 2. 10YR2/2暗褐色シルト 灰褐色シルト粒。炭化物少量含む。かたくしまる。
 3. 10YR2/2暗褐色シルト 炭化物多量含む。やわらかい。
- SP 1008**
1. 10YR2/2暗褐色シルト 中礫を含む。粘性中。しまり中。
 2. 10YR2/2暗褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロック。中礫を含む。粘性。しまり中。
 3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR2/2暗褐色シルトを少量含む。粘性。しまり中。
- SP 1009**
1. 10YR2/2暗褐色シルト 中礫を含む。粘性中。しまり強。
 2. 10YR2/2暗褐色シルト 10YR3/3砂質シルトを含む。小礫を含む。粘性中。しまり中。
 3. 10YR3/3暗褐色シルト 砂質 小礫を多く含む。粘性弱。しまり弱。
- SP 1023**
1. 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂含む。かたくしまる。
 2. 10YR3/3にぶい黄褐色砂 褐色シルト少量含む。もろく崩れやすい。
 3. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 暗褐色シルト少量含む。しまり良。
- SP 1057**
1. 10YR3/2暗褐色シルト 小礫少量含む。かたくしまる。
 2. 10YR2/2暗褐色シルト 粗砂、小礫多量含む。かたくしまる。
 3. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 黒褐色シルト、粗砂含む。
- SP 1061**
1. 10YR2/2暗褐色シルト 哈褐色シルト、粗砂、小礫少量含む。かたくしまる。
 2. 10YR3/3暗褐色砂 黑褐色シルト少量含む。かたくしまる。
 3. 10YR2/2暗褐色シルト 粗砂少量含む。かたくしまる。
 4. 10YR3/2暗褐色砂 黑褐色シルト含む。やわらかくもろい。

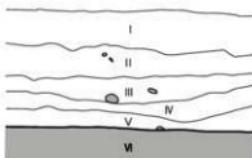
第13回 第4次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)



第14図 第4次調査1区出土遺物（2）



$L = 136.8$



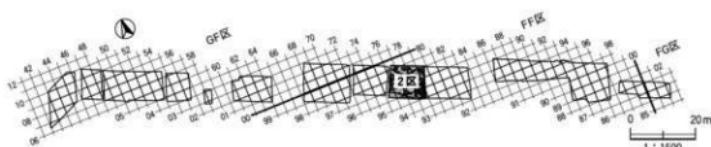
基本層序

- I. 10YR2/2暗褐色シルト 盛土。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、小礫含む、かたくしまる、整地層。
- III. 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色砂少含む、礫少量含む。
- IV. 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂、小礫少含む、酸化鉄層含む。
- V. 10YR2/2暗褐色シルト 黒褐色砂少含む、酸化鉄層含む。
- VI. 10YR3/3暗褐色シルト 道標検出面。

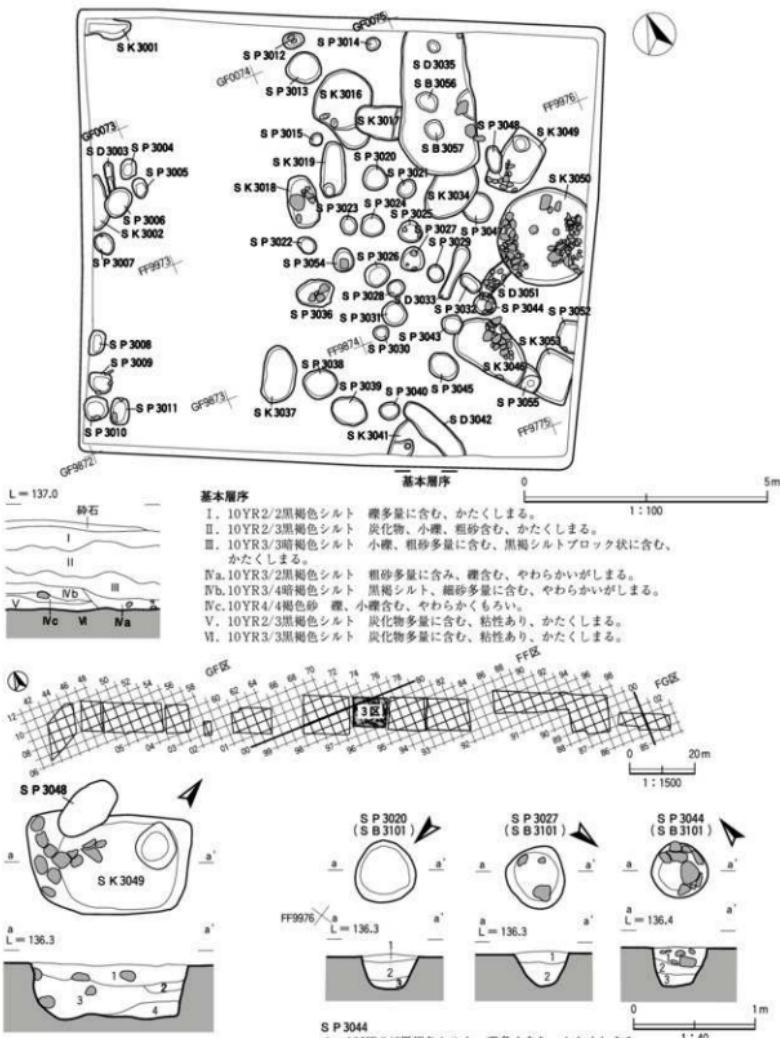
SP 2003



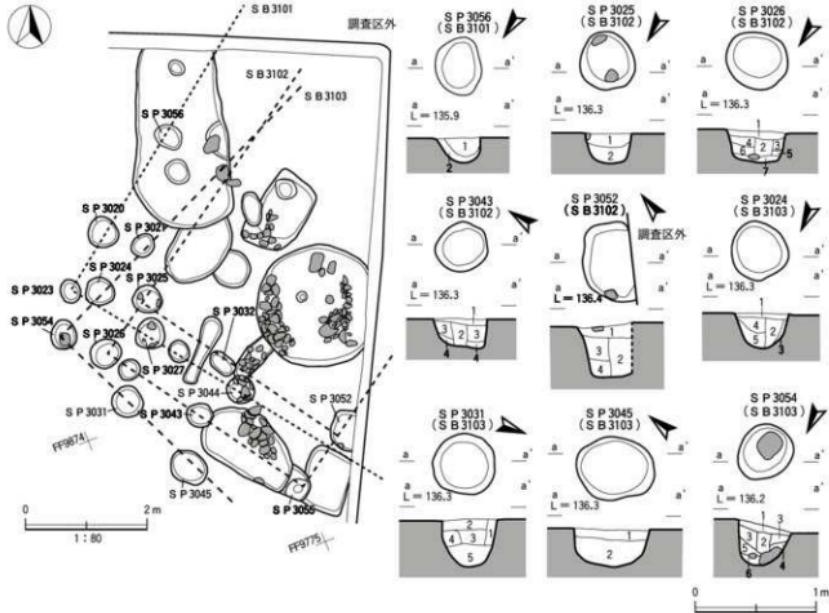
1. 10YR2/3黒褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルト、礫、炭化物含む、かたくしまる。
2. 10YR3/4暗褐色シルト 細砂を含む、かたくしまる。



第15図 第4次調査2区全体図・層序・構造



第16図 第4次調査3区全体図・層序・構造(1)



SP 3056

- 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂多量に含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 暗褐色シルト、小礫含む、粘性あり、かたくしまる。

SP 3025

- 10YR2/3暗褐色シルト 黒色シルトブロック、暗褐色シルト含む、やわらかくもろい。
- 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。

SP 3026

- 10YR3/1暗褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色シルト含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/3暗褐色シルト かたくしまる。
4. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
5. 10YR3/2暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。
6. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。
7. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。

SP 3043

- 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルトまだら状に含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/2暗褐色シルト 黒褐色シルトまだら状に含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2暗褐色シルト かたくしまる。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。

SP 3052

- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
2. 10YR2/3暗褐色シルト かたくしまる。
3. 10YR2/2暗褐色シルト 粗砂含む、かたくしまる。
4. 10YR4/4褐色砂 小礫含む、やわらかいがしまる。
1. 10YR2/2暗褐色シルト かたくしまる。
2. 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルト含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
4. 10YR3/2暗褐色シルト 暗褐色シルト含む、粘性あり、かたくしまる。
5. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。

SP 3031

- 10YR2/2暗褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3暗褐色シルト 黒色シルト少量含む。
3. 10YR2/2暗褐色シルト 黄褐色シルト含む、しまりない。
4. 10YR3/2暗褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
5. 10YR3/3暗褐色シルト 黑褐色シルト、粗砂多量含む。

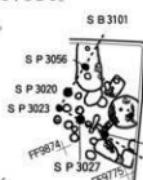
SP 3045

- 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂含む、かたくしまる。
2. 10YR3/3暗褐色シルト 小礫多量に含む、かたくしまる。

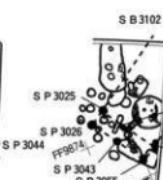
SP 3054

- 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色シルト粒含む。
2. 10YR2/3暗褐色シルト 暗褐色シルト含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2暗褐色シルト 暗褐色シルト少量含む。
5. 10YR3/2暗褐色シルト かたくしまる。
6. 10YR3/2暗褐色シルト 粗砂少量含む。

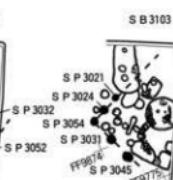
SB 3101



SB 3102

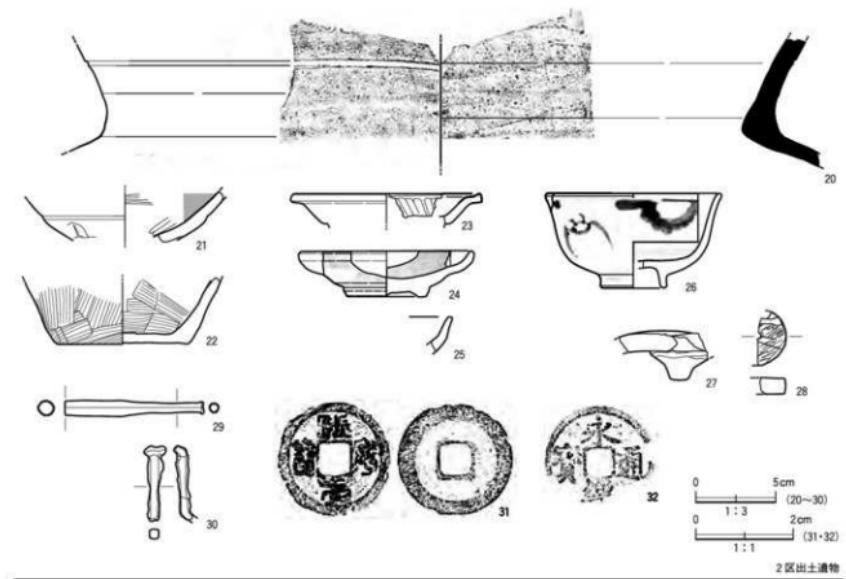


SB 3103

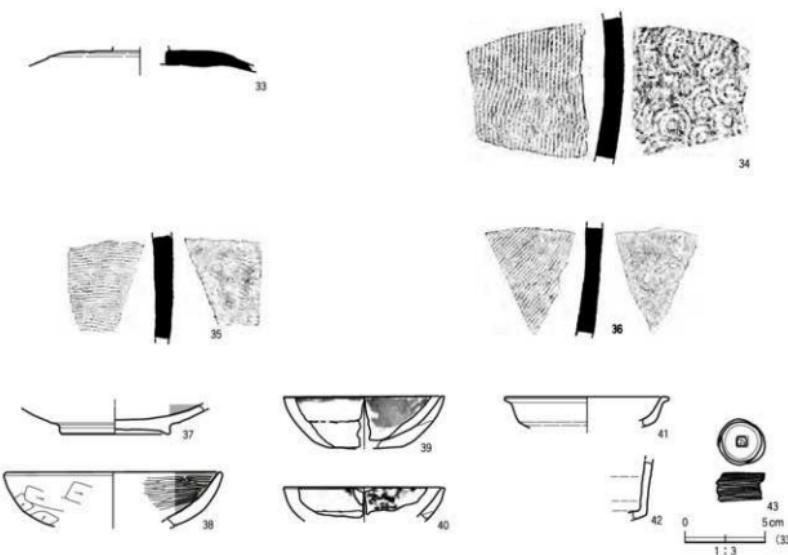


0 5m
1:300

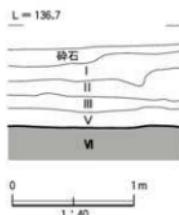
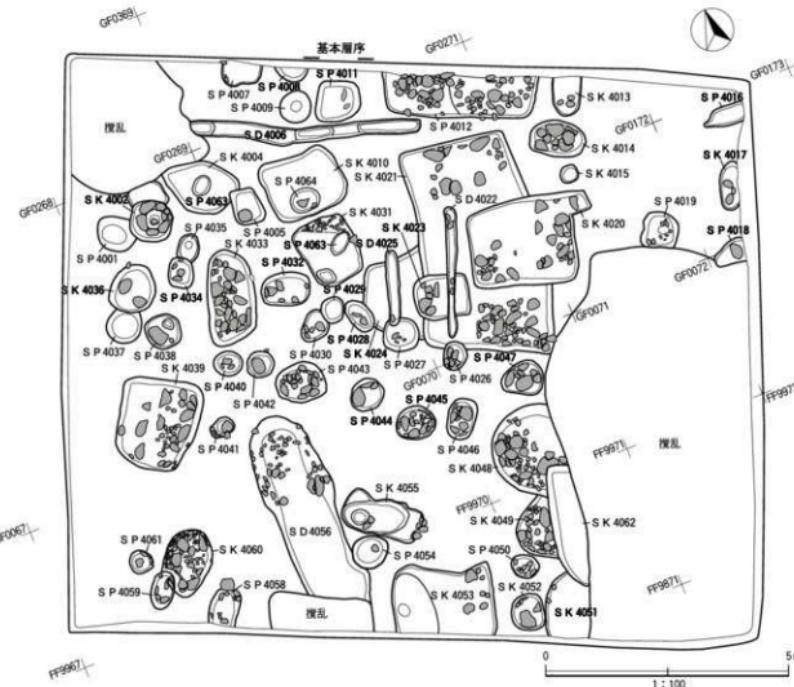
第17図 第4次調査3区構造(2)



2区出土遺物

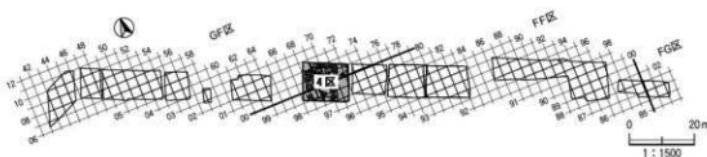


第18図 第4次調査2・3区出土遺物

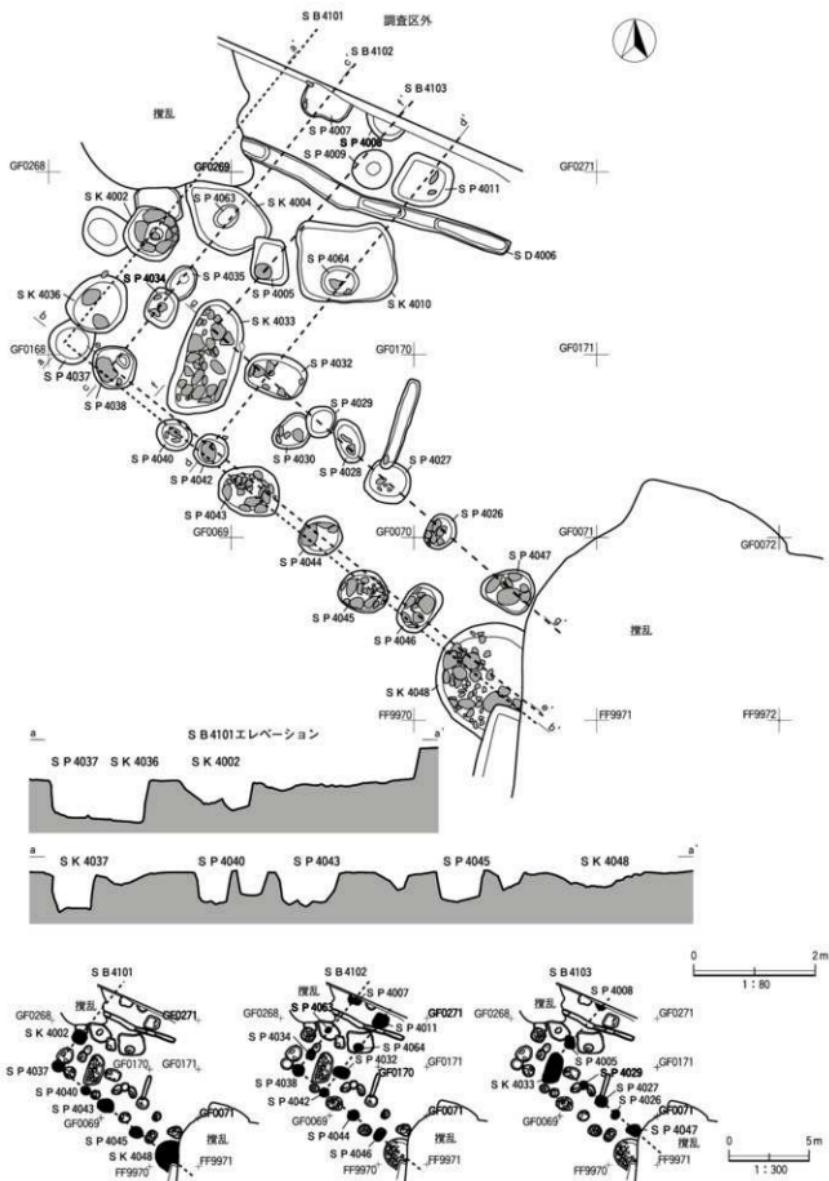


基本層序

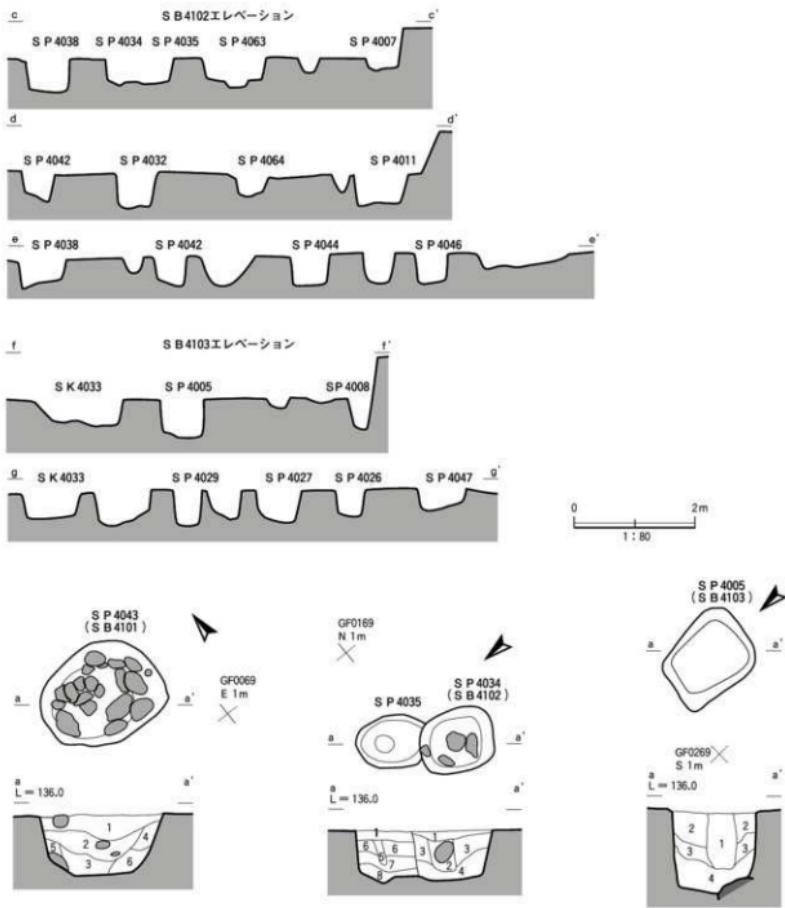
- I. 10YR3/1黒褐色シルト 砕石、炭化物含む。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、根縫少量化。
- III. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、燒土、多量含む。
- V. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト含む。
- VI. 10YR3/2黒褐色シルト。



第19図 第4次調査4区全体図・層序



第20図 第4次調査4区遺構(1)



SP 4043

- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、細砂少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト含む、小礫、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- 10YR2/1黒褐色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/1黒褐色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト、細砂含む、かたくしまる。
- 10YR2/1黒褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。

SP 4034

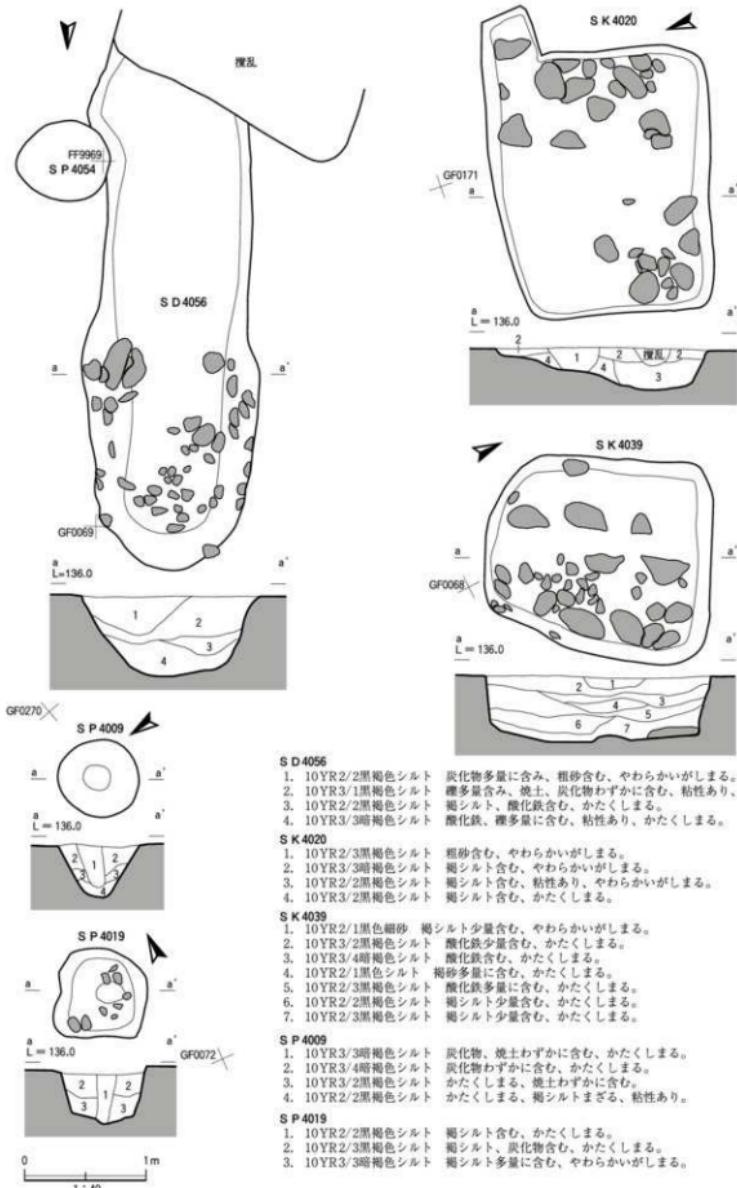
- 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物含む、かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる、炭化物わずかに含む。
- 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR3/1黒褐色シルト かたくしまる。

SP 4005

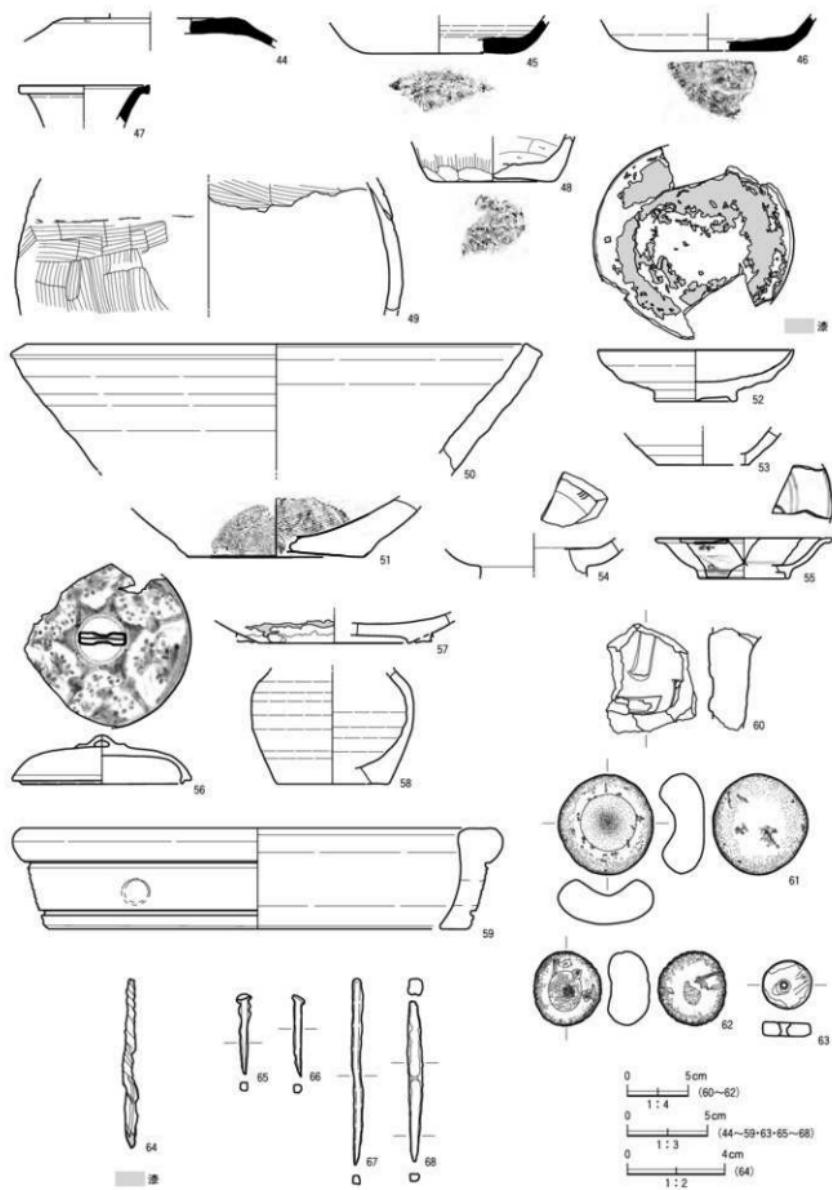
- 10YR3/3暗褐色シルト 褐シルト粒状に含む、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト粒状に含む、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/4暗褐色シルト 褐シルト多量に含む、炭化物、焼土含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。



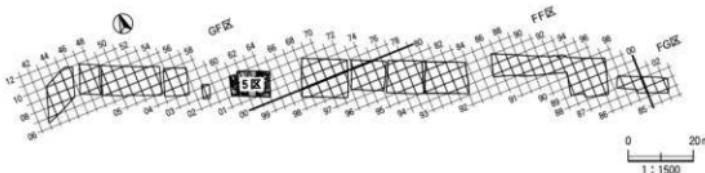
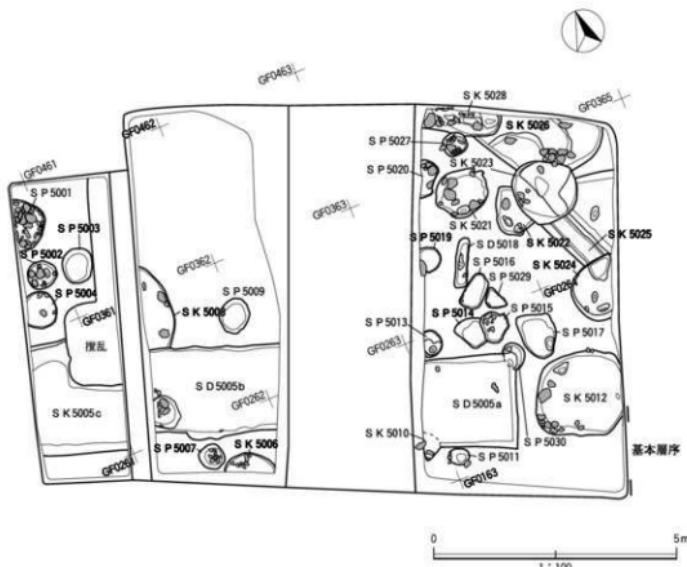
第21図 第4次調査4区造構(2)



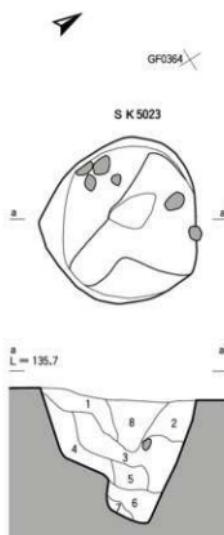
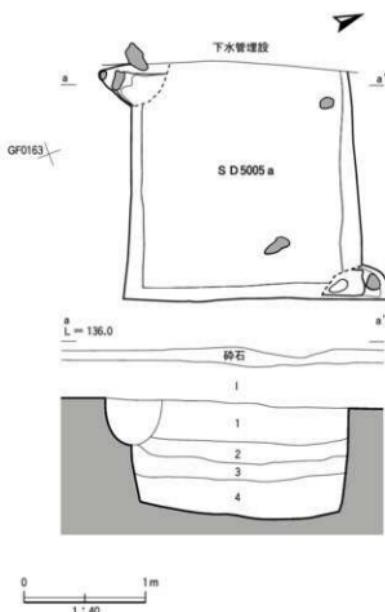
第22図 第4次調査4区遺構（3）



第23図 第4次調査4区出土遺物

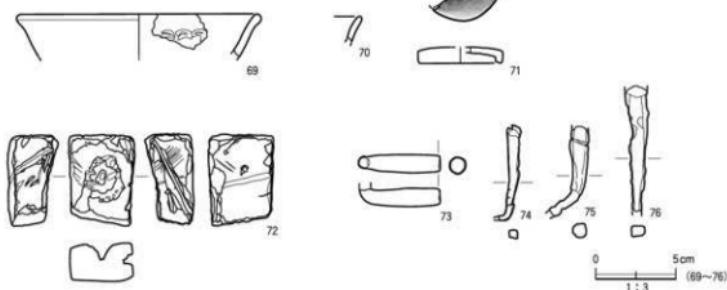


第24図 第4次調査5区全体図・層序

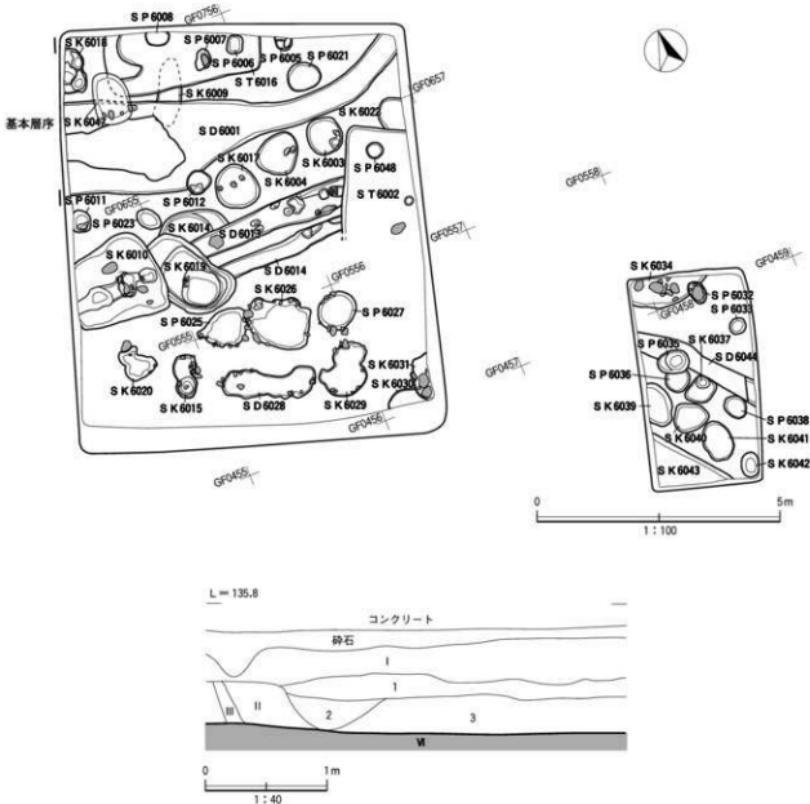


- S D 5005 a**
1. 10YR 3/2暗褐色シルト 黒色シルト、炭化物、小礫わずかに含む、かたくしまる。
 2. 10YR 2/2黒褐色シルト 黒色シルト、炭化物、小礫わずかに含む、かたくしまる、粘性あり。
 3. 10YR 2/3黒褐色シルト 黒色シルト、炭化物わずかに含む、かたくしまる、粘性わずかにあり。
 4. 10YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、小礫含む、かたくしまる。

- S K 5023**
1. 10YR 3/2暗褐色シルト 黑色シルト、礫少量含む、かたくしまる。
 2. 10YR 2/1黑色シルト 黑褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
 3. 10YR 2/1黑色シルト 黑褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
 4. 10YR 2/2暗褐色シルト 黑色シルト、酸化鉄含む、かたくしまる。
 5. 10YR 2/1黑色シルト 黑褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
 6. 10YR 2/3黒褐色シルト 黑色シルト少量含む、かたくしまる。
 7. 10YR 2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
 8. 10YR 2/3黒褐色シルト 混乱。

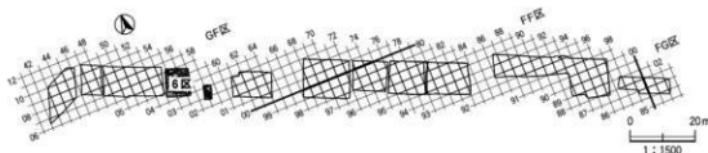


第25図 第4次調査5区構造・出土遺物

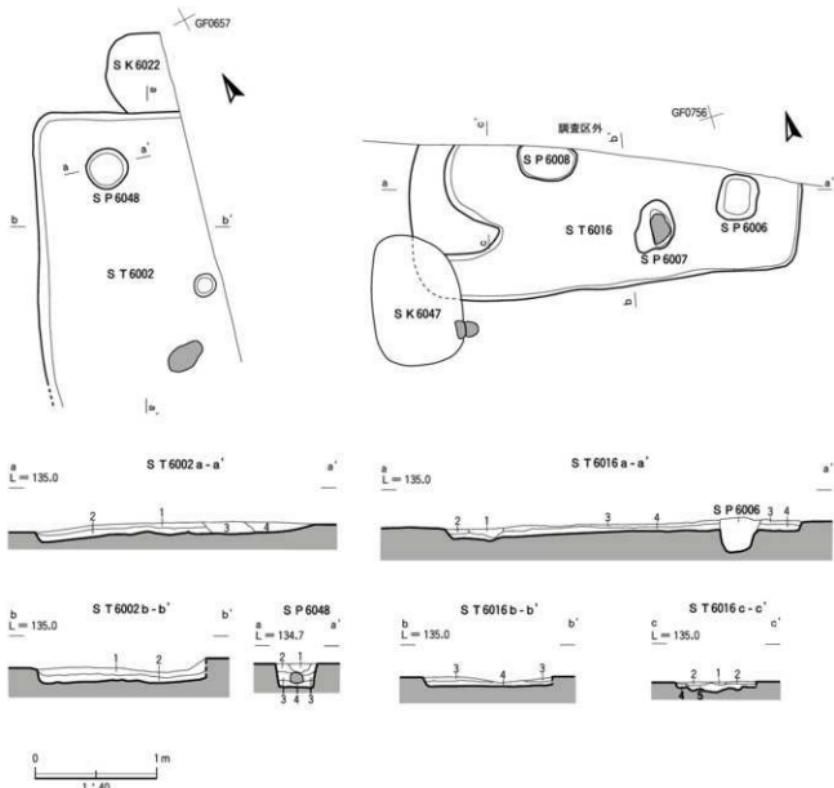


基本圖序

- I. 10YR 3/2褐色シルト 小灑少量、褐シルト、炭化物含む。かたくしまる。
II. 10YR 2/2褐色シルト 炭化物多量、褐シルト含む。かたくしまる。
III. 10YR 3/2褐色シルト 褐シルト多量に含む、やわらかいくがまん。
1. 10YR 2/1黒色シルト 炭化物含む、やわらかいくがまん。SD D6001覆土。
2. 10YR 2/3褐色シルト 炭化物、褐シルト含む。かたくしまる。SD D6001覆土。
3. 10YR 2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、やわらかいくがまん。SD D6001覆土。
M. 10YR 3/1黒褐色シルト 褐シルト含む、やわらかいくがまん。



第26図 第4次調査6区全体図・層序



S T 6002

- 10YR2/1 黒褐色シルト 焼土、黄褐色粒、土器少量含む。かたくしまる。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物少量、黄褐色シルト粒多量含む。かたくしまる。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 焼土多量、土器含む。かたくしまる。
4. 10YR2/2 黑褐色シルト 黑褐色シルト、炭化鉄含む。擾乱が。

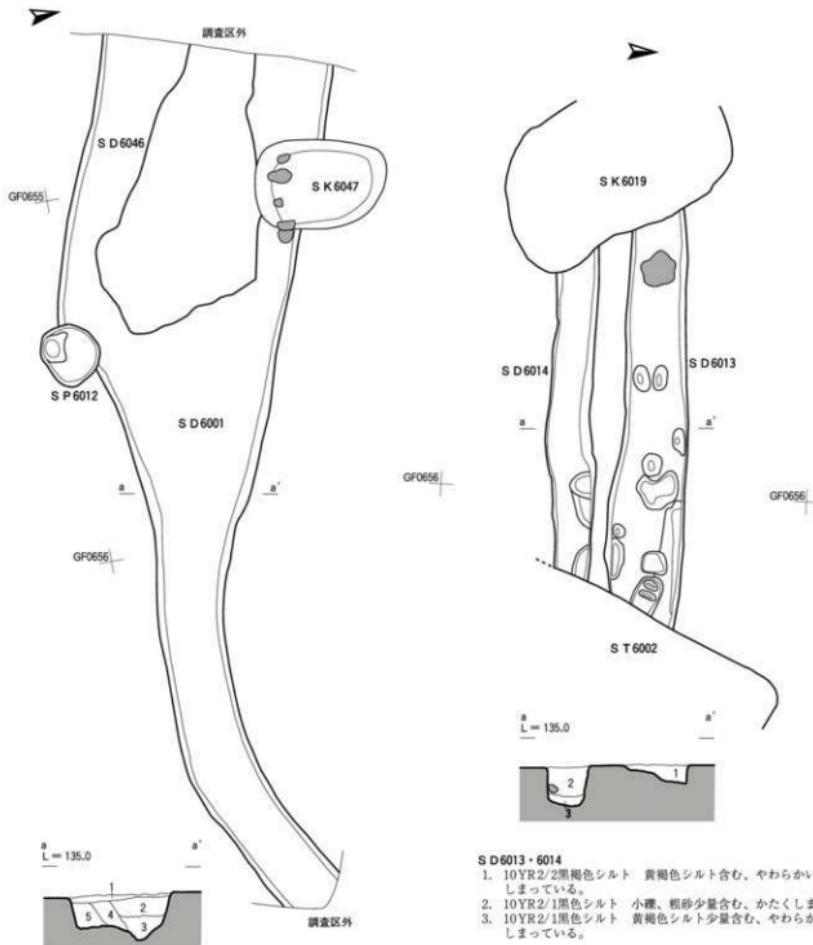
S P 6048

1. 10YR2/2 黑褐色シルト 焼土、斑状に少量混入。
2. 10YR2/2 黑褐色シルト
3. 10YR2/2 黑褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルト少量含む。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 10YR2/2 黑褐色シルトを含む。

S T 6016

1. 10YR2/1 黒褐色シルト 烧土多量含む。かたくしまる。
2. 10YR2/3 黑褐色シルト 黄褐色シルト粒多量含む。やわらかいがしまっている。
3. 10YR3/2 黑褐色シルト 黄褐色シルト粒多量含む。かたくしまる。
4. 10YR4/3 にぶい 黄褐色シルト 黑褐色シルト多量含む。かたくしまる。貼り床。
5. 10YR2/3 黑褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む。やわらかい。

第27図 第4次調査6区遺構(1)



S D 6013・6014

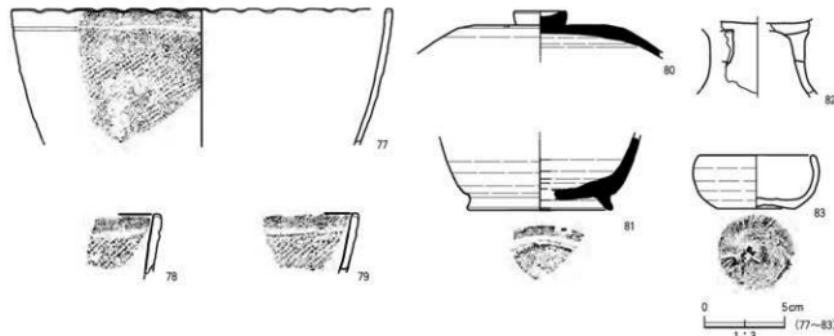
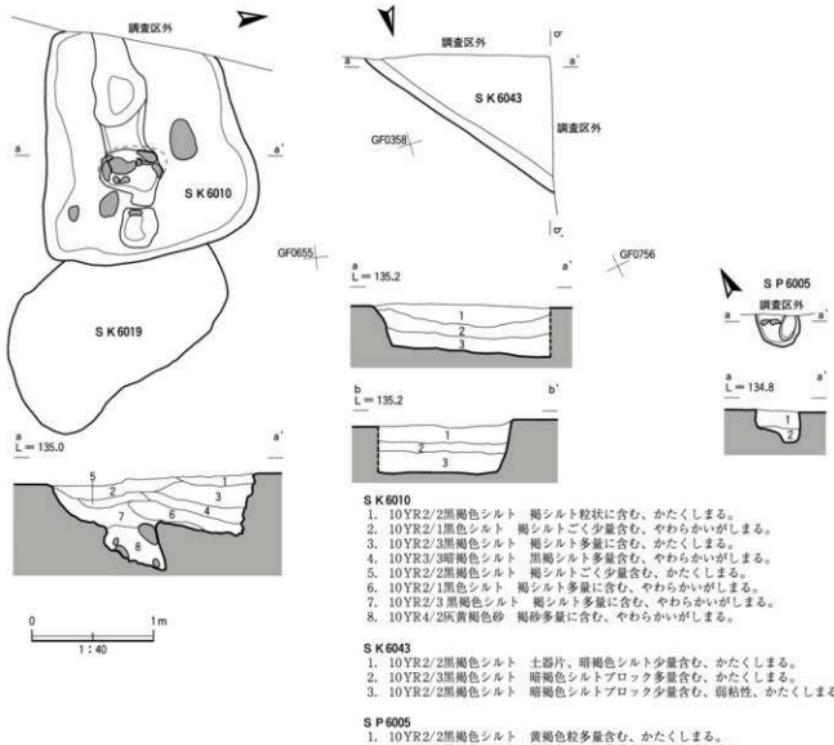
1. 10YR2/2黒褐色シルト 黒褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 灰化物、黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 黑褐色シルト多量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。

S D 6001

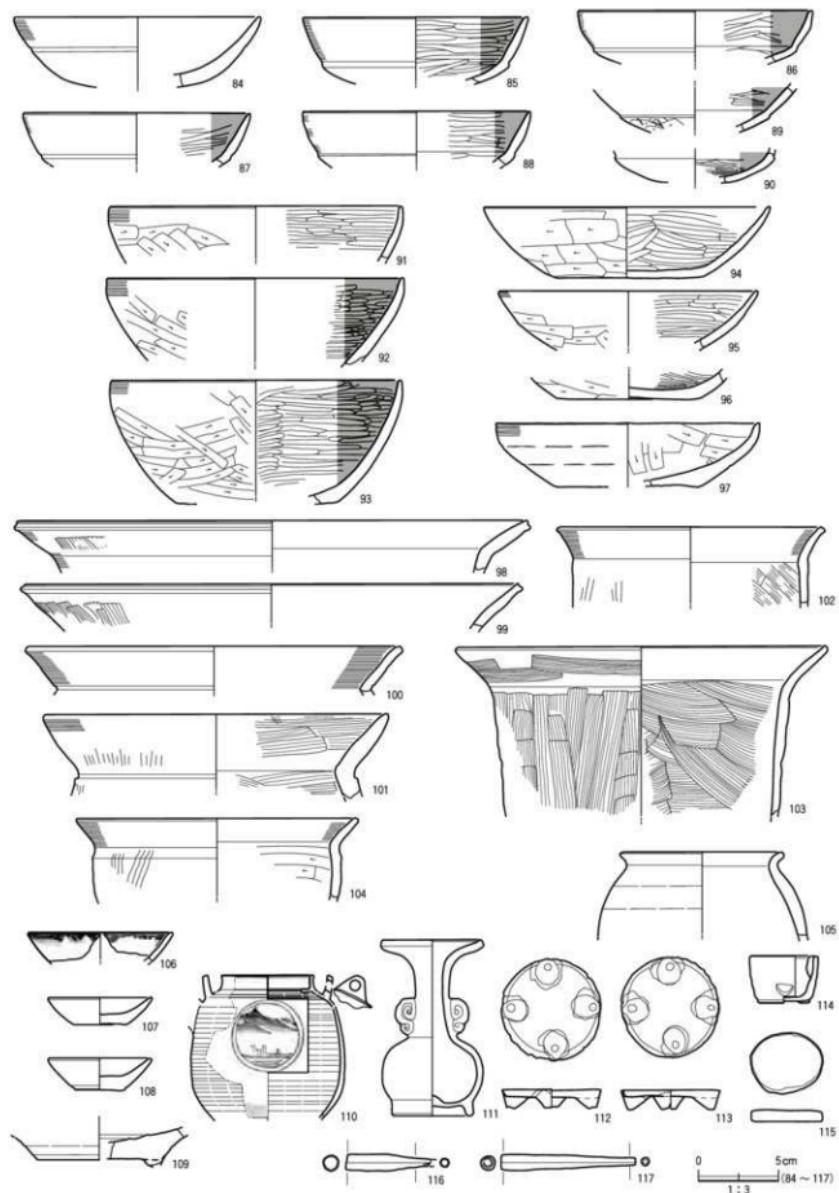
1. 10YR2/2黒褐色シルト 黑褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 灰化物、黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 黑褐色シルト多量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。

0 1m
1:40

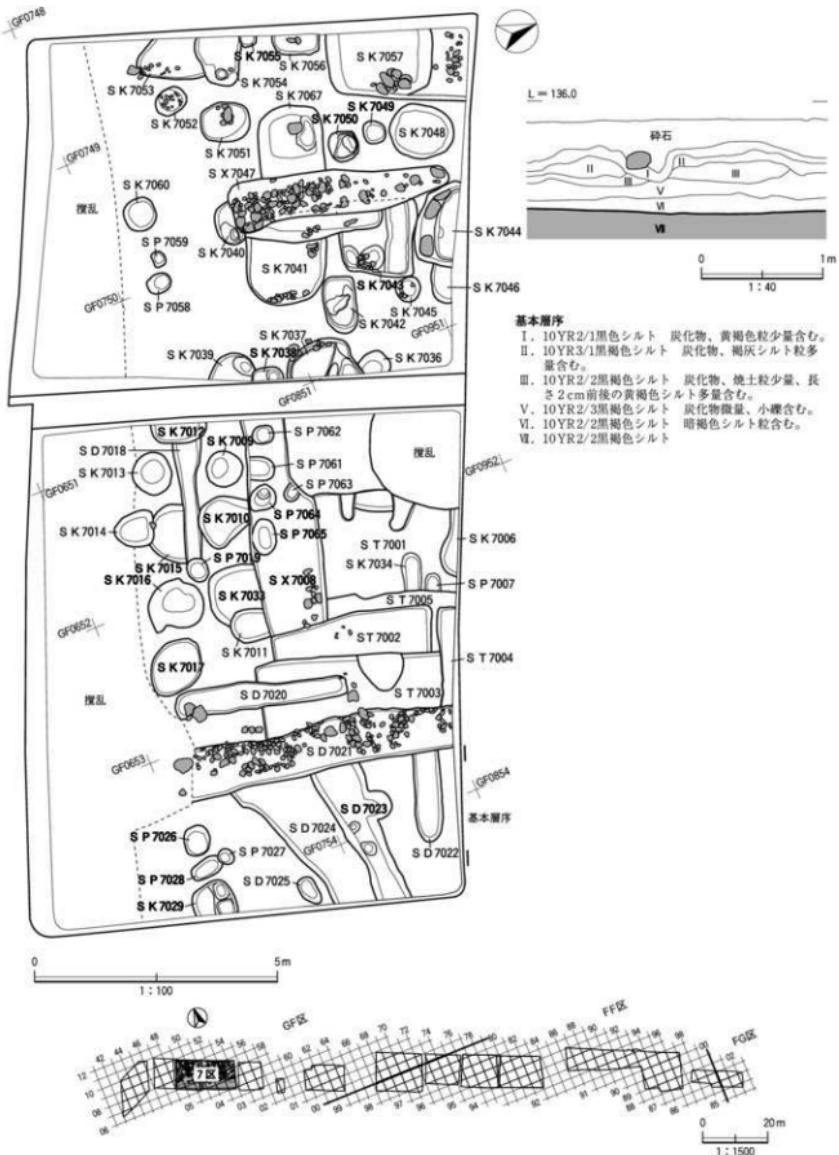
第28図 第4次調査6区遺構(2)



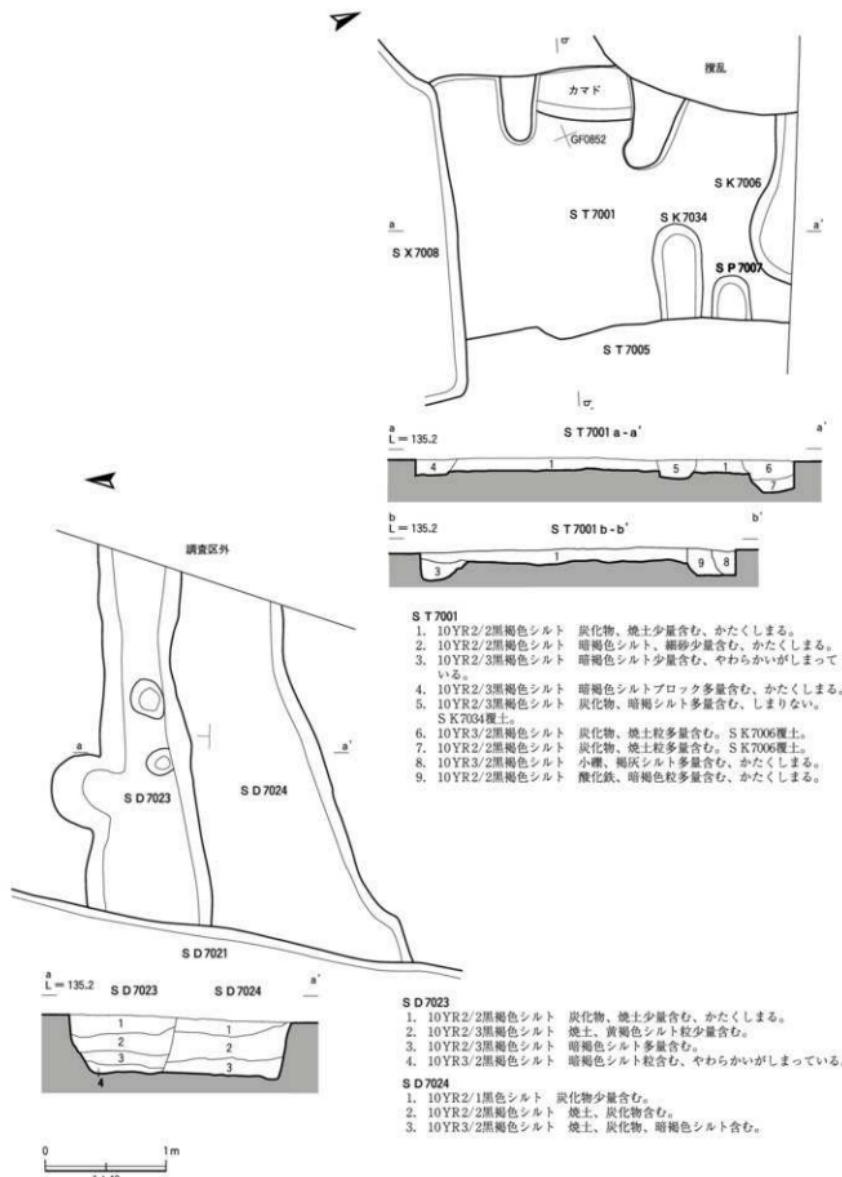
第29回 第4次調査 6区遺構(3)・出土遺物(1)



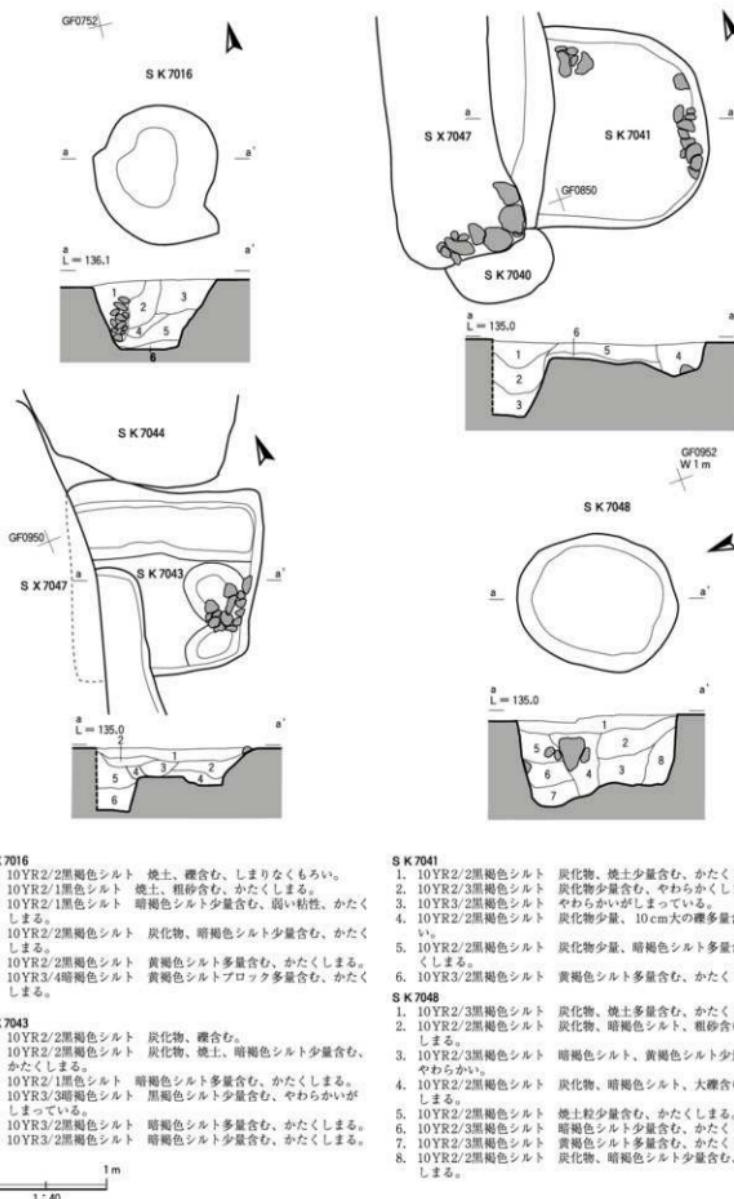
第30図 第4次調査6区出土遺物(2)



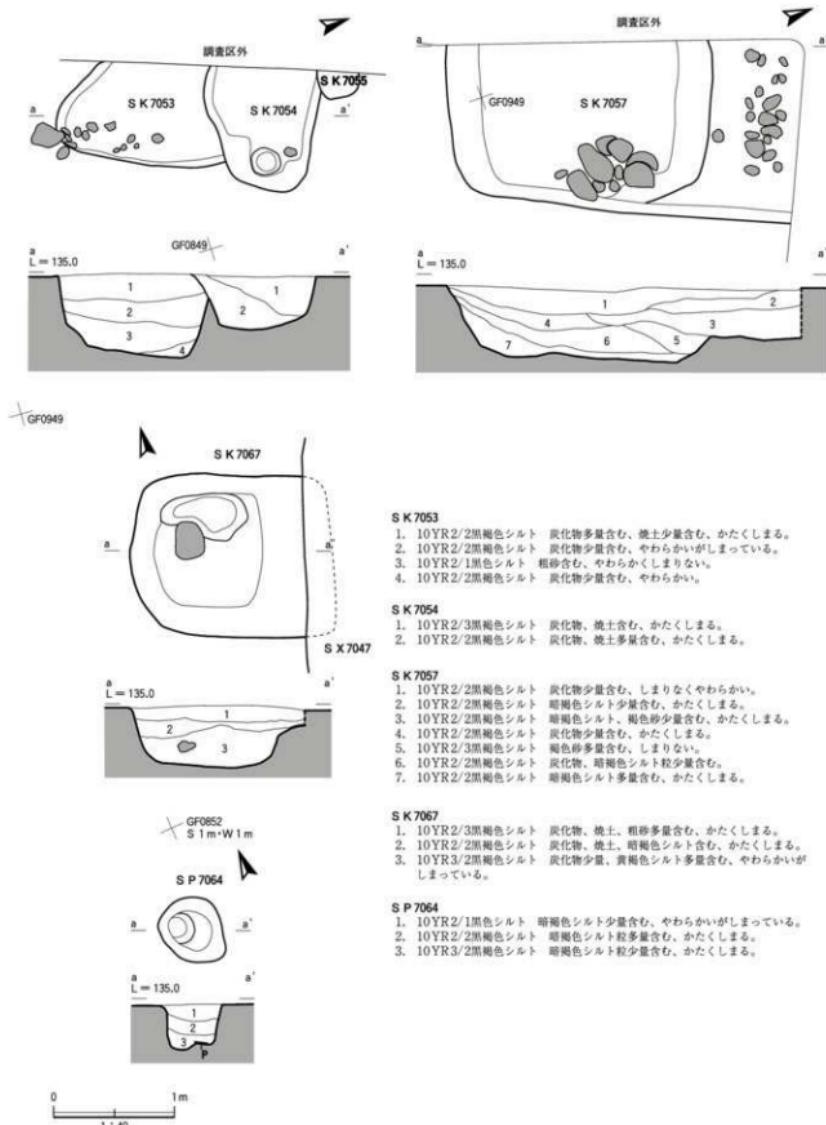
第31図 第4次調査7区全体図・層序



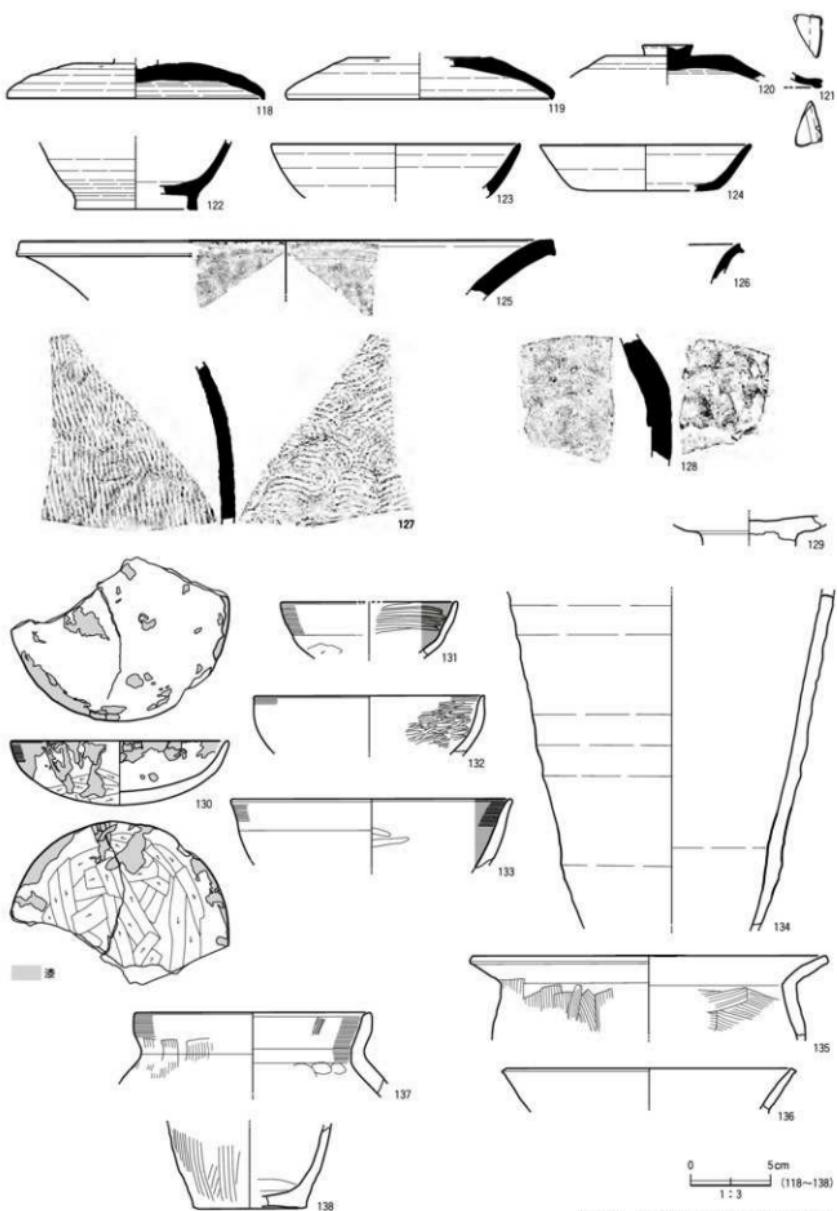
第32図 第4次調査7区遺構(1)



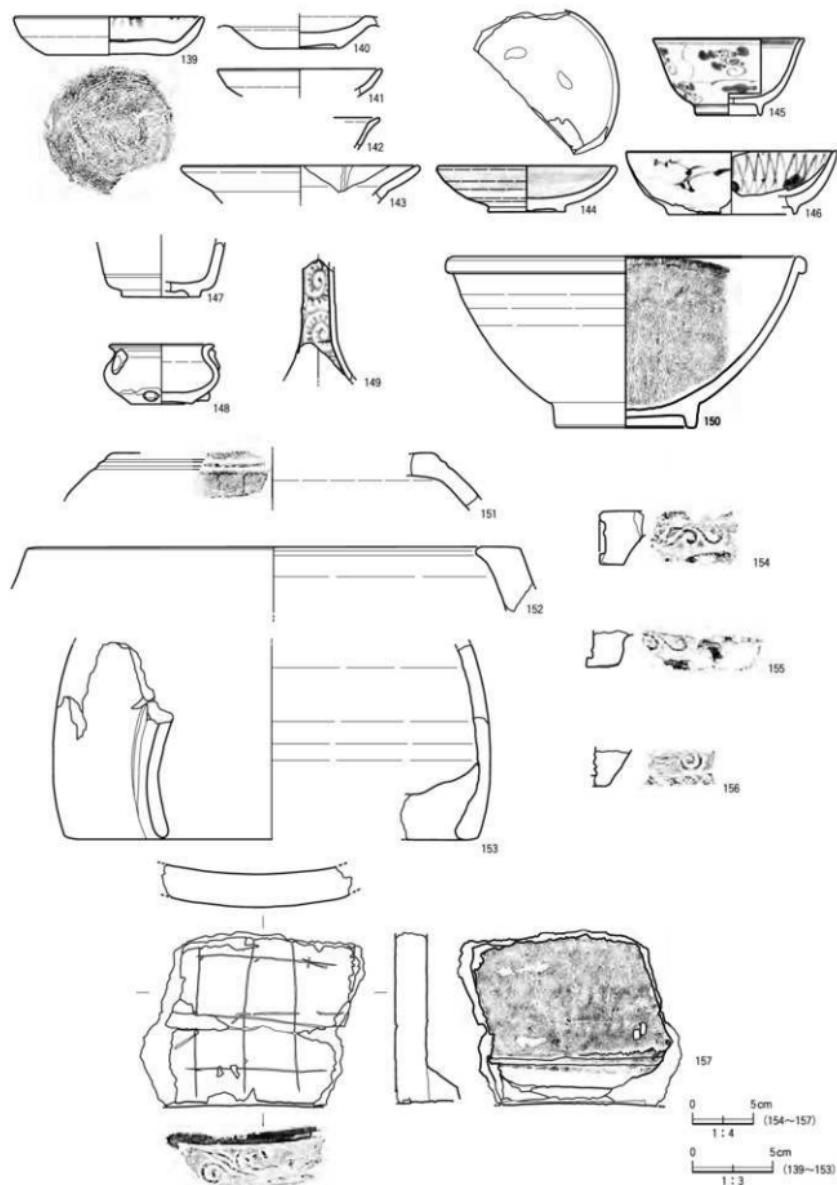
第33図 第4次調査7区地構(2)



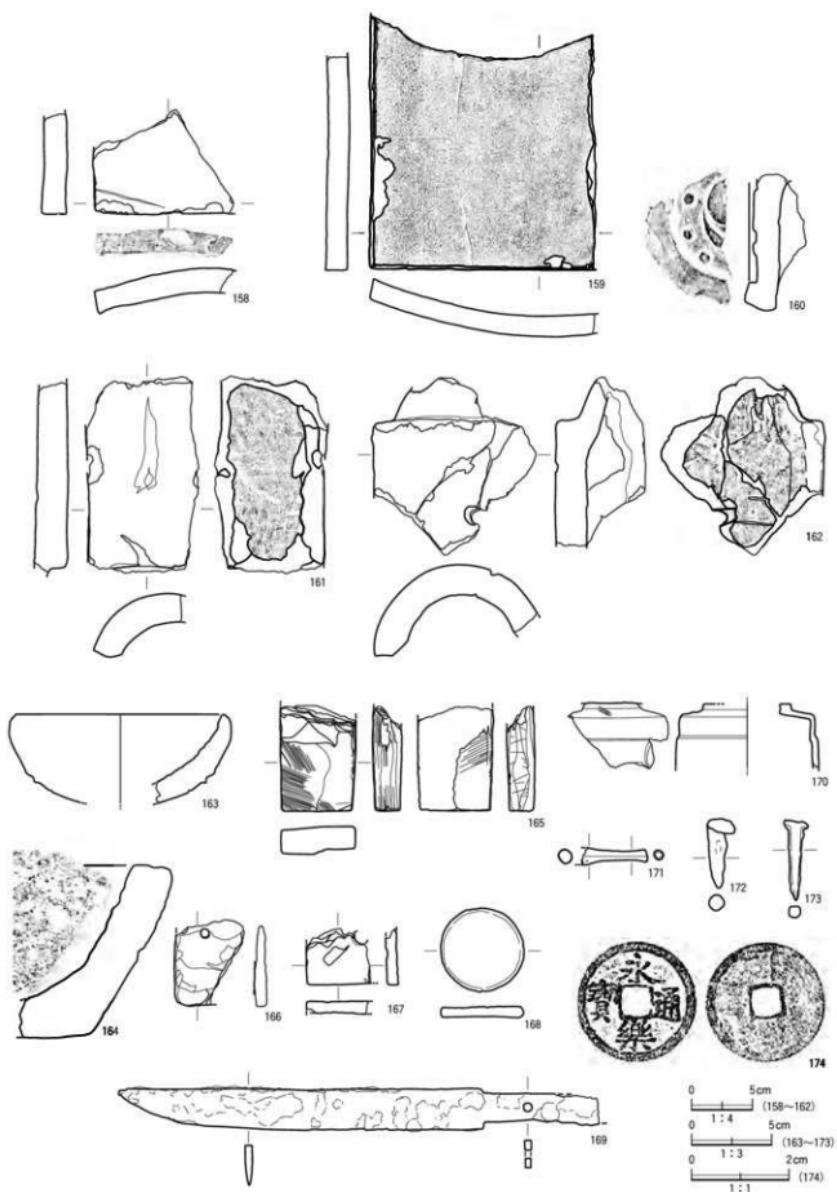
第34図 第4次調査7区遺構(3)



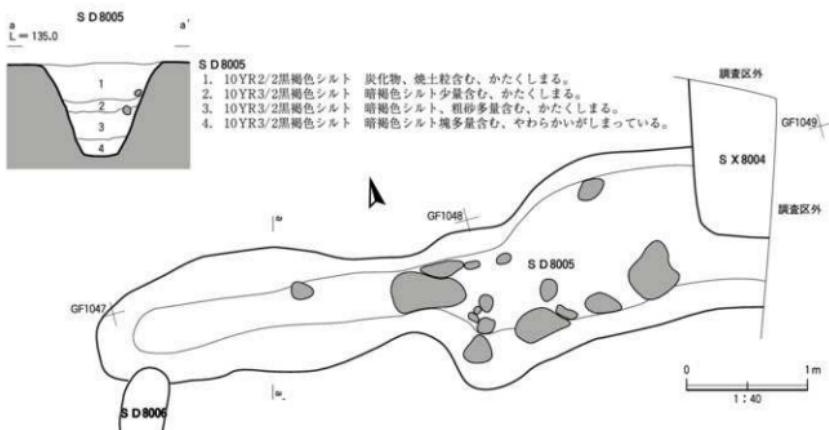
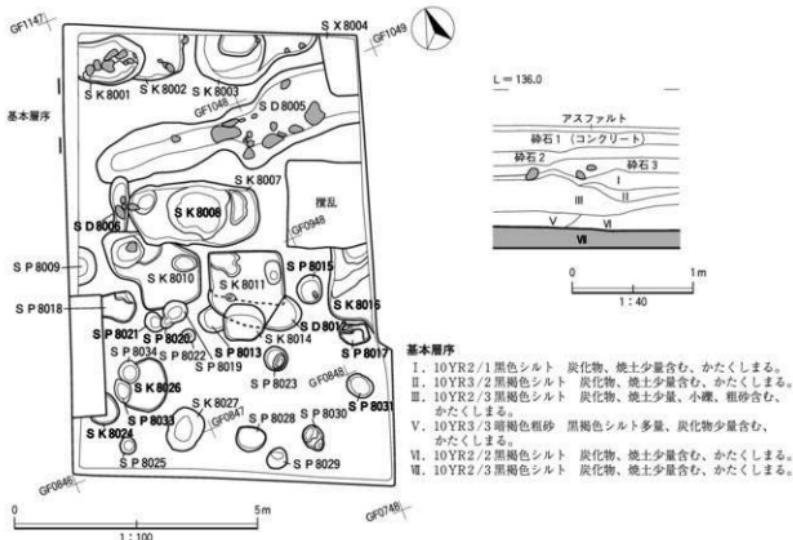
第35図 第4次調査7区出土遺物（1）



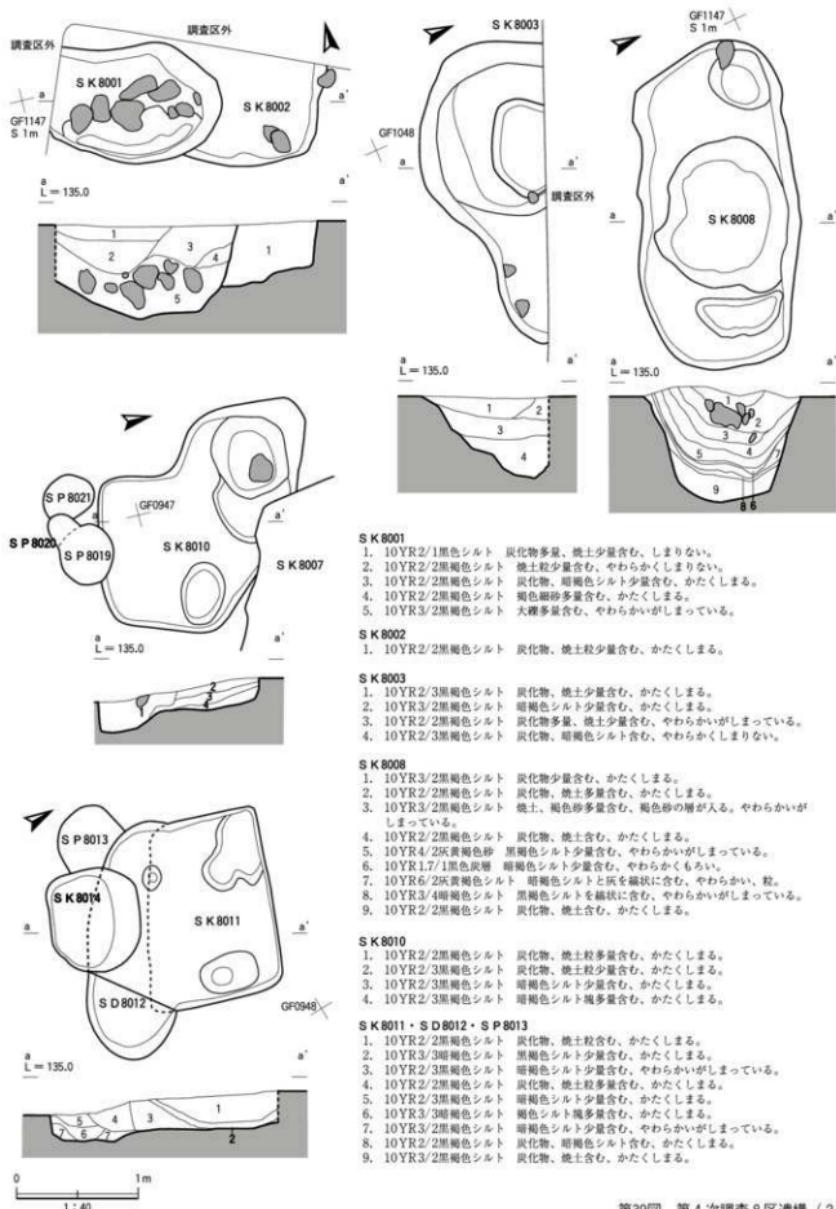
第36図 第4次調査7区出土遺物（2）



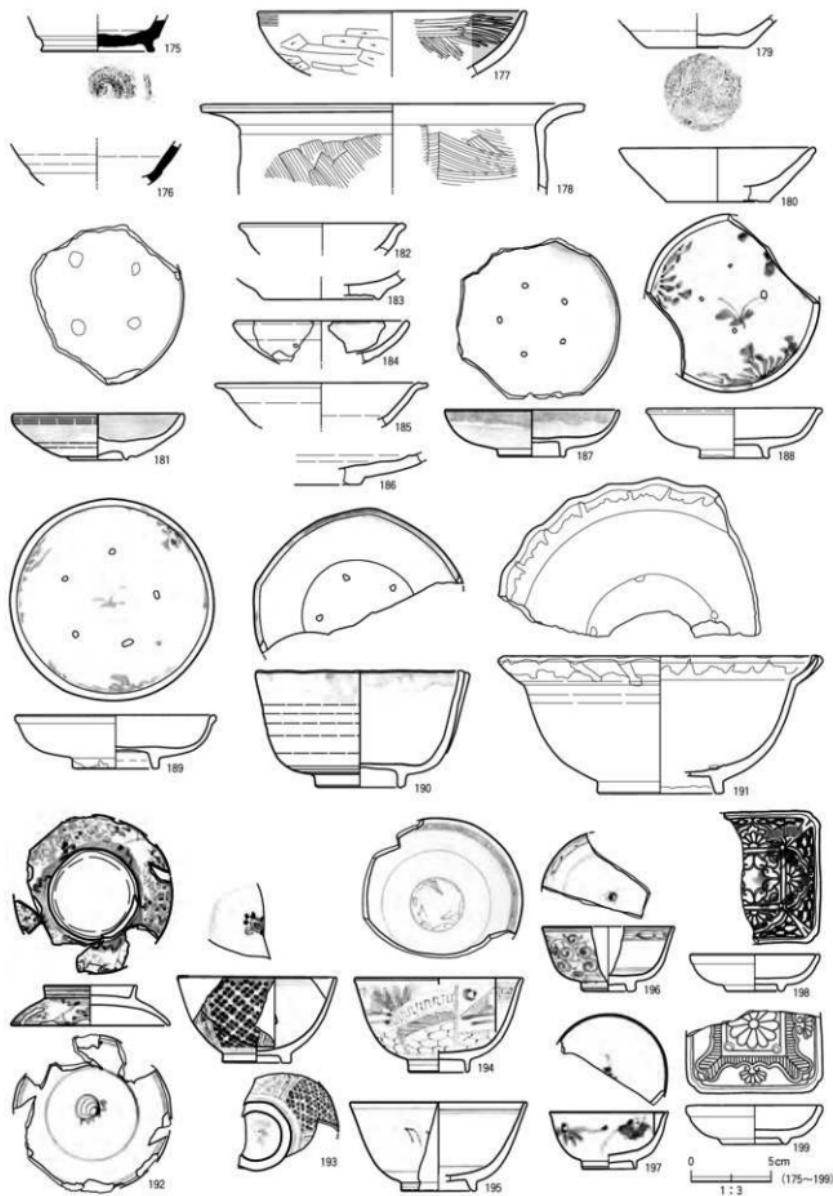
第37図 第4次調査7区出土遺物（3）



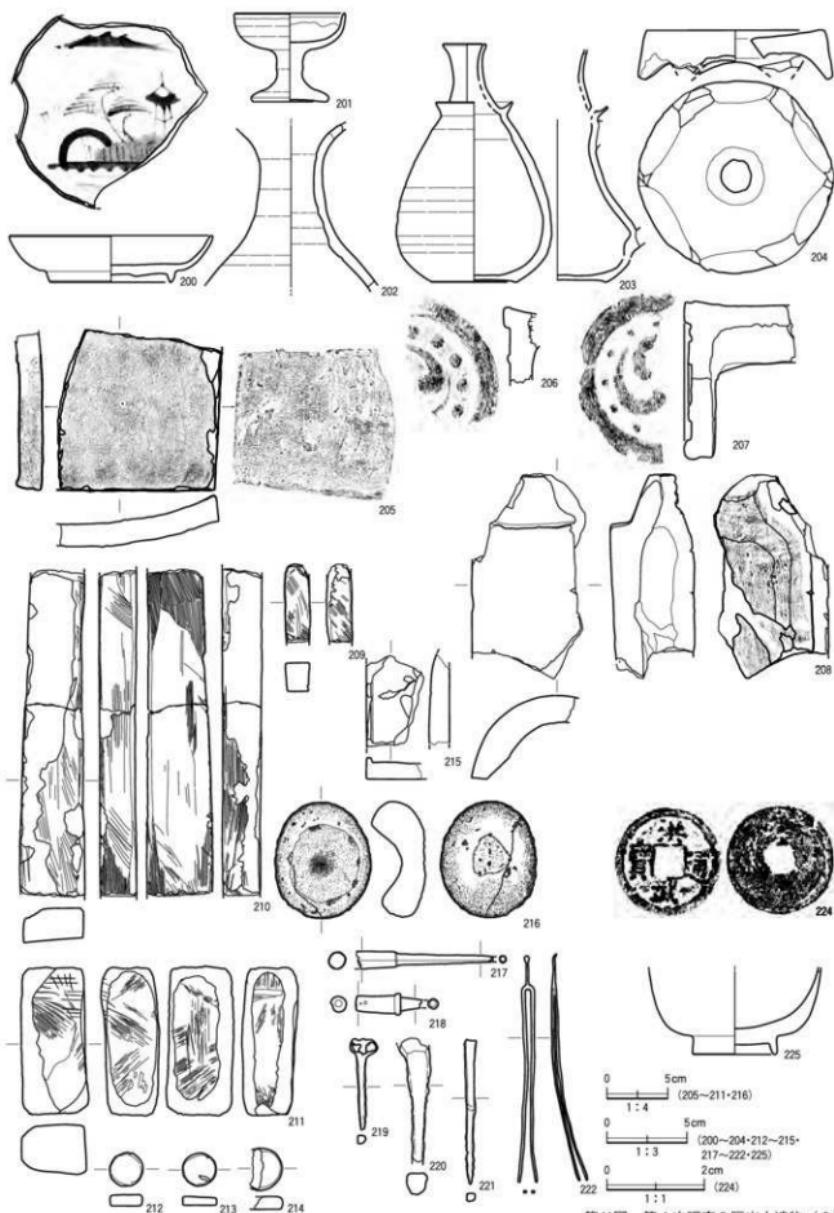
第38図 第4次調査8区全体図・層序・構造(1)



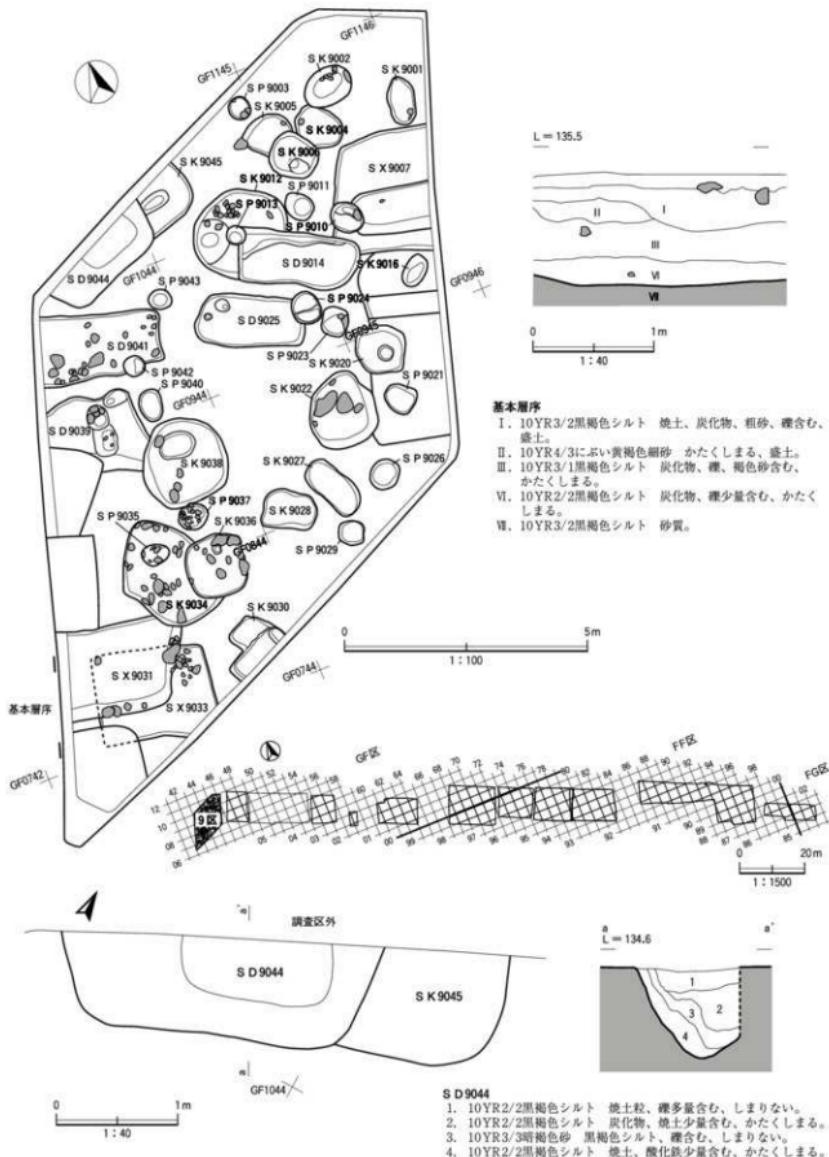
第39図 第4次調査8区遺構（2）



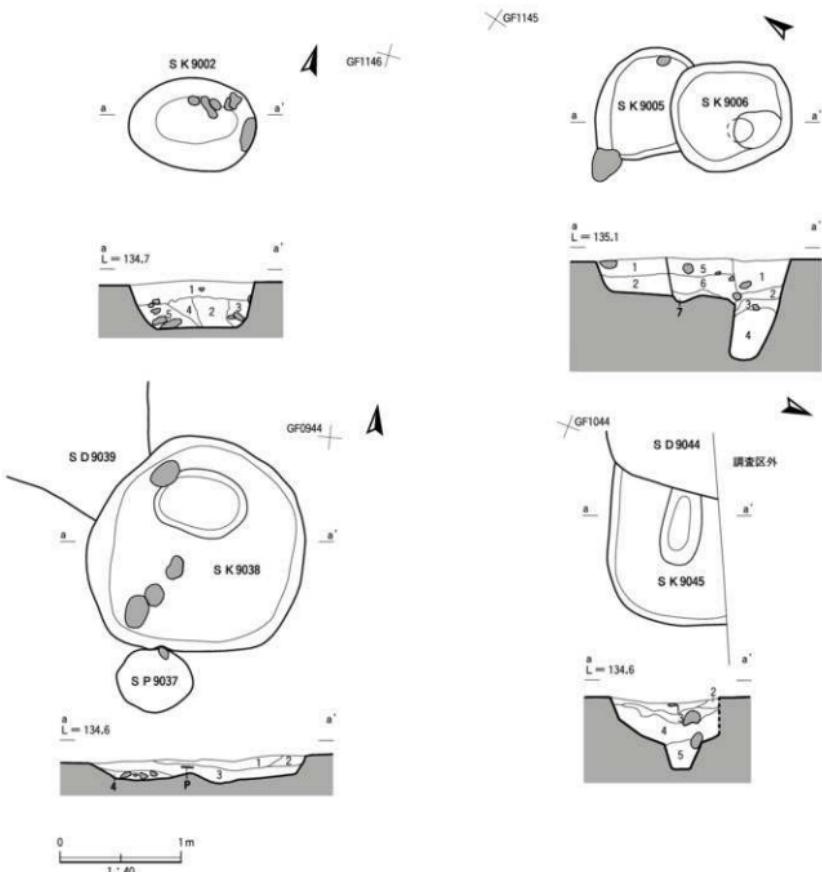
第40図 第4次調査8区出土遺物(1)



第41図 第4次調査8区出土遺物（2）



第42図 第4次調査9区全体図・層序・構造(1)



S K9002

- 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐色粗砂、小礫多量含む、しまりない。
- 10YR3/2黒褐色シルト 褐色少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色砂 黑褐色シルト、小礫多量含む、しまりない。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂、礫多量含む、しまりない。

S K9038

- 10YR3/1黒褐色砂 炭化物、礫含む。
- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
- 10YR2/1黑色シルト 炭化物多量含む、やわらかい。
- 10YR3/1黒褐色シルト 黑褐色シルト多量含む、かたくしまる。

S K9005

- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、褐色少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂含む、しまりない。

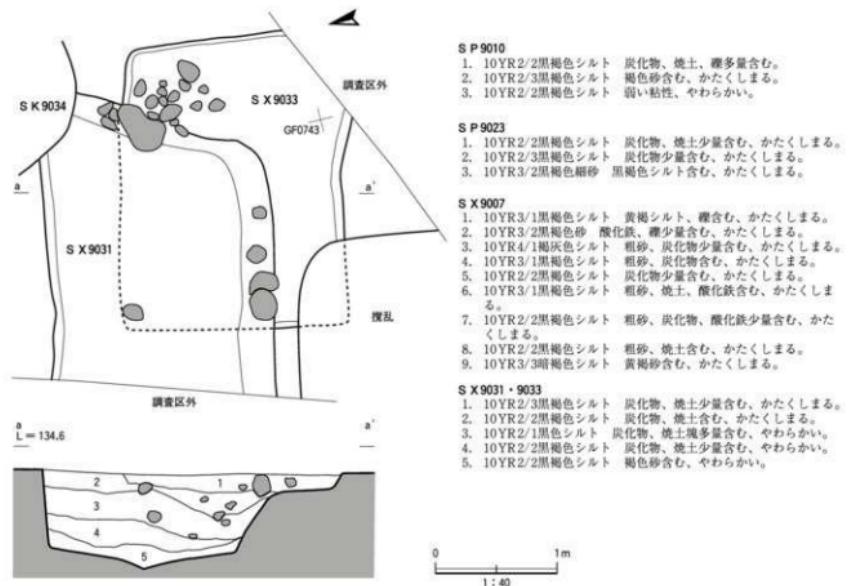
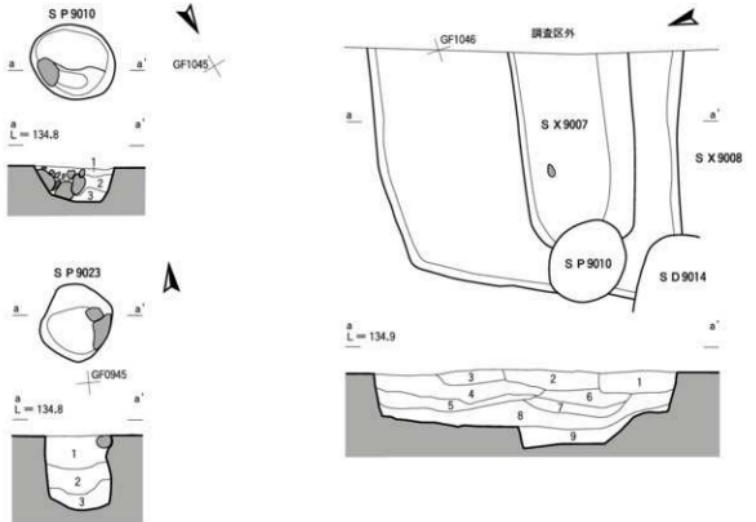
S K9006

- 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 褐色砂多量含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂少量化含む。
- 10YR2/2黒褐色シルト 矽含む、しまりない。
- 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、褐色少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色砂 黑褐色シルト含む、かたくしまる。

S K9045

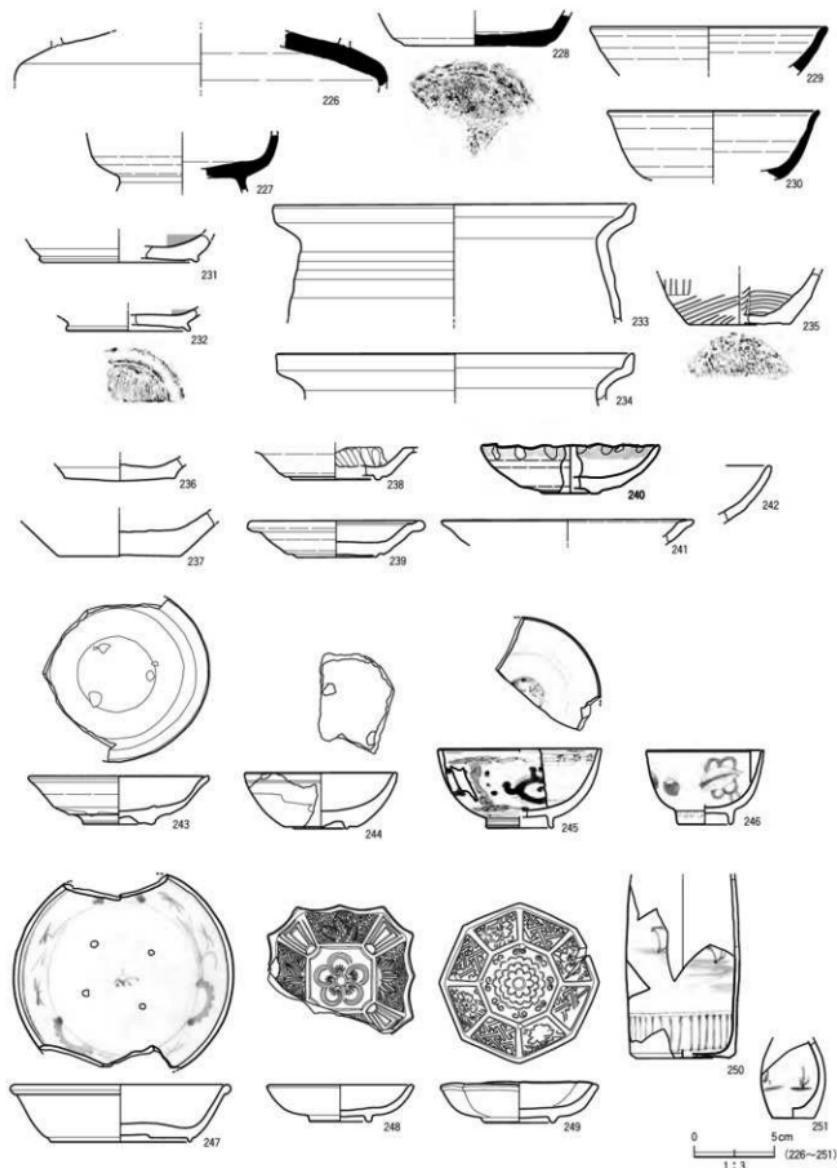
- 10YR2/1黑色シルト 淡化物、焼土多量含む。
- 10YR2/1黑色シルト 烧土粒少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、粗砂、小礫少量化含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色砂多量含む。

第43図 第4次調査9区遺構(2)

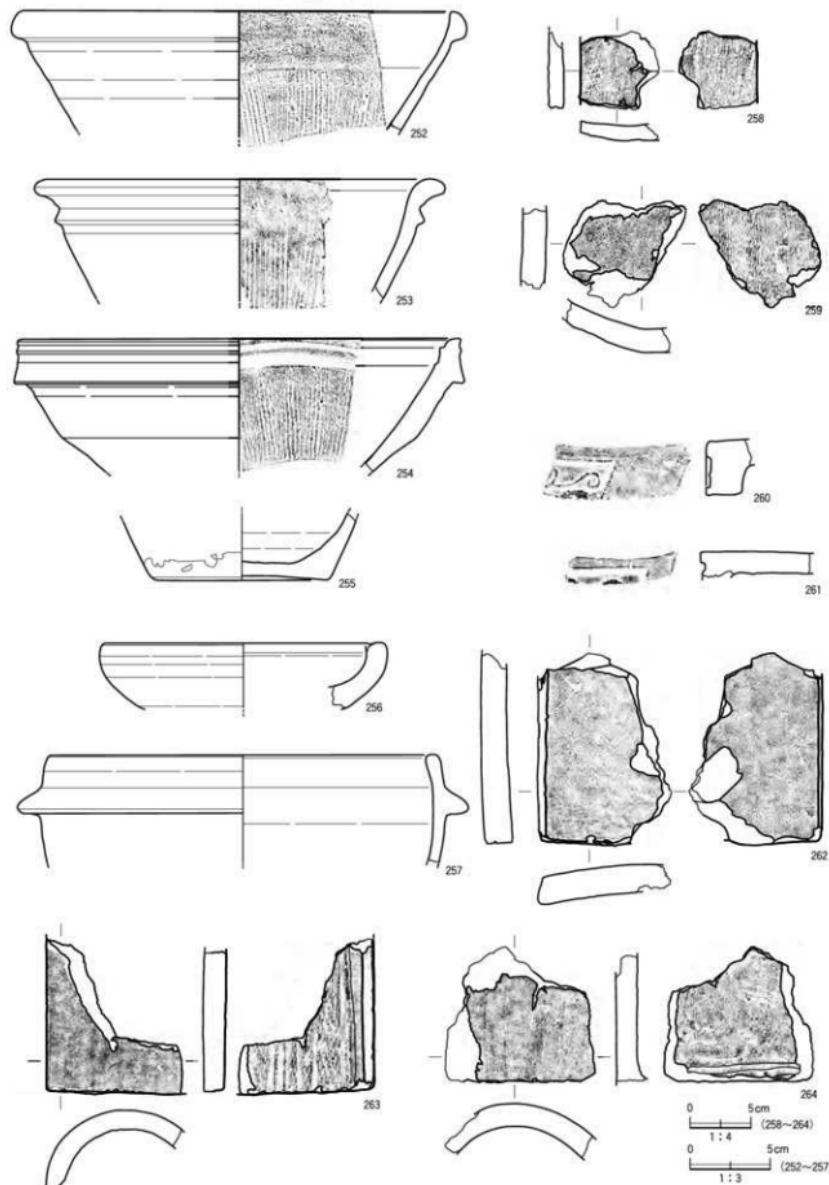


- SP9010**
- 10YR2/2黒褐色シルト 岩化物、焼土、繊維量含む。
 - 10YR2/3黒褐色シルト 褐色砂含む。かたくしまる。
 - 10YR2/2黒褐色シルト 弱い粘性、やわらかい。
- S X9007**
- 10YR3/2黒褐色シルト 黄褐色シルト、繊維含む。かたくしまる。
 - 10YR2/3黒褐色シルト 硫化物少量含む。かたくしまる。
 - 10YR2/2黒褐色シルト 黑褐色シルト含む。かたくしまる。
- SK9031・9033**
- 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルト、繊維含む。かたくしまる。
 - 10YR2/2黒褐色シルト 岩化物、焼土含む。かたくしまる。
 - 10YR2/1黒褐色シルト 岩化物、焼土量含む、やわらかい。
 - 10YR2/2黒褐色シルト 岩化物、焼土少量含む、やわらかい。
 - 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂含む。やわらかい。

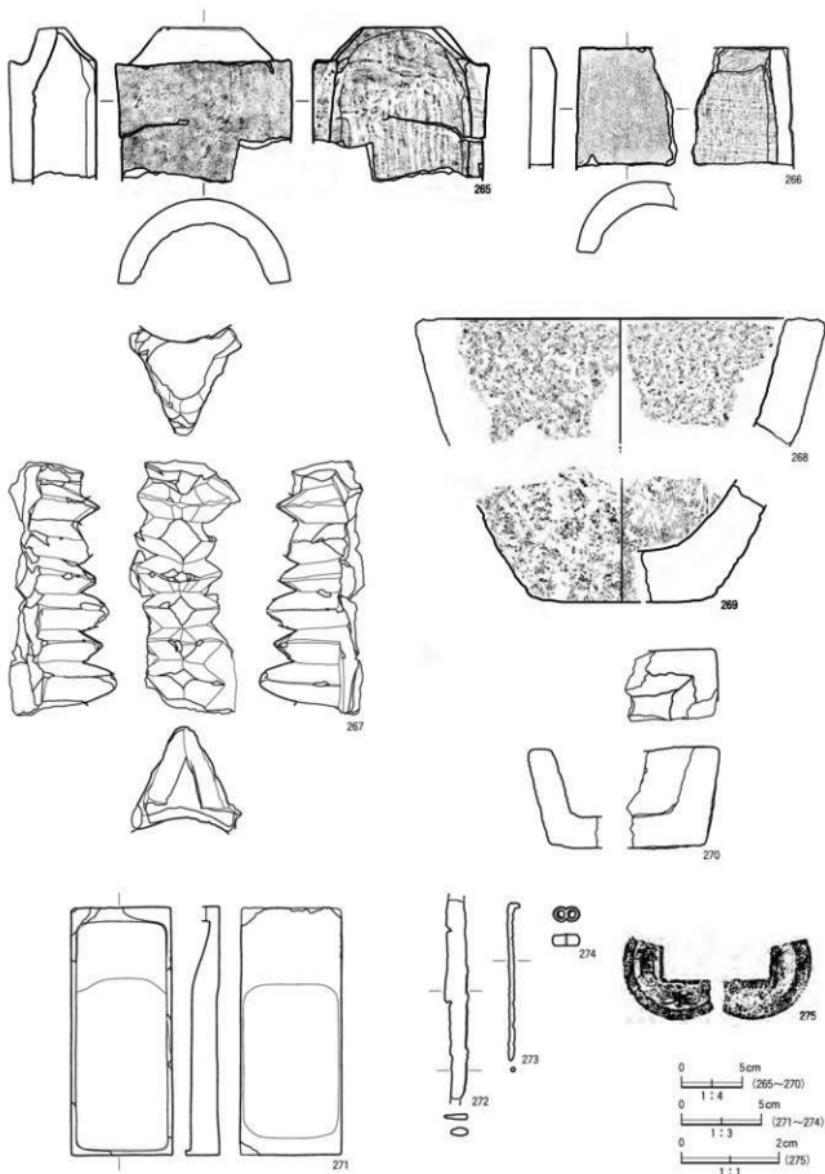
第44図 第4次調査9区遺構（3）



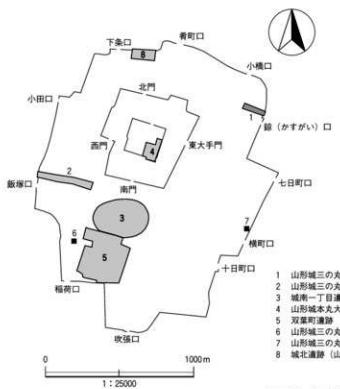
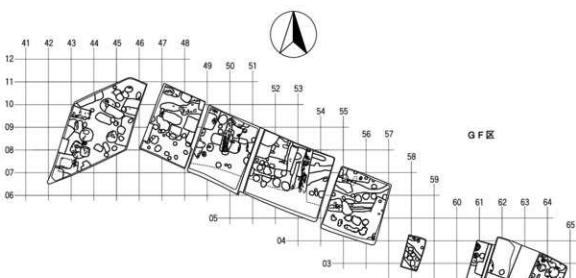
第45図 第4次調査9区出土遺物（1）



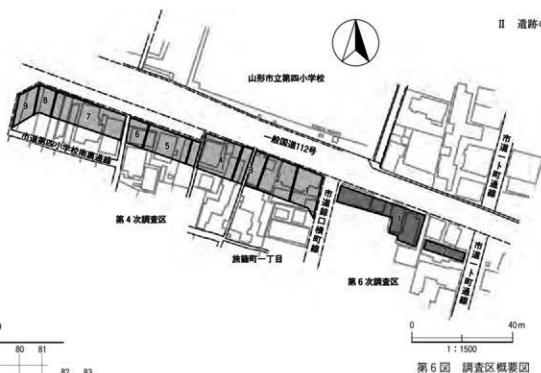
第46図 第4次調査9区出土遺物（2）



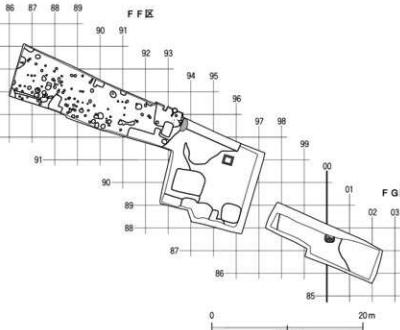
第47図 第4次調査9区出土遺物(3)



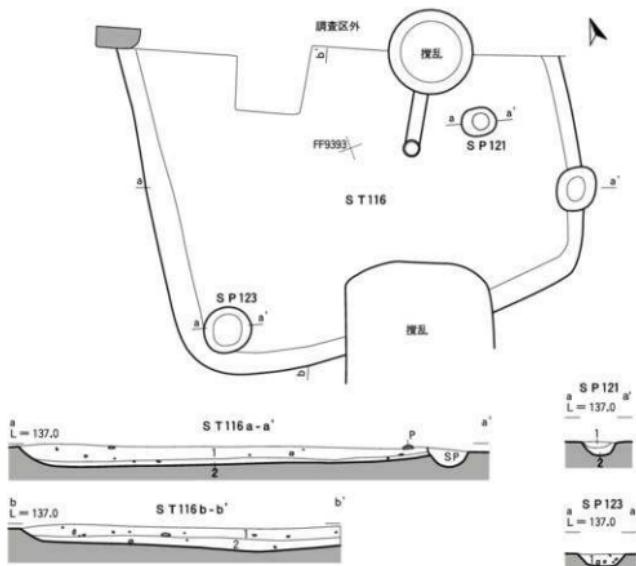
第4図 山形城虎口および遺跡配置図



第6図 調査区概要図



第3図 遺構配置図

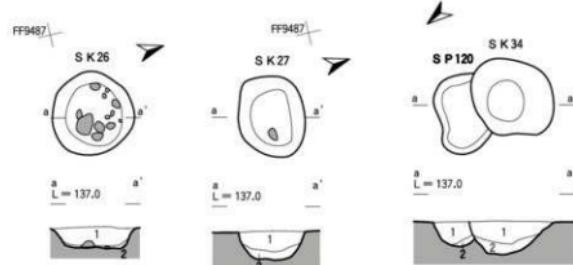


S K26

1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1 黒褐色砂質シルトを5%含む。

SK27

1. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを5%含む。



SK26

1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1 黒褐色砂質シルトを5%含む。

SK27

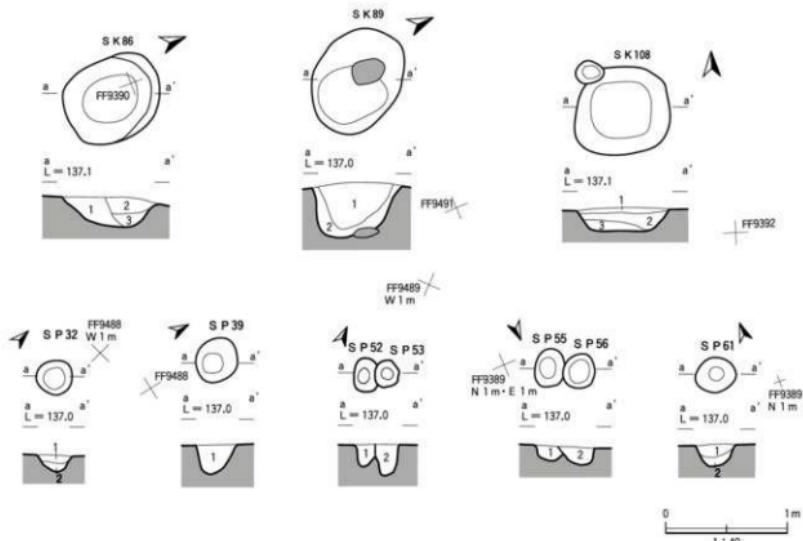
1. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを20%含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1 黑褐色砂質シルトを3%含む。

SK34

1. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2 黑褐色砂質シルトを5%含む。

SK35

1. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2 黑褐色砂質シルトを3%含む。



SK 86

- 10YR3/1 黒褐色砂質シルト。
- 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 20%含む。
- 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 15%含む。

SK 89

- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 3%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1 黑褐色砂質シルトを 20%含む。

SK 108

- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 2%含む。
- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 15%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1 黑褐色砂質シルトを 3%含む。

SP 32

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 10%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2 黑褐色砂質シルトを 5%含む。

SP 39

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 10%含む。

SP 52-53

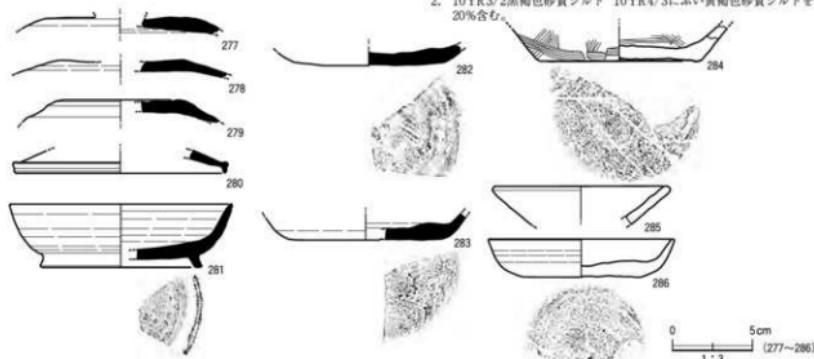
- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト。
- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 10YR4/4 棕褐色砂質シルトを 20%含む。

SP 55・56

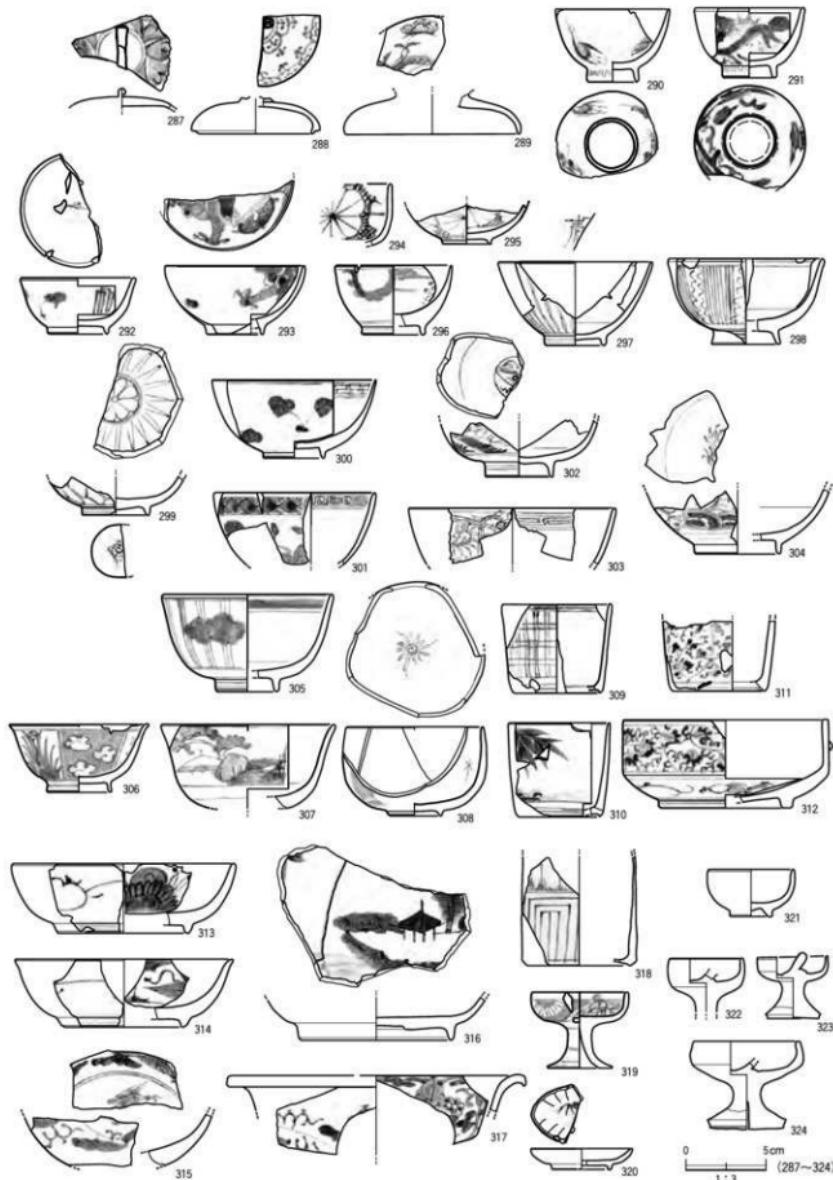
- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト。
- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト 10YR4/4 棕褐色砂質シルトを 20%含む。

SP 61

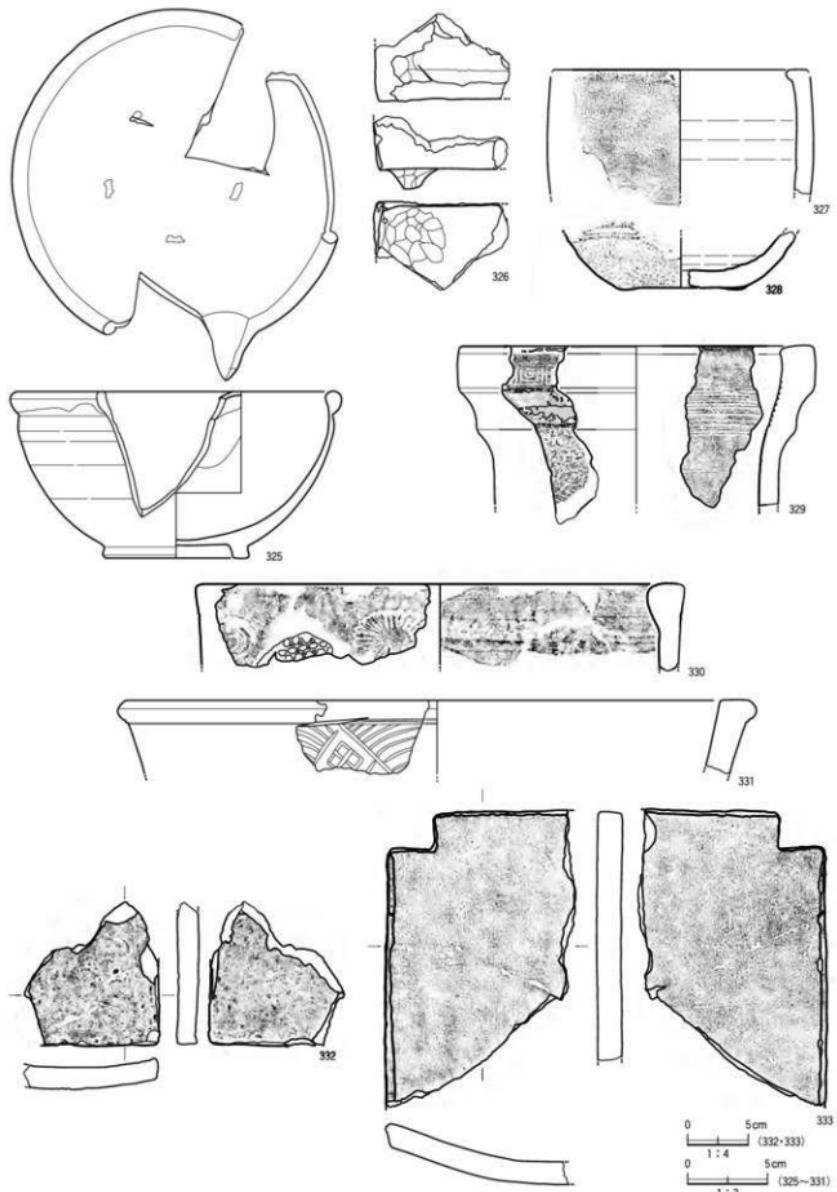
- 10YR3/1 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 10%含む。
- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを 20%含む。



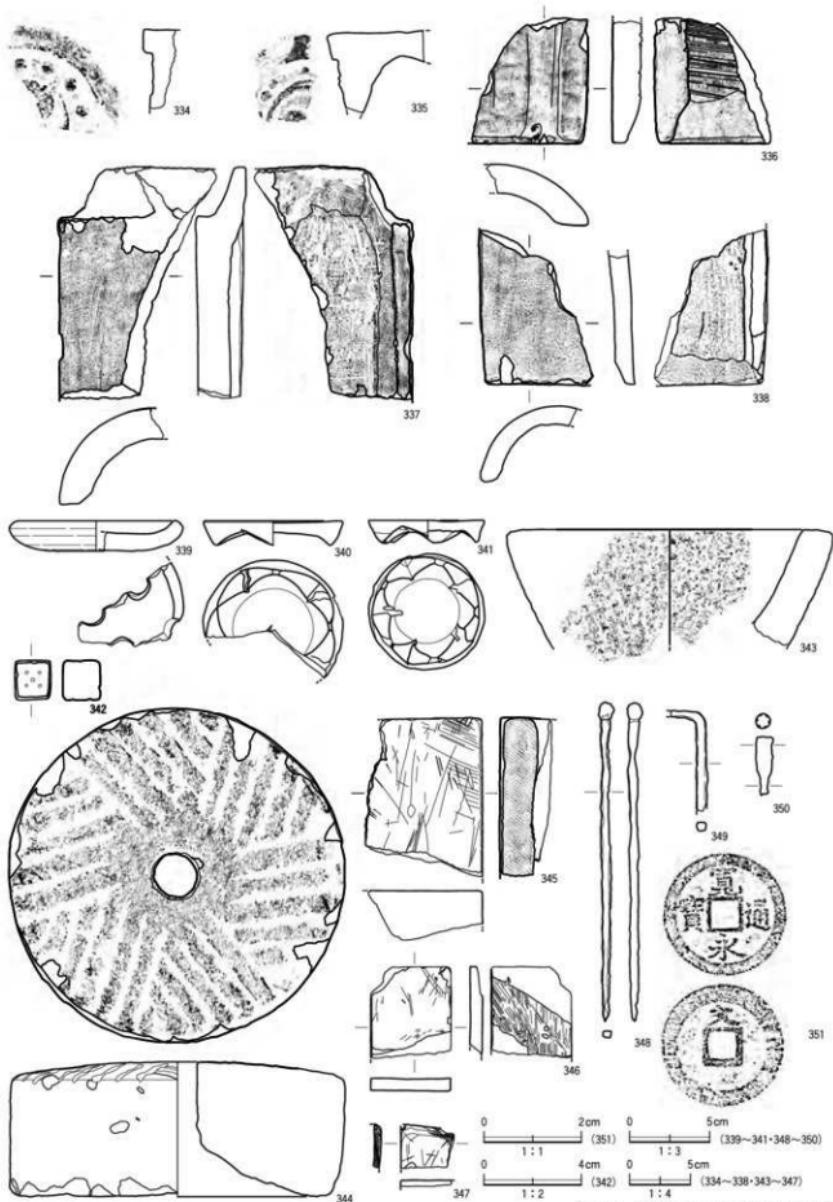
第50図 第6次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)



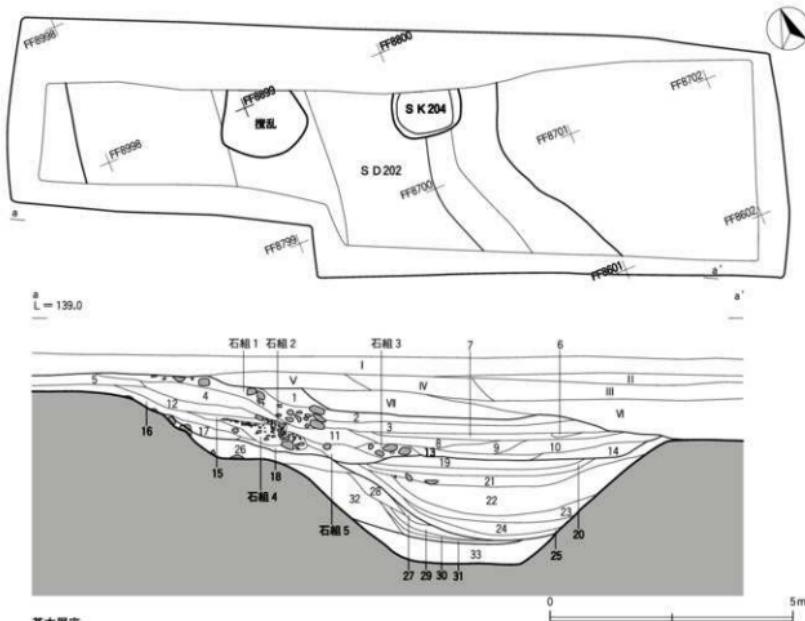
第51図 第6次調査1区出土遺物(2)



第52図 第6次調査1区出土遺物(3)



第53図 第6次調査1区出土遺物(4)

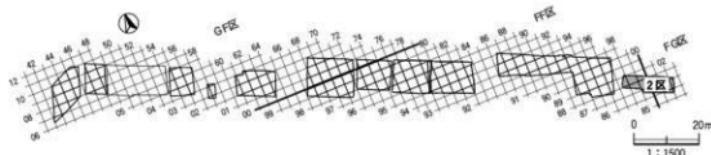


基本層序

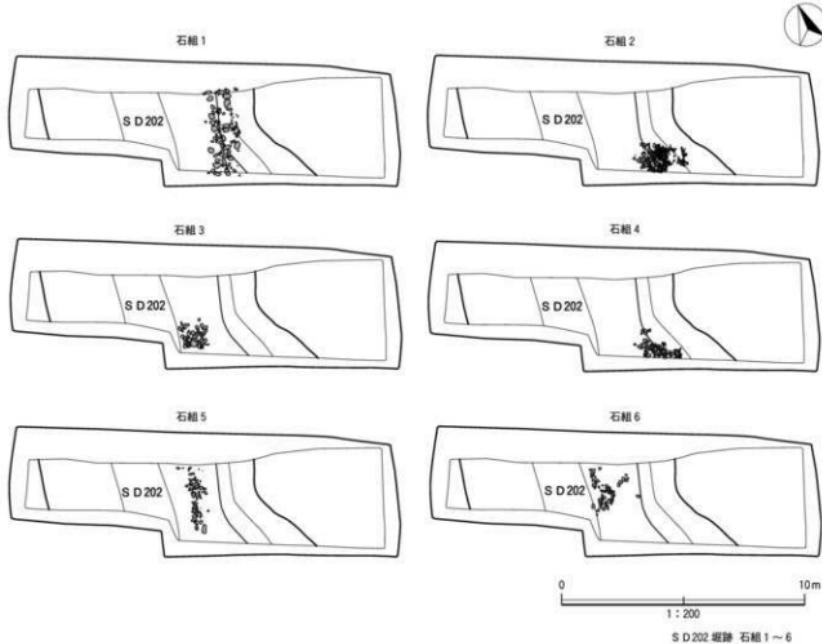
- 砂層。 (現代の整地層)
 - 10YR3/2黒褐色シルト 廃材等含む。 (現代の整地層)
 - 10YR3/1黒褐色シルト。 (現代の整地層)
 - 10YR4/2灰褐色シルト 小礫、炭化物を含む。 (現代の整地層)
 - 10YR3/1黒褐色シルト 小礫を含む。炭化物を多量に含む。(火事後の整地層か)
Ⅵ. 硅藻。大型の量を多量に含む。
 - Ⅶ. 廃物層。 (小便後の整地層)

S P 202

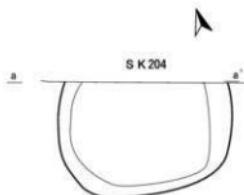
1. 10YR3/3¹黒褐色シルト 粘土を含む。
2. 10YR3/3¹ぶい黃褐色シルト 粘土を含む。
3. 10YR3/2¹黒褐色シルト 粘土を含む。
4. 10YR3/2¹黒褐色シルト。
5. 10YR3/1 黑褐色シルト。炭化物を含む。
6. 10YR4/2¹灰黃褐色シルト。炭化物を多量に含む。
7. 10YR4/2¹灰黃褐色シルト。
8. 10YR4/2¹灰黃褐色シルト。粘土のブロック含む。
9. 10YR3/2¹黒褐色シルト。
10. 10YR4/2¹灰黃褐色シルト。砂を含む。
11. 10YR3/3¹黒褐色シルト。炭化鉱物を含む。
12. 10YR3/2¹黒褐色シルト。炭化鉱物を含む。
13. 10YR5/2¹灰黃褐色シルト。炭化鉱物を含む。
14. 10YR5/2¹灰黃褐色シルト。
15. 10YR3/3¹黒褐色シルト。
16. 10YR3/1 黑褐色シルト。 10YR4/2¹灰黃褐色シルトを20%含む。
17. 10YR3/2¹黒褐色シルト。
18. 10YR4/1 黑褐色シルト 10YR5/2¹灰黃褐色シルトを20%含む。
19. 10YR5/2¹3浅灰色粗砂。
20. 25Y6 3/にぶい黃褐色粗砂。礫、遺物を含む。
21. 10YR5/1 黑褐色粗質土。
22. 25Y7/3浅灰色。
23. 10YR5/1¹灰黃褐色粗質土。
24. 25Y6 1¹灰褐色。
25. 25Y6 4/にぶい黃褐色。 10YR5/1¹灰褐色シルトを帶状に含む。
26. 10YR4/2¹灰黃褐色砂質土。
27. 10YR6/4¹にぶい黃褐色粗砂。
28. 10YR5/4¹にぶい黃褐色粗砂。 大型の礫を含む。
29. 25Y6 2¹灰黃褐色。
30. 25Y5 1¹黄褐色。
31. 25Y6 1¹黄褐色。
32. 25Y6 2¹灰黃褐色。 大型の礫を含む。
33. N15/1黑色粗質土。



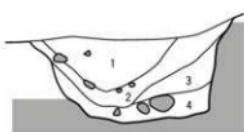
第54図 第6次調査2区全体図・層序・遺構(1)



FFB800



L = 137.0

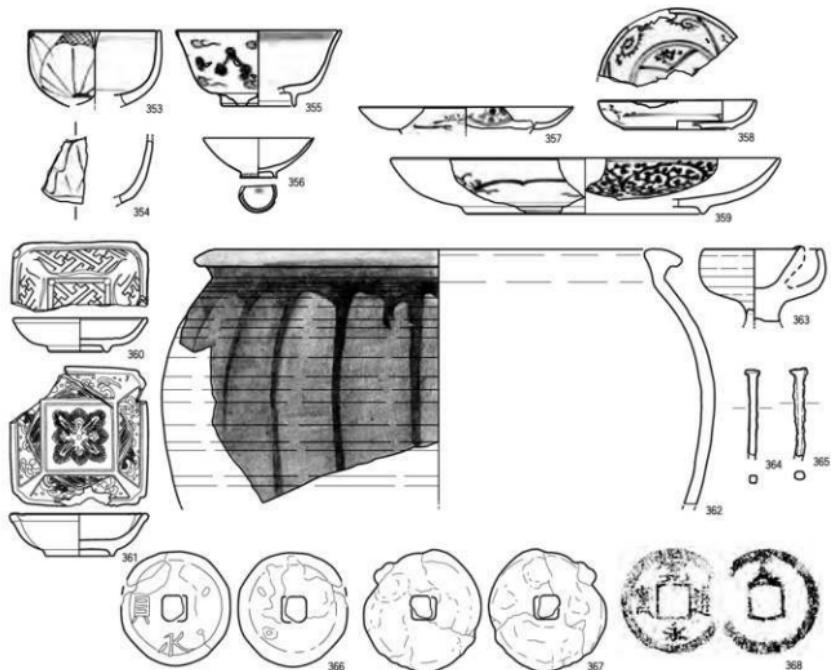


SK 204

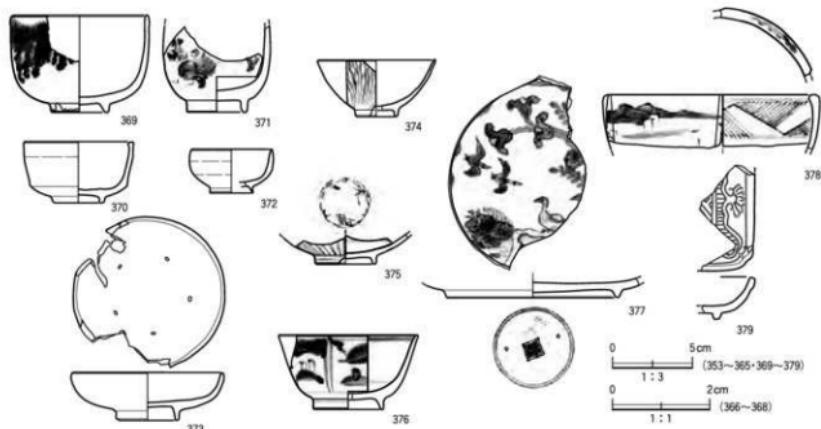
1. 10YR4/1褐色灰色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトのブロックを含む。
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト。
3. 10YR4/1褐色シルト。
4. 10YR3/1黒褐色粘質土 砂を含む。

0 1m
1 : 40

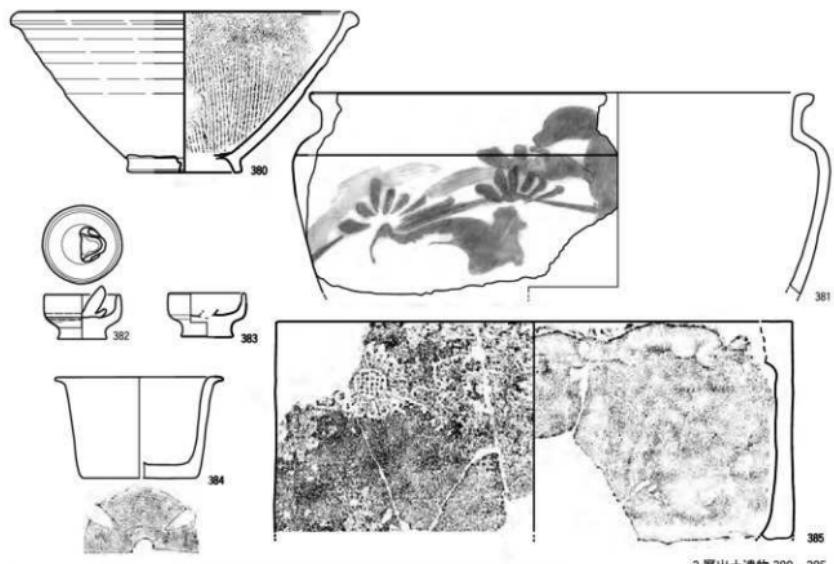
第55図 第6次調査2区遺構(2)



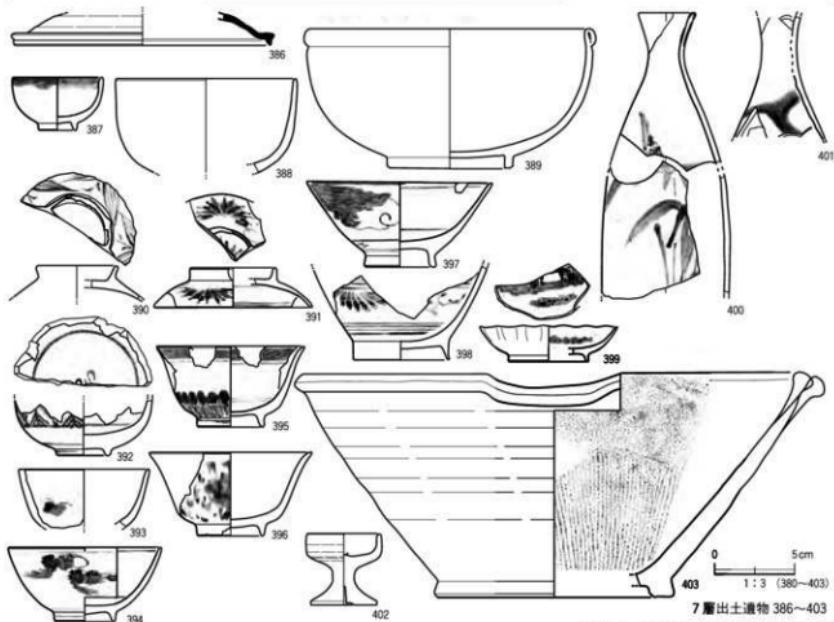
2層出土遺物 353~368



3層出土遺物 369~379
第56図 第6次調査2区出土遺物(1)

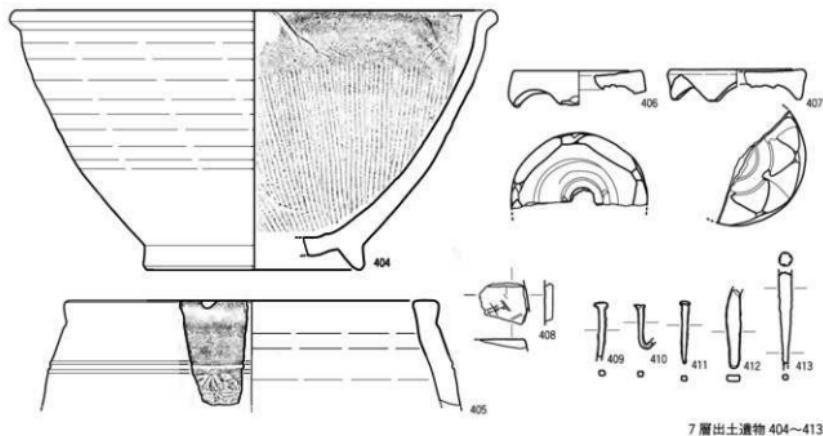


3層出土遺物 380~385

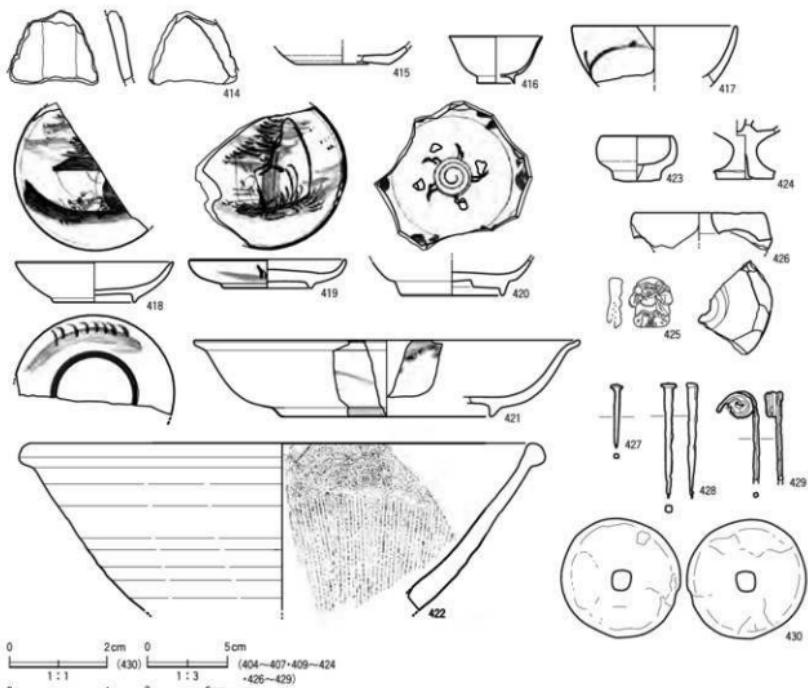


7層出土遺物 386~403

第57図 第6次調査 2区出土遺物(2)

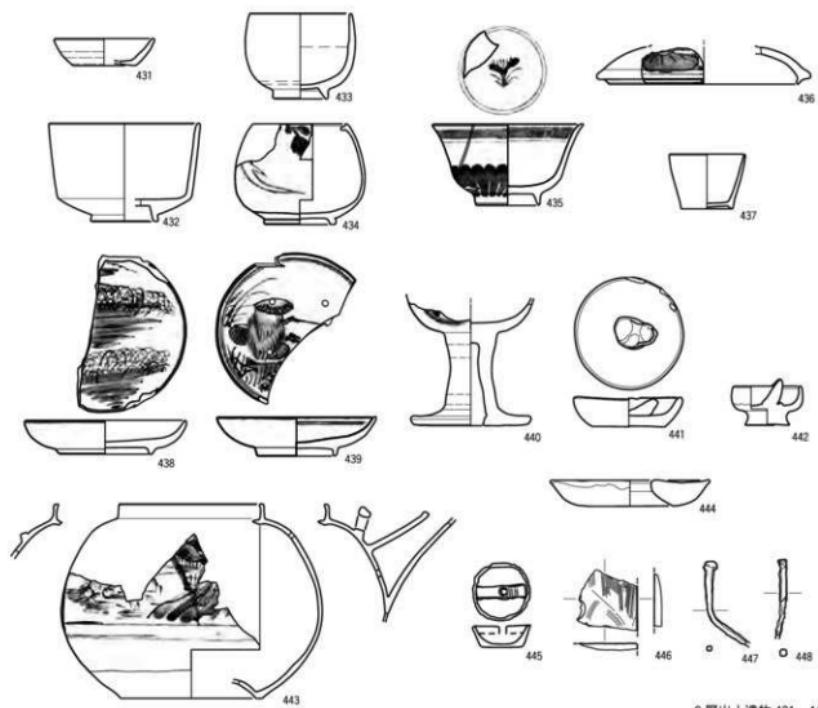


7層出土遺物 404~413

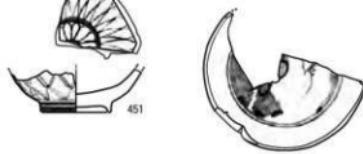
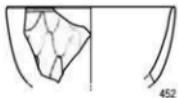
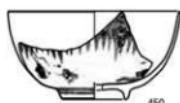


8層出土遺物 414~430

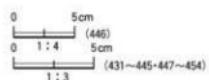
第58図 第6次調査2区出土遺物(3)



9層出土遺物 431~448

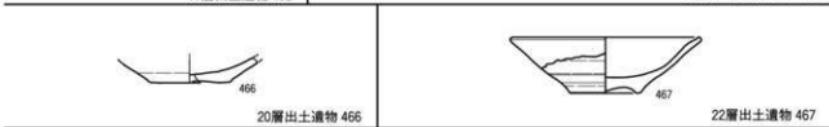
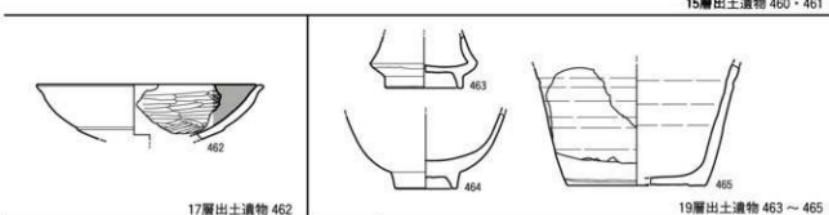
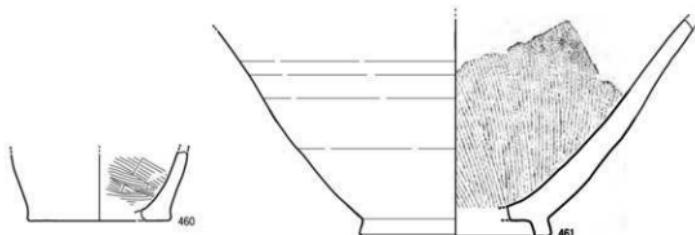
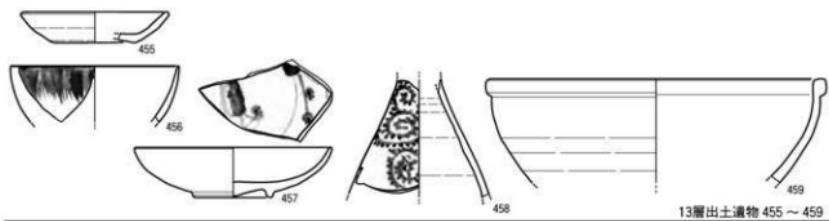


10層出土遺物 449~450



11層出土遺物 451~454

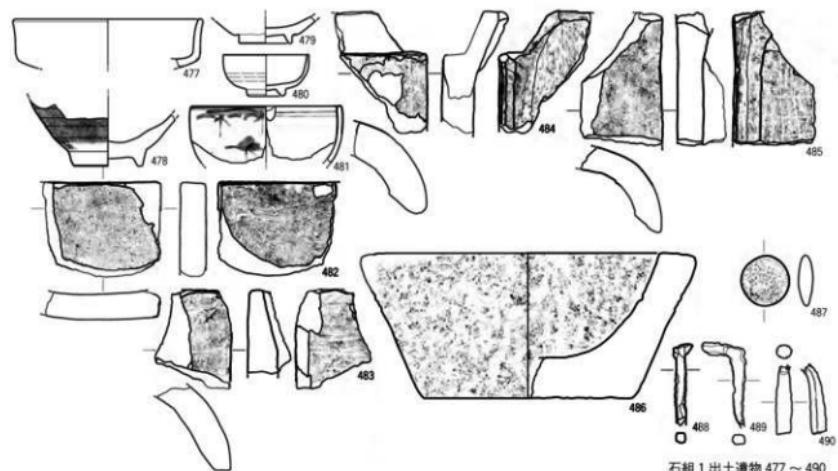
第59図 第6次調査2区出土遺物(4)



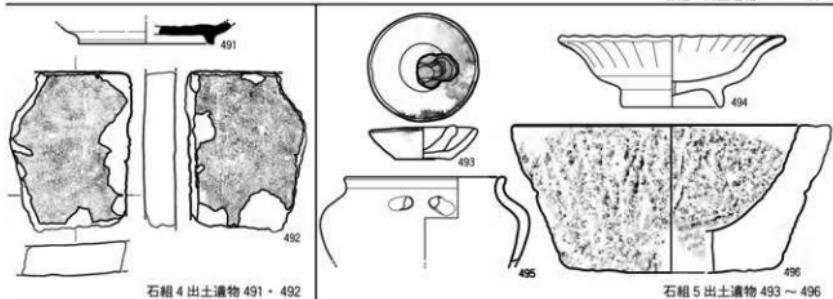
0 2cm
1:1
0 4cm
1:2 5cm
1:3

(474-475)
(476)
(477)

第60図 第6次調査2区出土遺物(5)

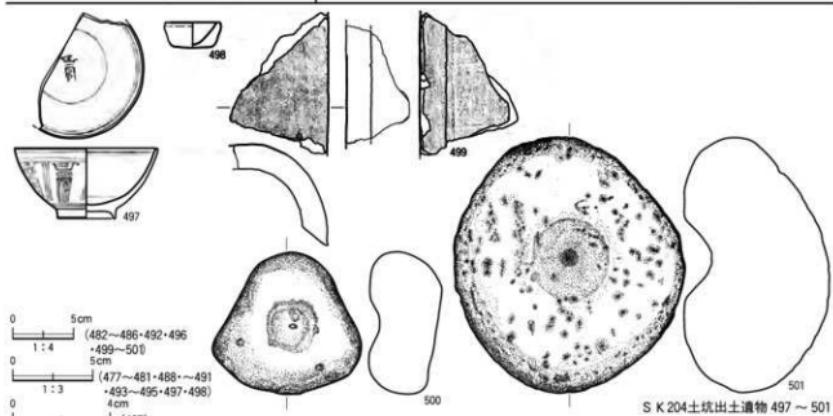


石組 1 出土遺物 477 ~ 490



石組 4 出土遺物 491 ~ 492

石組 5 出土遺物 493 ~ 496

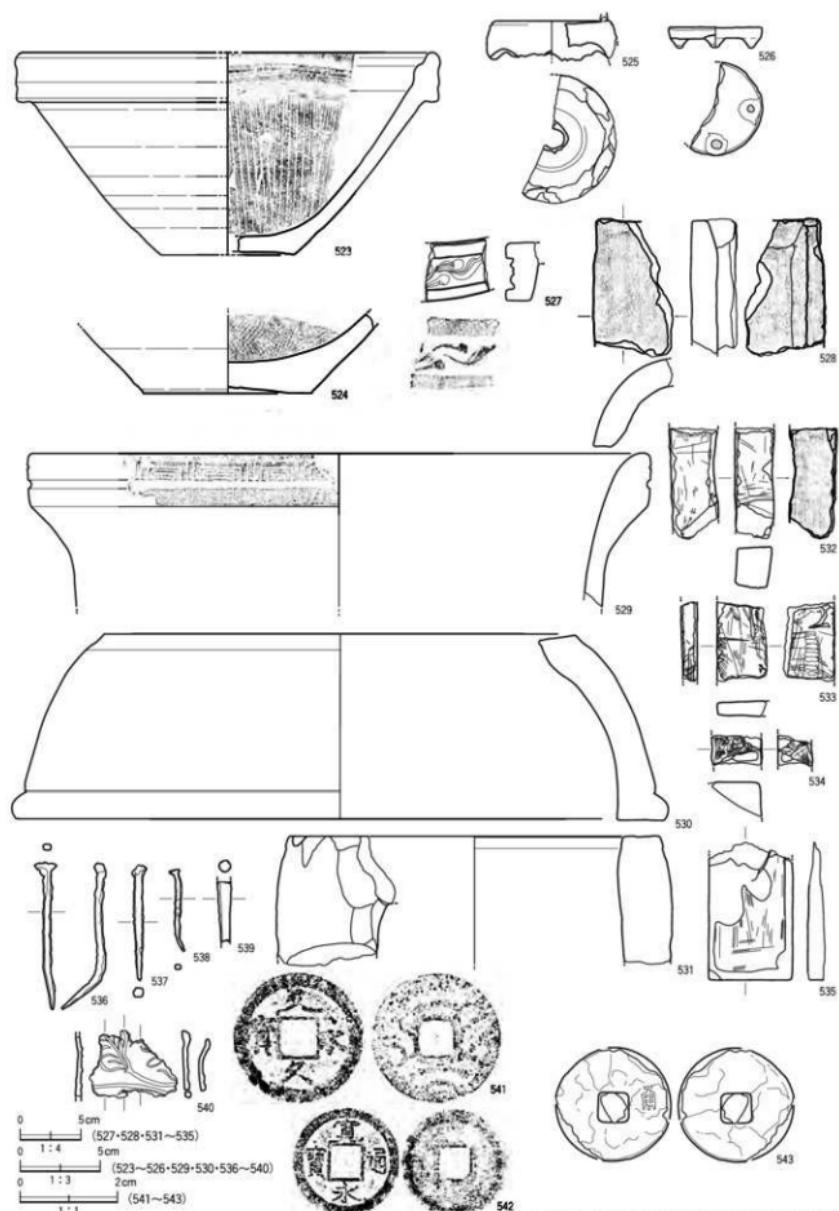


第61図 第6次調査 2区出土遺物 (6)

0 5cm
1:4 (482~486・492・496
·499~501)
0 5cm
1:3 (477~481・488~491
·493~495・497~498)
0 4cm
1:2 (487)



第62図 第6次調査2区遺構外出土遺物（1）



第63図 第6次調査2区遺構外出土遺物(2)

表5 遺物觀察表

番号	種類	区	出土地点	胎土色調	輪色調(表面色調)	口径	底径	高さ	肩厚	備考
1	陶器	环	1区 S-P1009 F2	5Y5/1 黄	7.5Y6/2 黄	165	22	41.7C	8-9C	
2	陶器	环	1区 S-P1009 F3	7.5Y6/2 黄	7.5Y6/2 黄	88	12	41.7C	8-9C	
3	陶器	环	1区 S-P1009 F4	5Y5/1 黄	7.5Y6/2 黄	92	12	41.7C	8-9C	
4	陶器	环	1区 東側 墓場	7.5Y5/1 黄	7.5Y5/1 黄	368	10	41.7C	8-9C	波紋瓦
5	陶器	环	1区 S-D1026 F1	7.5Y5/1 黄	7.5Y5/1 黄	100	6	8C	8-9C	
6	土器	环	1区 西側 墓場	5Y5/0 黑赤褐	5Y5/0 黑赤褐	60	9	9.5C	8-9C	
7	土器	环	1区 S-X1019 F3	5Y7 R6-6 紅	5Y7 R6-6 紅	144	100	8	8C	8-9C
8	土器	环	1区 S-P1061 F1	10Y R7/4 に赤い斑痕	5Y7/1 黄白	170	128	47.5	26	51.13C 中国南 嘉陵江系
9	青銅	鍔	1区 S-K1010 F2	5Y7/1 黄白	5Y6/3 オリーブ黄	170	128	47.5	26	51.13C 中国南 嘉陵江系
10	陶器	環	1区 F'9280 墓場	5Y6/4 に赤い斑	5Y7/1 黄白	80	52	37.5	25	41.9C
11	磁器	(未収)	1区 F'9483 I 墓	N8.0 黄白	透明釉(5G Y8.1 黄白)	78	82	37.5	25	41.9C
12	陶器	環	1区 S-D1026 F1	N8.0 黄白	透明釉(N8.0 黄白)	80	52	37.5	25	41.9C
13	陶器	環	1区 S-D1026 F2	N8.0 黄白	透明釉(N8.0 黄白)	82	52	37.5	25	41.9C
14	陶器	環	1区 F'9483 I 墓	N8.0 黄白	透明釉(5G Y8.1 黄白)	83	52	37.5	25	41.9C
15	瓦	瓦	1区 S-X1065	2.5Y6/2 黒黒	N8.0 黄	20	20	20	20	
16	瓦	瓦	1区 S-K4040 F1	2.5Y8/2 黃白	N5.0 黄	280(箱)	17	27.5		
17	金屬製品	劍	1区 S-X1019 F3	7.5Y5/0 黑	7.5Y5/0 黑	304(刀)	14(刀)	15		
18	金屬製品	劍	1区 S-X1055 F3	7.5Y5/0 黑	7.5Y5/0 黑	96(刀)	16(刀)	7		
19	金屬製品	鉗	1区 机軸			25(刀)	25(刀)	11	宣德年造	
20	頭飾	環	1区 S-X2009 F1	5Y5/2 黒オリーブ	5Y5/2 黒オリーブ	114	80	7.5	8C	
21	土器	环	2区 S-P2061 F1	7.5Y R6-6 紅	7.5Y R6-6 紅	61(刀)	61(刀)	61(刀)	61(刀)	61(刀) 内黒 右旋
22	土器	环	2区 F'9582 墓場	7.5Y5/2 黒黒	7.5Y5/2 黒黒	114	50	28	5.5	16.6C 錦州 扇形
23	陶器	環	2区 F'9582 墓場	2.5Y5/2 黒黒	2.5Y5/2 黒黒	198	50	28	5.5	16.6C 錦州 扇形
24	陶器	環	2区 F'9582 墓場	2.5Y5/2 黒黒	2.5Y5/2 黒黒	21(刀)	21(刀)	61(刀)	61(刀) 内黒 大目	
25	陶器	環	2区 S-X2009 F3	N8.0 黄白	透明釉(5G Y8.1 黄白)	106	38	58.5	41	在地
26	陶器	不明	2区 S-P2000 F1					11		
27	陶器							10		
28	石製品	円盤状有孔石製品	2区 N縦							
29	金屬製品	環	2区 N縦			84(刀)	10(刀)			
30	金屬製品	劍	2区 S-X2054 F1			46(刀)	14(刀)	5		
31	金屬製品	鉗	2区 S-P2053 F1			29(刀)	24(刀)	1	明成化元年	
32	金屬製品	鉗	2区 S-X2054 F1			23(刀)	23(刀)	1	永樂通宝	
33	頭飾	耳垂	3区 S-X3049 F3	2.5Y5/2 黒黒	明黄			8		
34	頭飾	環	3区 S-X3005 F3	7.5Y5/0 黑	7.5Y5/0 黑			11.35	30-32C 同上	軸体部分
35	頭飾	環	3区 S-X3005 F3	7.5Y5/0 黑	7.5Y5/0 黑			11.35	30-32C 同上	軸体部分
36	頭飾	環	3区 S-D3035 F1	N4.1 黄	N4.1 黄			10	34.35-37C 同上	軸体部分
37	土器	高身杯	3区 S-X3049 F1	5Y7 R6-6 紅	5Y7 R6-6 紅	66		61	9C 黃	内黒
38	土器	环	3区 S-X3049 F2	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	132		61	8C 黃～中 内黒	
39	小わらわ	竹筒	3区 N縦	10Y R7/3 に赤い斑痕	10Y R7/3 に赤い斑痕	100	50	32	61	付着物
40	小わらわ	竹筒	3区 S-X3000 F3	10Y R7/3 に赤い斑痕	10Y R7/3 に赤い斑痕	100		61	付着物	
41	陶器	環	3区 S-X3046 F2	10Y R7/1 黄白	2.5Y6/2 黃	101		51	16.6C 黃～17C 肥前	
42	青銅	香炉	3区 F'9274 墓場	2.5Y7/1 黄白	10G Y7/1 明細			81	17C 黃～18C 前 肥前	
43	金屬製品	鉗	3区 S-D3035 F1					14枚重着 水滸通宝		
44	頭飾	耳垂	4区 V縦	2.5Y6/2 黃	2.5Y6/2 黃			7.5C		
45	頭飾	环	4区 S-P4034 F2	5Y5/1 黄	5Y5/1 黄	90		5.5	8C	
46	頭飾	环	4区 S-L5948 F2	2.5Y5/2 黑	2.5Y5/2 黑	100		6.5	8C	
47	青銅	劍	4区 S-P4009 F1	2.5Y5/2 黑	2.5Y5/2 黑	80		7	8C	
48	土器	環	4区 V縦	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	74		71	木質	
49	土器	奥	4区 S-P4019	10Y R7/4 に赤い斑痕	10Y R7/4 に赤い斑痕	74		81	8C 黃	
50	空筒形陶器	休	4区 S-X4039 F3	2.5Y5/1 黄	2.5Y5/1 黄	310		14.5		
51	單管首形陶器	休	4区 S-X4039 F3	5Y5/1 黄	5Y5/1 黄	106		16	13-14C	
52	陶器	環	4区 S-X4051 F2	5Y6/4 に赤い斑	2.5Y6/2 黃白	120	50	32	5.5	17C 錦州 肥前 康定着
53	陶器	環	4区 S-P4043 F2	2.5Y5/1 黑	2.5Y3/2 黑	57	5	16	16.6C 錦州 濟寧 天日	
54	青銅	劍	4区 S-D4056 F1	10Y R6/3 に赤い斑痕	5Y6/3 オリーブ黄			10	13C 中国南	
55	頭飾	環	4区 S-D4006 F2	10Y R1 黄白	透明釉(10G Y8.1 明細)	109	55	25	3.15-16C 中国南 黄色	
56	頭飾	(未収)	4区 V縦	N8.0 黄白	透明釉(N8.0 黄白)	98		30	4.5C 肥前	
57	陶器	環	4区 X4046 F1	2.5Y5/3 に赤い斑痕	2.5Y5/3 オリーブ黒	92		20	6.5	
58	陶器	環	4区 D4056 F1	2.5Y5/3 に赤い斑痕	2.5Y5/3 に赤い斑痕	29		6.5	肥前	
59	瓦	瓦	4区 X4046 F1	10Y R5/1 黄白	10Y R5/1 黄白	290	130	60	15	
60	瓦	瓦	4区 V縦	2.5Y6/2 黃白	2.5Y5/1 黄			301(山) 隆光		
61	石製品	劍	4区 V縦			82(刀)	77(刀)	36	中央四	
62	石製品		4区 S-X4000 F2			60(刀)	53(刀)	34	中央四	
63	石製品	円盤状有孔石製品	4区 S-X4012			30(刀)	30(刀)	8		
64	瓶	歩道	4区 S-D4056 F1			69(刀)	5(刀)			
65	金屬製品	劍	4区 V縦			50(刀)	4.5(刀)			
66	金屬製品	劍	4区 S-X4002 F1			51(刀)	3(刀)			
67	金屬製品	劍	4区 V縦			115(刀)	3(刀)			
68	移行點頭器	鐵	4区 S-X4039 F3			99(刀)	5.5(刀)			
69	青銅	劍	4区 S-X4053 F2							
70	青銅	劍	4区 S-X4054 F2							
71	陶器	合子	5区 S-X5021 F2	N8.0 黄白	透明釉(5G Y8.1 黄白)	50		10	41	要覧
72	石製品	瓦	5区 S-X5021 F2	2.5Y7/3 黃		40(刀)	12(刀)	30	中型	
73	金屬製品	環	5区 乗馬			50(刀)	9(刀)	5		
74	金屬製品	劍	5区 S-X5024 F1			59.5(刀)	9(刀)			
75	金屬製品	劍	5区 S-X5006 F4			8(刀)	8(刀)	8.5		
76	金屬製品	劍	5区 S-X5006 F4			8(刀)		6		
77	鍔	刀	6区 S-X6019 F1	10Y R5/4 に赤い斑痕	2.5Y6/2 黃オリーブ	151		51.15-56C 中国南		
78	鍔	刀	6区 S-X6019 F3	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	234		41	靖文後	
79	鍔	刀	6区 S-X6010 F3	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	153		51.15-56C 中国南		
80	鍔	刀	6区 S-X6009 F4	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	153		51.15-56C 中国南		
81	頭飾	耳垂	6区 S-X6019 F2	2.5Y5/1 黑	2.5Y5/1 黑			51	靖文後	
82	土器	高身	6区 S-T6002 F1	7.5Y R7/6 黄	7.5Y R7/6 黄			88	7.5C 黄	
83	土器	休	6区 S-X6019 F3	10Y R7/3 に赤い斑痕	10Y R7/3 に赤い斑痕	70	48	33	41	
84	土器	休	6区 S-T6001 F1	7.5Y R7/6 黄	7.5Y R7/6 黄	152		81.15-86C 有段		
85	土器	休	6区 S-T6006 F1	10Y R7/4 に赤い斑痕	10Y R7/4 に赤い斑痕	138		41.8C	内黒 有段	
86	土器	休	6区 S-T6014 F1	2.5Y7/3 黃	2.5Y7/3 黃	142		41.8C	内黒 有段	
87	土器	休	6区 S-T6016 F1	2.5Y7/4 黄	2.5Y7/4 黄	140		41.8C	内黒 有段	
88	土器	休	6区 S-T6046 F6	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	140		51.8C	内黒 有段	
89	土器	休	6区 S-T6006 F1	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	140		51.8C	内黒 有段	
90	土器	休	6区 S-T6009 F1	10Y R7/4 に赤い斑痕	10Y R7/4 に赤い斑痕	180		51.8C	内黒 有段	
91	土器	休	6区 G-P0054 I 墓	10Y R6/4 に赤い斑痕	10Y R6/4 に赤い斑痕	206		61.8C	内黒 有段	

番号	種別	器種	区	出土地点	地質	総色調(表面色調)	総色調(表面色調)	口径	底径	高さ	説明	番号
93	土師器	环	6区	S D60001 F1	2.5Y7/4 深褐色			177	100	76	6.8C前~中 内黒	
94	土師器	环	6区	S D60001 F1	10YR6/4 にぶい黄褐色			178	90	54	6.8C前	
95	土師器	环	6区	S D60001 F1	10YR7/4 にぶい黄褐色			158		54	5.8C前	
96	土師器	环	6区	S D60001 F1	2.5Y7/6深					88	8.8C前	
97	土師器	环	6区	S D60001 F1	10YR7/4 にぶい黄褐色			162	90	40	7.8C前 木墨附	
98	土師器	長脚甌	6区	S P6036 F1	5YR2/6 棕			314			8.8C前	
99	土師器	長脚甌	6区	S P6036 F1	2.5Y7/6 棕			304			7.8C前	
100	土師器	長脚甌	6区	S K6043 F1	2.5Y7/6深			230			5.5.8C前	
101	土師器	長脚甌	6区	S K6043 F1	10YR7/4 にぶい黄褐色			210			10.8C前	
102	土師器	長脚甌	6区	S P6036 F1	2.5Y7/6深			160			5.8C前	
103	土師器	長脚甌	6区	E K6048 F2	2.5Y7/6深 にぶい黄褐色			226			6.8C前	
104	土師器	甌	6区	S D60001 F1	2.5Y7/3 にぶい黄褐色			170			5.8C前	
105	土師器	甌	6区	S K6043 F1	2.5Y7/3 にぶい黄褐色			86			5.8C前	
106	かわらけ	甌	6区	S K6043 F1	10YR7/3 にぶい黄褐色			90			3.5.5.位着物	
107	かわらけ	甌	6区	S K6043 F2	2.5Y7/6 棕			64	35	16.5	6.8C前	
108	かわらけ	甌	6区	S K6043 F2	5YR2/6 棕			64	30	20.5	6.8C前	
109	陶器	香炉小	6区	G P0654 明治	2.5Y7/6深 にぶい黒			76		7	2.8C前	
110	陶器	大瓶	6区	S K6019 F1	2.5Y7/6深 にぶい黄褐色			56			2.6C前	
111	青磁	伝化瓶	6区	S P6036 F1	NK-0 白	5G7/1 明治灰		62	48	108.5	4.19C灰	
112	陶器	瓶台	6区	S K6019				62		11.5	5	
113	陶器	瓶台	6区	S P6036 F1				60		12	4	
114	土製品	《ミニチュア》	6区	S K6019 F3				40	30	29	4.5.7.幅	
115	石製品	円盤状石製品	6区	S P6036 F1				38	20	45	4.5.7.幅	
116	金屬製品	環	6区	S D60001 F1				50	15	10.8C前		
117	金屬製品	環	6区	S P6036 F1				50	13	10.8C前		
118	金屬製品	環	2区	S P7064 F3	2.5Y5/2 黒灰黒			158			7.8C前	
119	金屬製品	環	2区	S D7022 F2	2.5Y5/1 黃灰			163			6.9C前	
120	金屬製品	環	2区	S P7062 F1	5Y5/1 黄						8.9C前	
121	金屬製品	環	2区	S P7069 F2	5Y5/1 黄						4	
122	金屬製品	高台杯	2区	S X7047 F1	10YR7/5 黒オリーブ						5.8C前	
123	金屬製品	环	2区	S K7052 F3	2.5Y7/5 黒			132			4.8C前	
124	金屬製品	环	2区	S K7052 F3	3Y5/1 黄			128	75	26.5	3.5.9C前	
125	金屬製品	环	2区	S K7052 F3	3Y5/1 黄			226			11	
126	金屬製品	环	2区	S K7052 F3	10YR5/2 黑灰黒						水滴形	
127	金屬製品	环	2区	S K7052 F3	10YR5/2 黑灰黒						4	
128	金屬製品	环	2区	S T7005 F1	NK-1 黄						2.8C前	
129	金屬製品	环	2区	G P0754 透明	2.5Y7/4 浅黄						12.9C前	
130	土師器	环	2区	G P0754 S 170302 F2	2.5Y7/4 にぶい黄褐色			134			40.7.8C前 開田系ホ・進行者	
131	土師器	环	2区	S D7022 F2	2.5Y5/2 黒灰黒						4	
132	土師器	环	2区	S K6043 球	10YR6/4 にぶい黄褐色			140			2.8C前	
133	土師器	环	2区	S D7022 F3	10YR6/4 浅灰黒			172			6.1内黒	
134	土師器	長脚甌	2区	S K7053 球	2.5Y7/3 にぶい黒						8	
135	土師器	長脚甌	2区	S P7064 F1	2.5Y7/6 棕			218			7	
136	土師器	長脚甌	2区	S D7022 F2	2.5Y7/6 棕			126			6	
137	土師器	甌	2区	G P0653 S D2042 F2	2.5Y7/1 黑灰			145			9.8C	
138	土師器	甌	2区	S K7052 F3	10YR7/4 にぶい黄褐色						2.8C前	
139	かわらけ	甌	2区	S K7052 F3	10YR7/4 にぶい黄褐色			70			2.8C前	
140	陶器	透明	2区	S K7047 F1	2.5Y7/1 黄白			119	75	20	2.8C前	
141	陶器	透明	2区	S K7047 F1	2.5Y7/1 黄白			46			7.17C 延岡美濃 透明	
142	陶器	透明	2区	S K7053 F1	2.5Y6/2 黑灰						4.16C 延岡美濃	
143	陶器	向付	2区	G P0850 S 170302 F1	2.5Y7/3 にぶい黒			146			5.17C~18C 延岡	
144	陶器	透明	2区	S K7043 F1	2.5Y7/2 黑灰			110	48	28.5	5.16C 延岡前	
145	陶器	透明	2区	G P0651 地	NK-0 黄白	透明物(NK-0 黄白)		92	40	47.5	3.19C 延岡美濃	
146	陶器	透明	2区	S P6036 F1	NK-0 黄白	透明物(G Y8-1 黄白)		130	28	39	6.18C 延岡前	
147	陶器	瓶	2区	S K7046 F1	2.5Y6/1 黑灰			46			6 黄	
148	陶器	香炉	2区	G P0652 透明	2.5Y5/1 黄			65	27.5	37	4 黄	
149	陶器	花瓶	2区	S K7046 F1	2.5Y5/1 黄			57			10C 延岡	
150	陶器	花瓶	2区	S K7046 F1	2.5Y5/3 にぶい黒			214	85	105.5	7.18C 延岡	
151	金屬製品	丸鉢	2区	S K7046 F1	2.5Y5/3 にぶい黒						19.17C	
152	金屬製品	丸鉢	2区	S K7041 F3	NK-0 黄			256			21	
153	金屬製品	丸鉢	2区	C P0651 F3	NL-5 黑						9	
154	金屬製品	丸鉢	2区	S X7047 F1	2.5Y6/1 黄						延岡 伸田文	
155	金屬製品	丸鉢	2区	S K7053 F1	2.5Y6/2 黑灰						延岡 伸田文	
156	金屬製品	丸鉢	2区	S X7047 F1	2.5Y7/1 黄白						延岡 伸田文	
157	金屬製品	丸鉢	2区	S K7046 F1	2.5Y6/1 黑灰						延岡 伸田文	
158	金屬製品	平鉢	2区	S K7047 F2	2.5Y6/1 黄						20 黄	
159	金屬製品	平鉢	2区	S P6036 F1	2.5Y7/6 深	明治期					17 黄	
160	金屬製品	平鉢	2区	S X7047 F1	2.5Y7/1 黄白						延岡 進田二田文	
161	金屬製品	平鉢	2区	S X7047 F1	2.5Y7/1 黄白						25 黄	
162	金屬製品	平鉢	2区	S X7047 F1	2.5Y6/2 黑灰						25 黄	
163	土師器	瓶	2区	S P6036 F1				130			15	
164	石製品	石斧	2区	S K7057 F2				160			25	
165	石製品	石斧	2区	S X7047 F1	10Y5/1 黄			45(幅)			17 中鉢	
166	石製品	石斧	2区	S X7047 F1							7.5	
167	石製品	石斧	2区	S X7047 F1	2.5Y7/1 黄						7	
168	石製品	円盤狀石製品	2区	S P6036 F1				51(幅)	51(幅)		11 16C末~17C前	
169	金屬製品	万両鏡	2区	G P0754 明治				266	15	25.46	4.5	
170	金屬製品	不明	2区	S D2032 F2				54			4	
171	金屬製品	不明	2区	S P6036 F1							11.16C前	
172	金屬製品	不明	2区	S P7008 F1				43(幅)	17(幅)			
173	金屬製品	不明	2区	S T7003 F1(E, L, 2002)				50(幅)	7(幅)			
174	金屬製品	不明	2区	S K7057 F2							1 水糸直室	
175	金屬製品	高台杯	2区	S K8008 ～E, F	2.5Y5/1 黄						6.9C前	
176	金屬製品	高台杯	2区	S K8007 F1	2.5Y5/1 黄						4.18C後 看護	
177	土師器	环	2区	S K8011 F1	10YR6/4 にぶい黄褐色			164			6.8C前~中 内黒	
178	土師器	長脚甌	2区	G P0946 球	2.5Y5/3 にぶい黒			238			5	
179	土師器	甌	2区	S K8008 F7	2.5Y7/3 にぶい黒			60			7.5.9C中	
180	かわらけ	甌	2区	S K8008 F7	2.5Y7/3 にぶい黒			120	64	33.5	7	
181	陶器	甌	2区	S D8006 F2	2.5Y7/4 にぶい黒			106	36	28.5	6.16C末~前	
182	陶器	甌	2区	S D8012 F1	2.5Y6/2 黑灰			103			5.16C~17C 延岡進田二	
183	陶器	甌	2区	S K8002 F1	2.5Y5/2 黑灰			70			6.16C~17C 延岡進田	
184	陶器	甌	2区	S K8003 F1	10YR5/1 黑灰			104			4.5 黄	

番号	種別	器種	区	出土地点	前鳥色調	輪鳥色(表面色調)	口径	底径	高さ	肩厚	備考
186	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F1	2,5Y7/1 黄白	20Y7/1 黄白	130		41	17C 前 肥前 濑津	
187	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F2	2,5Y7/1 黄白	2,5Y7/1 黄白	130	20	39	31 在地	
188	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F3	5Y7/1 黄白	5Y7/1 黄白	106	20	31	31 在地	
189	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F4	5Y7/1 黄白	5Y7/2 黄白	108	41	31	会津本郷小	
190	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F5	5Y7/1 黄白	5Y7/2 黄白	124	51	33	31 会津本郷小	
191	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F6	5Y7/1 黄白	5G Y8/1 黄白	128	50	21	41 9C 在地	
192	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F7	5Y7/1 黄白	5Y7/2 黄白	194	75	85	51 18C 後	
193	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F8	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	98	57	25	41 18C 中 肥前	
194	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F9	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	103	36	58.5	51.5 19C 中 瀬戸美濃	
195	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F10	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	108	45	55	4.5 在地	
196	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F11	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	82	33	40	31 18C 前 瀬戸美濃	
197	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F12	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	73	32	36	31 18C 前 瀬戸美濃	
198	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F13	5Y7/1 黄白	透明釉(5Y7/1 黄白)	97	34	51.5	51.5 18C 後	
199	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F14	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	84	40	24	51.5 在地 犬打	
200	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F15	2,5Y7/1 黄白	5G Y8/1 黄白	124	74	29	31 18C 後 肥前	
201	陶器	弘法器	8区	S.8.80001 F16	2,5Y7/1 黄白	5G Y8/1 黄白	67	46	54.5	51 会津本郷小	
202	陶器	瓶	8区	S.8.80001 F17	5Y6/1 黄	5Y8/1 黄白				51 17C 前 肥前	
203	陶器	油樽利	8区	S.8.80001 F18	2,5Y6/2 黄黒	2,5Y8/4-3 橙	27	54	147	在地	
204	陶器	瓶	8区	亂丸			120(横)	120(横)	30	11	
205	瓦	平瓦	8区	S.8.8004 F2	2,5Y4/1 黄黒	10R5/2 黄赤				19 赤瓦	
206	瓦	利手瓦	8区	亂丸	N7/0 黄白	7,5Y4/1 黄				18 乱丸 通鑑 二三文	
207	瓦	利手瓦	8区	亂丸	N5/0 黄白	2,5Y4/1 黄赤 柄赤				18 乱丸 通鑑 二三文	
208	瓦	瓦	8区	S.8.80006 F1	2,5Y7/1 黄白	2,5Y7/1 黄白				18 乱丸 通鑑 二三文	
209	石製品	砾石	8区	S.8.80006 F2	2,5Y7/2 黄白	2,5Y7/1 黄白	65(横)	21(横)		18 乱丸 中風	
210	石製品	砾石	8区	S.8.80006 F3	2,5Y7/2 黄白	2,5Y7/2 黄白	298(横)	54(横)		27 亂丸 中風	
211	石製品	砾石	8区	S.8.80006 F4	10Y8/1 黄白	10Y8/1 黄白	127(横)	54(横)		43 中風	
212	石製品	砾石	8区	乱形石製品	8区	8区 S.8.8002 F2			20(横)	20(横)	
213	石製品	砾石	8区	乱形石製品	8区	8区 S.8.8010 F2			20(横)	20(横)	
214	石製品	砾石	8区	G.F.0046 M.9.9					51 最右左		
215	石製品	瓦	8区	S.8.8005 F1					81 最右右		
216	石製品	砾石	8区	S.8.8006 F2					12		
217	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F6			90(横)	78(横)		42 中央四	
218	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F7			89(横)	11(横)			
219	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F8				11(横)			
220	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F9			56(横)	32(横)	4		
221	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F10			94(横)	9(横)			
222	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F11			90(横)	5(横)	51		
223	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F12			139(横)	7(横)	1.8		
224	金屬製品	鎌	8区	S.8.8008 F13			25(横)	25(横)	2	写真のみ	
225	木製品	漆筒	8区	S.8.8008 F14			92(横)	22(横)	1	18武道室	
226	木製品	(漆筒)	8区	G.F.0247 里中					52	10	
227	漆器	盒	9区	S.9.9022 F1	2,5Y7/1 黄白					10 18C	
228	漆器	高台盒	9区	S.9.9022 F2	10Y8/6.3 にふく 黄黒					61 8C 中~後	
229	漆器	床	9区	S.9.9044 F1	5Y6/1 黄		84			51 8C 中~後	
230	漆器	床	9区	S.9.9007 F2	7,5Y5/1 黄					41 9C 中~後	
231	漆器	床	9区	S.9.9007 F3	5Y5/1 黄		142				
232	漆器	高台床	9区	S.9.9012 F2	7,5Y5/1 黄 にふく 黄		128				
233	漆器	高台床	9区	S.9.9012 F3	7,5Y5/1 黄 にふく 黄		96			91 亂丸 中風	
234	漆器	高台床	9区	S.9.9022 F3	7,5Y5/2 黄 にふく 黄		76			61 9C 後 中風	
235	漆器	長柄匙	9区	T.9.9008 F1	10Y8/6/3 黄 にふく 黄		222			61 9C 後~後	
236	漆器	長柄匙	9区	S.9.9006 F2	2,5Y6/6 黄		218			61 9C 中~後	
237	漆器	長柄匙	9区	S.9.9006 F3	10Y5/2 黄 黄		62			8 9C 後 條代瓶	
238	漆器	盒	9区	S.9.9038 F1	7,5Y7/4 黄 にふく 黄		69		7		
239	漆器	盒	9区	S.9.9032 F2	7,5Y5/2 黄 黄		26				
240	陶器	瓶	9区	S.9.9031 F1	10Y8/6 黄	5Y6/3 オリーブ黄	54			51 16C 後 瀬戸美濃 斎藤	
241	陶器	瓶	9区	S.9.9010 F2	2,5Y7/2 黄	5Y7/3 黄	110	50	22.5	61 16C 後 瀬戸美濃 斎藤	
242	陶器	瓶	9区	S.9.9010 F3	10Y8/6.3 にふく 黄	5Y7/1 黄白	130	36	51.5	16C 後 肥前	
243	陶器	瓶	9区	S.9.9010 F4	10Y8/7.4 にふく 黄	2,5Y7/2 黄	156			51.5 16C 後~17C 肥前	
244	陶器	瓶	9区	S.9.9045 F1	2,5Y5/1 黄	5Y4/2 黄 オリーブ				51 16C 後~17C 肥前	
245	陶器	瓶	9区	S.9.9038 F2	5Y5/1 黄	5Y5/2 黄 オリーブ	110	47	30	41 18C 後 瀬戸美濃 斎藤	
246	陶器	瓶	9区	S.9.9038 F3	7,5Y5/3 にふく 黄	7,5Y6/2 黄 オリーブ	92	33.5	35	61 16C 後 肥前	
247	漆器	床	9区	S.9.9044 F1	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	100	42	49	51 19C 瀬戸美濃	
248	漆器	床	9区	S.9.9044 F2	N8/0 黄白	透明釉(N8/0 黄白)	71	32	46	41 19C 瀬戸美濃	
249	漆器	床	9区	S.9.9038 F1	10Y8/4 黄 にふく 黄	5G Y8/1 黄白	131	85	36.5	41 在地	
250	漆器	床	9区	S.9.9038 F2	5G Y8/1 黄白	5G Y8/1 黄白	91	37	22	51 19C 瀬戸美濃 犬打	
251	漆器	床	9区	S.9.9038 F3	N8/0 黄白	7,5Y8/1 黄白	98	42	26	51 19C 瀬戸美濃 犬打	
252	漆器	床	9区	S.9.9038 F4	7,5Y8/1 黄白	5G Y8/1 黄白	57	37	22	51 19C 瀬戸美濃	
253	漆器	床	9区	S.9.9038 F5	N8/0 黄白	5G Y8/1 黄白	26			41 19C 瀬戸美濃	
254	陶器	罐	9区	S.9.9038 F6	5Y5/3 黄	2,5Y7/4 黄 黄			266	2	
255	陶器	罐	9区	S.9.9038 F7	5Y5/1 黄	2,5Y7/4 黄 黄			236	2	
256	陶器	罐	9区	S.9.9038 F8	10Y8/4.1 黄	5Y4/1 黄 黄	270			14.5 17C 後 簡便	
257	陶器	罐	9区	S.9.9038 F9	2,5Y7/4 黄	5Y4/4 黄 オリーブ	106			8 在地か	
258	陶器	罐	9区	S.9.9033 F1	7,5Y5/1 黄		172		13		
259	陶器	罐	9区	S.9.9033 F2	5Y4/1 黄		230		9		
260	陶器	罐	9区	S.9.9007 F2	2,5Y6/1 黄	2,5Y5/1 黄				12 古代 布目瓦	
261	陶器	罐	9区	S.9.9007 F3	2,5Y7/2 黄	2,5Y7/2 黄				20 古代 布目瓦	
262	陶器	罐	9区	S.9.9033 F3	5Y6/1 黄	5Y6/1 黄				黑瓦	
263	陶器	罐	9区	S.9.9033 F4	5Y6/1 黄	5Y6/4 黄				17 小瓦	
264	陶器	罐	9区	S.9.9033 F5	5Y6/1 黄	5Y6/4 黄				23 出瓦	
265	陶器	罐	9区	S.9.9033 F6	N6/0 黄	N4.0 黄				18 出瓦	
266	陶器	罐	9区	S.9.9033 F7	N5.5 黄	N4.5 黄				19 出瓦	
267	陶器	罐	9区	S.9.9033 F8	N4.0 黄	10Y2.2 黄 鹿形				20 出瓦	
268	陶器	罐	9区	S.9.9033 F9	2,5Y7/4 黄	10Y2.2 黄 鹿形				21 出瓦	
269	陶器	罐	9区	S.9.9033 F10	5Y7/1 黄白	N5.0 黄				22 出瓦	
270	石製品	石	9区	S.9.9045 F1			335		34		
271	石製品	石	9区	S.9.9033 F3			140		34		
272	金屬製品	刀子	9区	S.9.9000 F3	5Y6/1 黄				82	24	
273	金屬製品	刀子	9区	S.9.9000 F3	N6/0 黄						
274	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F1	N4.0 黄						
275	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F2	10Y2.2 黄 鹿形						
276	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F3	10Y2.2 黄 鹿形						
277	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F4	5Y7/1 黄						
278	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F5	5Y7/1 黄						
279	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F6	5Y7/1 黄						
280	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F7	5Y7/1 黄						
281	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F8	5Y7/1 黄						
282	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F9	5Y7/1 黄						
283	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F10	5Y7/1 黄						
284	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F11	5Y7/1 黄						
285	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F12	5Y7/1 黄						
286	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F13	5Y7/1 黄						
287	金屬製品	刀子	9区	S.9.9020 F14	5Y7/1 黄						
288	石製品	石	9区	S.9.9033 F1							
289	石製品	石	9区	S.9.9033 F2							
290	石製品	石	9区	S.9.9033 F3							
291	石製品	石	9区	S.9.9033 F4							
292	石製品	石	9区	S.9.9033 F5							
293	石製品	石	9区	S.9.9033 F6							
294	石製品	石	9区	S.9.9033 F7							
295	石製品	石	9区	S.9.9033 F8							
296	石製品	石	9区	S.9.9033 F9							
297	石製品	石	9区	S.9.9033 F10							
298	石製品	石	9区	S.9.9033 F11							
299	石製品	石	9区	S.9.9033 F12							
300	石製品	石	9区	S.9.9033 F13							
301	石製品	石	9区	S.9.9033 F14							
302	石製品	石	9区	S.9.9033 F15							
303	石製品	石	9区	S.9.9033 F16							
304	石製品	石	9区	S.9.9033 F17							
305	石製品	石	9区	S.9.9033 F18							
306	石製品	石	9区	S.9.9033 F19							
307	石製品	石	9区	S.9.9033 F20							
308	石製品	石	9区	S.9.9033 F21							
309	石製品	石	9区	S.9.9033 F22							
310	石製品	石	9区	S.9.9033 F23							
311	石製品	石	9区	S.9.9033 F24							
312	石製品	石	9区	S.9.9033 F25							
313	石製品	石	9区	S.9.9033 F26							
314	石製品	石	9区	S.9.9033 F27							
315	石製品	石	9区	S.9.9033 F28							
316	石製品	石	9区	S.9.9033 F29							
317											

番号	種別	品種	区	出土地点	胎土色調	総色調(表面色調)	口径	底径	高さ	説明	参考	
277	須恵器	壺	1区	帆船	N5.0					8.8cm 壺		
278	須恵器	壺	1区	帆船	IVY6.1 黒					5.8cm 壺		
279	須恵器	壺	1区	F 9193G	N5.0 黑					5.8cm 壺		
280	須恵器	壺	1区	F 8599	2.5Y6.1 黒				128	5.8cm 壺		
281	須恵器	壺	1区	S T116	N6.0 黑				137	100	39 5.8cm 壺	
282	須恵器	壺	1区	F 8401	2.5Y7.2 塗装					92	6.5-8cm 壺	
283	須恵器	壺	1区	S T116	2.5Y6.1 黑					92	5.8cm 壺	
284	土師器	壺	1区	帆船	2.5Y7.4 に赤い繪					98	8 木舟型	
285	かわらけ	行町瓶	1区	F 9094	10Y R6.4 に赤い繪				110		5 付物	
286	かわらけ	行町瓶	1区	帆船	10Y R7.4 に赤い繪				113	78 23.5	5 付物	
287	須恵器	壺(改変)	1区	帆船	10Y8.1 黒白					319C 前 要覧		
288	須恵器	壺(改変)	1区	帆船	10Y8.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			79	22	319C 前 要覧	
289	須恵器	壺	1区	F 8994G	IVY6.1 黒	透明釉(5N8.0 黒白)					319C 前 要覧	
290	須恵器	壺	1区	帆船	IVY6.1 黒	透明釉(5G Y8.1 黒白)			108		319C 前 要覧	
291	須恵器	壺	1区	帆船	N5.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			70	30 45	5.5-6cm 壺	
292	須恵器	壺	1区	F 8893G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			70	30 35	4.5-5cm 在地	
293	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			86	80 42.5	3.8cm 後 要覧	
294	須恵器	壺	1区	F 8894	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			100		3.8cm 後 要覧	
295	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5N8.0 黒白)				30	4.1cm 前 要覧	
296	須恵器	壺	1区	F 8894G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			72	36 43	5.5-6cm 前 要覧	
297	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			95	36 55.5	3.8cm 前 要覧	
298	須恵器	壺	1区	F 8894G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			96	41 53	6.1cm 中 要覧	
299	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)				45	4.5-5cm 前 要覧	
300	須恵器	壺	1区	F 8895G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			150	52 48	4.5-5cm 前 要覧	
301	須恵器	壺	1区	F 8895G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			98		319C 前 要覧	
302	須恵器	壺	1区	F 8896G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			40		319C 前 要覧	
303	須恵器	壺	1区	F 8897G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			127		319C 前 要覧	
304	須恵器	壺	1区	F 9083	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			52		4.1cm 前 要覧	
305	須恵器	壺	1区	帆船	N8.0 黑白	透明釉(7.5G Y8.1 黒白)			106	36 60	4.1cm 前 要覧	
306	須恵器	壺	1区	F 9193G	N8.0 黑白	透明釉(5N8.0 黒白)			86	39 42	5.1cm 前 要覧	
307	須恵器	壺	1区	帆船	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			108		5.1cm 前 要覧	
308	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			84	32 55	5.1cm 末~6.1cm 肥前	
309	須恵器	壺(1)	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5N8.0 黒白)			68	56 55	4.1cm 前 要覧	
310	須恵器	壺(1)	1区	F 9094	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			62	30 58	1.9cm 前 要覧	
311	須恵器	壺(1)	1区	F 9094	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			52		3.1cm 前 要覧	
312	須恵器	壺	1区	F 8794G	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			128	80 54.5	7.1cm 前 要覧	
313	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			138	80 43	6.1cm 後~7.1cm 前 要覧	
314	須恵器	壺	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G V8.1 黒白)			134	72 42	6.1cm 後~7.1cm 前 要覧	
315	須恵器	壺	1区	F 9093	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)				4.1cm 前 要覧 横井 355 頁		
316	須恵器	壺	1区	F 9093	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			92		5.1cm 前 要覧	
317	須恵器	壺	1区	F 9093	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			184		4.1cm 前 要覧 横井 355 頁	
318	須恵器	壺(利)	1区	F 8894G	N8.0 黑白	透明釉(7.5G Y8.1 黒白)			62		4.1cm 前 要覧 美濃	
319	須恵器	坛(1)	1区	帆船	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			60	40 47	3.19C 前 要覧	
320	須恵器	坛	1区	帆船	2.5Y6.1 黑白	透明釉(5Y1 黑白)			13		3 在地	
321	須恵器	坛	1区	F 8794G	2.5Y6.1 黑白	透明釉(5Y1 黑白)			53	25 19	5.1cm 在地	
322	須恵器	坛	1区	F 8794G	2.5Y6.1 黑白	透明釉(5Y1 黑白)			45		3.1cm 在地	
323	須恵器	坛	1区	F 8895G	2.5Y6.2 黒白	透明釉(7.5R3.2 黒白)			44		6.5cm 5.5	
324	須恵器	坛	1区	F 8894	2.5Y6.2 黒白	透明釉(7.5Y3.4 黒白)			66	45 54.5	5	
325	須恵器	坛	1区	帆船	2.5Y6.2 黒白	透明釉(7.5Y2.7 黒白)			204	87 102.5	6 在地	
326	土質土器	水桶(少)	1区	F 8894G	2.5Y6.2 黒白	透明釉(7.5Y2.7 黒白)				13		
327	土質土器	水桶(少)	1区	帆船	10Y R6.3 に赤い繪	N3.0 脇灰			156		10	
328	土質土器	水桶(少)	1区	帆船	10Y R6.3 に赤い繪	2.5Y4.1 黑			86		19	
329	土質土器	水桶(少)	1区	帆船	10Y R5.3 に赤い繪	2.5Y2.1 黑			220		12	
330	土質土器	水桶(少)	1区	帆船	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y1 黑白)			300		12	
331	土質土器	水桶(少)	1区	帆船	2.5Y6.2 割腹	透明釉(5Y4.1 黑白)			384		15	
332	丸	平丸	1区	F 8894	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.5 黑)				16 黑		
333	丸	平丸	1区	F 8894	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.5 黑)				19.5 黑		
334	丸	平丸	1区	F 8894	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.5 黑)				19.5 黑		
335	丸	丸丸	1区	F 8894	2.5Y6.2 黒白	透明釉(5Y6.2 黒)				22 黑		
336	丸	丸丸	1区	F 8894	2.5Y6.2 黒白	透明釉(5Y6.2 黒)				22 黑		
337	丸	丸丸	1区	F 8893G	2.5Y6.2 黒白	透明釉(5Y6.2 黒)				27 黑		
338	丸	丸丸	1区	帆船	N4.0 黑	透明釉(5Y4.2 黒)				15 黑		
339	陶器	不明	1区	F 9299	10Y R6.3 に赤い繪				107	48 18.5	9	
340	陶器	壺	1区	帆船	5Y R5.4 に赤い繪				86		15	
341	陶器	壺	1区	F 9498	7.5Y5.3 に赤い繪				71		8	
342	土製品	寶子	1区	帆船	10Y R7.4 に赤い繪					5	5	
343	石製品	石斧	1区	F 9094G					268		30	
344	石製品	石臼	2区	S D202 246	N8.0 黑白				275		111	
345	石製品	石臼	2区	S D202 246	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)				60	20.5 代 氷室 中原	
346	石製品	石臼	2区	S D202 246	2.5G Y5.1 オリーブ				66(瓶)		10 氷室 中原 仕上げ瓶	
347	石製品	石臼	2区	F 8895G	5Y5.2 黒オーライ							
348	金属製品	大刀	1区	帆船					196(長)	55cm		
349	金属製品	大刀	1区	帆船						41cm	4	
350	金属製品	大刀	1区	帆船					36(長)	11cm		
351	金属製品	鉢	1区	X O					25(横)	25(横)	1 内底のみ	
352	金属製品	鉢	1区	S K98					25(横)	25(横)	1 在地のみ	
353	金属製品	鉢	2区	S D202 246	N8.0 黑白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			80		5.1cm 後 要覧	
354	金属製品	鉢	2区	S D202 246	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)					5.1cm 後 要覧	
355	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	N8.0 黑白	透明釉(5N8.0 黑白)			107	44 47	4.1cm 前 要覧 美濃	
356	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)			108	25 25.5	4.1cm 前 要覧 美濃	
357	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)			66	23 23	4.1cm 前 要覧 美濃	
358	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)			132		3 在地	
359	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)			96	66 18	3.1cm 後 要覧	
360	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5Y6.1 黒白)			240	146 34.5	5.1cm 後 要覧	
361	金属製品	鉢	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y6.1 黒白	透明釉(5G Y8.1 黒白)			82	36 21	3.5-5.5cm 前 要覧 熊野 熊野 熊野 熊野	
362	須恵器	壺	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)			86	42 26	5.1cm 前 要覧 熊野 熊野 熊野	
363	須恵器	壺	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)			300		8 在地	
364	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)			72		5 在地	
365	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)				4.5cm		
366	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)				5.5cm	5	
367	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)				25cm	25cm	
368	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)				241cm	241cm	
369	金属製品	刀	2区	S D202 246 F 8899	2.5Y7.1 黒白	透明釉(5Y7.1 黒白)				224cm	224cm	

番号	種別	器種	区	出土地点	前鳥色調	細部色調(表面色調)	口径	進深	高さ	肩厚	備考	
309	陶器	瓶	2区	S-D202-398	F-F8609G	2,5YR 8/2 白地	20YR 8/2 黄白	83	34	60	31	19C 滅 大崩馬
310	陶器	香炉	2区	S-D202-399	F-F8609G	2,5YR 8/2 白地	2,5YR 8/2 黄白	98	20	38	31	19C 滅 鋼頭
311	陶器	瓶	2区	S-D202-400	F-F8609G	2,5YR 8/2 白地	2,5YR 8/1 黄白	98	20	38	41 前縁	
312	陶器	小环	2区	S-D202-401	F-F8609G	2,5YR 7/2 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	50	27	27	31	19C 滅 大崩馬
313	陶器	瓶	2区	S-D202-402	F-F8609G	5YR 1/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	94	36	29.5	41 前縁	
314	陶器	瓶	2区	S-D202-403	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	73	26	35	41 19C 濱口美濃	
315	陶器	瓶	2区	S-D202-404	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	36	—	—	31 19C 滅 肥前	
316	陶器	瓶	2区	S-D202-405	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5N 0 白地	86	42	46	41 19C 滅(?)美濃	
317	陶器	瓶	2区	S-D202-406	F-F8609G	5YR 1/1 白地	透明釉 5N 0 白地	105	—	—	51 前「一」	
318	陶器	钵	2区	S-D202-407	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	132	3.5	—	肥前	
319	陶器	瓶	2区	S-D202-408	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	26	—	—	41 19C 滅(?)美濃 濱行	
320	陶器	罐	2区	S-D202-409	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 黄白	214	70	99	51 在地	
321	陶器	瓶	2区	S-D202-410	F-F8609G	2,5YR 7/1 白地	2,5YR 7/1 黄白	310	—	—	7.5 19C 滅 肥前 二郎津津	
322	陶器	生燒	2区	S-D202-411	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	10YR 8/3 黄白	39	30	27.5	41.5 在地	
323	陶器	生燒	2区	S-D202-412	F-F8609G	10YR 8/3 生燒	SYR 4/2 黄白	46	30	27	41 在地	
324	陶器	碗	2区	S-D202-413	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	104	70	62	51 在地	
325	陶器	瓶	2区	S-D202-414	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	318	—	—	19C 滅	
326	陶器	瓶	2区	S-D202-415	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	150	—	—	31	
327	陶器	瓶	2区	S-D202-416	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	26	—	—	41 19C 滅(?)美濃	
328	陶器	钵	2区	S-D202-417	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	132	3.5	—	肥前	
329	陶器	瓶	2区	S-D202-418	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	26	—	—	41 19C 滅(?)美濃 濱行	
330	陶器	罐	2区	S-D202-419	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 黄白	214	70	99	51 在地	
331	陶器	瓶	2区	S-D202-420	F-F8609G	2,5YR 7/1 白地	2,5YR 7/1 黄白	310	—	—	7.5 19C 滅 肥前 二郎津津	
332	陶器	生燒	2区	S-D202-421	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	10YR 8/3 生燒	39	30	27.5	41.5 在地	
333	陶器	生燒	2区	S-D202-422	F-F8609G	10YR 8/3 生燒	SYR 4/2 黄白	46	30	27	41 在地	
334	陶器	碗	2区	S-D202-423	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	104	70	62	51 在地	
335	陶器	瓶	2区	S-D202-424	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	318	—	—	19C 滅	
336	陶器	瓶	2区	S-D202-425	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5N 0 白地	86	42	46	41 19C 滅(?)美濃	
337	陶器	瓶	2区	S-D202-426	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5N 0 白地	105	—	—	51 前「一」	
338	陶器	钵	2区	S-D202-427	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	132	3.5	—	肥前	
339	陶器	瓶	2区	S-D202-428	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	98	—	—	31 19C 滅 肥前	
340	陶器	瓶	2区	S-D202-429	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	31	—	—	31 19C 滅 肥前	
341	陶器	瓶	2区	S-D202-430	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	79	—	—	31 19C 滅 死燒	
342	陶器	瓶	2区	S-D202-431	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	94	38	46	51.5 19C 滅(?)美濃	
343	陶器	瓶	2区	S-D202-432	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	92	40	50	31 19C 滅(?)美濃	
344	陶器	瓶	2区	S-D202-433	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 白地	100	42	51.5	51.5 在地	
345	陶器	瓶	2区	S-D202-434	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	114	44	52	51.5 在地	
346	陶器	瓶	2区	S-D202-435	F-F8609G	5YR 1/1 白地	5G YR 1/1 白地	58	—	—	31 19C 滅 肥前 東濃	
347	陶器	瓶	2区	S-D202-436	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 白地	85	50	21.5	21 19C 滅 肥前	
348	陶器	瓶	2区	S-D202-437	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 白地	33	—	—	3.5 在地	
349	陶器	瓶	2区	S-D202-438	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	80	—	—	31 大崩馬	
350	陶器	瓶	2区	S-D202-439	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	2,5YR 1/1 黄白	35	41	44	51 在地	
351	陶器	罐	2区	S-D202-440	F-F8609G	10YR 8/2 白地	2,5YR 8/3 黄白	318	14.5	13.7	51 在地	
352	陶器	罐	2区	S-D202-441	F-F8609G	2,5YR 7/3 白地	2,5YR 8/3 黄白	309	130	160	11 在地	
353	土器上部	火鉢	2区	S-D202-442	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	2,5YR 7/4 黄白	228	—	—	12.5 在地	
354	陶器	瓶	2区	S-D202-443	F-F8609G	2,5YR 6/1 白地	2,5YR 1/1 黄白	80	—	—	31 大崩馬	
355	陶器	瓶	2区	S-D202-444	F-F8609G	5YR 5/4 にぶい青黒	5YR 5/4 にぶい青黒	85	—	—	社上-37瓶	
356	石製品	刷毛	2区	S-D202-445	F-F8609G	2,5YR 7/3 黑	2,5YR 7/3 黑	—	—	—	社上-37刷	
357	金屬製品	剪刀	2区	S-D202-446	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 白地	31	—	—	3.5 在地	
358	金屬製品	剪刀	2区	S-D202-447	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 白地	31	—	—	3.5 在地	
359	金屬製品	剪刀	2区	S-D202-448	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 白地	84	—	—	3.5 在地	
360	金屬製品	剪刀	2区	S-D202-449	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 白地	86	—	—	6 在地	
361	金屬製品	剪刀	2区	S-D202-450	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 白地	56	—	—	3 在地	
362	金屬製品	小环	2区	S-D202-451	F-F8609G	10YR 8/2 白地	透明釉(NK) 9/0 白地	58	25	29	11 19C 滅(?)美濃	
363	金屬製品	小环	2区	S-D202-452	F-F8609G	5YR 1/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 斜リープ	100	—	—	41 前縁	
364	金屬製品	小环	2区	S-D202-453	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	98	25	25	41 19C 滅(?)美濃	
365	金屬製品	小环	2区	S-D202-454	F-F8609G	N7/0 白地	透明釉 10YR 7/1 白地	97	54	38	51.5 在地	
366	金屬製品	小环	2区	S-D202-455	F-F8609G	5YR 1/1 白地	5YR 2/2 白地	62	—	—	61 在地	
367	金屬製品	小环	2区	S-D202-456	F-F8609G	5YR 1/1 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	238	130	47	51.5 前縁	
368	金屬製品	小环	2区	S-D202-457	F-F8609G	2,5YR 7/2 白地	2,5YR 8/3 黄白	310	—	—	10 在地	
369	金屬製品	小环	2区	S-D202-458	F-F8609G	5YR 1/1 白地	透明釉 7.5Y R 4/1 黄白	44	28	28	51 在地	
370	金屬製品	小环	2区	S-D202-459	F-F8609G	5YR 1/1 白地	20YR 3/4 黄白	35	—	—	41 在地	
371	土器	手鏡子	2区	S-D202-460	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	20.8	19.8	—	51 大崩馬	
372	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-461	F-F8609G	2,5YR 7/2 白地	2,5YR 7/2 黄白	50	—	—	3 在地	
373	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-462	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	70.5	2.6	4.6	2.5 在地	
374	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-463	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	20.8	2.6	4.6	3 在地	
375	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-464	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	23.5	2.6	4.6	2.5 在地	
376	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-465	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	21.5	2.6	4.6	2.5 在地	
377	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-466	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	16.5	2.6	4.6	2.5 在地	
378	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-467	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	48	32	48	4.5 在地	
379	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-468	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	16.5	34	48	4.5 19C 滅(?)美濃	
380	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-469	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	100	48	48	4.5 19C 滅(?)美濃	
381	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-470	F-F8609G	N8/0 白地	透明釉 5G YR 1/1 白地	98	48	24	41 在地	
382	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-471	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	透明釉 7.5G YR 1/1 明灰皮	74	—	—	51 前縁	
383	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-472	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	透明釉 10YR 7/1 白地	67	46	39	4.5 在地	
384	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-473	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	20YR 3/4 黄白	41	26	24	31 在地	
385	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-474	F-F8609G	5YR 1/1 白地	5YR 2/2 黄白	88	87	120	31 縊子	
386	陶器	瓶	2区	S-D202-475	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	98	—	—	15 在地	
387	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-476	F-F8609G	10YR 8/2 白地	10YR 8/2 黄白	36	26	14	2 在地	
388	石製品	砥石	2区	S-D202-477	F-F8609G	10Y5 1/1 白地	—	3.5	—	3.5 在地		
389	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-478	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	3.5	—	—	3 在地	
390	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-479	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	90	48	29	4 在地	
391	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-480	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	104	—	—	41 前縁	
392	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-481	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	120	48	31	3.5 在地	
393	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-482	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	104	—	—	41 19C 滅 肥前	
394	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-483	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	206	—	—	51 在地	
395	金屬製品	手鏡子	2区	S-D202-484	F-F8609G	2,5YR 8/4 白地	2,5YR 8/4 黄白	86	—	—	7.5 在地	

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	焼成色(表面色調)	口径	底径	高さ	説明	備考
465	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	10YR 7.4 底白	114	15	在地		
466	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	10YR 7.4 底に赤褐色	140	15	在地 前 腹周有		
467	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	2.5YR 7.2 底白	45	4	在地		
468	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	7.5YR 7.2 底白	37	3.5	在地		
469	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	2.5YR 7.2 底白	35	5	19C 廃工場		
470	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	10YR 7.1 底白	80	5	19C 前 腹前		
471	陶器	埴輪	2区	S D202 15号	F F8599	2.5YR 7.1 底白	50	5			
472	土器	圓筒子	2区	S D202 15号	F F8599	7.5Y R8.3 陶質物	117	19	36		
473	金属製品	小枝	2区	S D202 15号	F F8599	2.5Y R8.3 陶質物	26mm	19	10	2 黑	
474	金属製品	小枝	2区	S D202 15号	F F8599	10YR 6.3 に赤褐色	64.5	6.5	1	19C 前	
475	金属製品	小枝	2区	S D202 15号	F F8599	2.5Y R8.3 陶質物	23mm	23	1	19C 前	
476	金属製品	小枝	2区	S D202 15号	F F8599	10YR 6.3 陶質物	23mm	23	1	19C 前	
477	陶器	向付	2区	S D202 石綿3	2.5YR 7.1 底白	7.5YR 7.1 底白	117	117	4	肥前	
478	陶器	向付	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 に赤褐色	2.5Y R8.3 陶質物	42	8.7	17C 肥前		
479	陶器	向付	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	2.5G R8.1 底白	38	5.5	18C 大隅相馬		
480	陶器	小坪	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	10YR 7.1 底白	52	20	25.5	3 18C 大隅相馬	
481	陶器	小坪	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	透明釉(5G Y8.1 底白)	94	3	3 18C 肥前		
482	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N5.0 黑	79	21	黑		
483	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N4.0 黑	79	21	黑		
484	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N3.0 黑	79	21	黑		
485	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N2.0 黑	79	21	黑		
486	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N1.0 黑	79	21	黑		
487	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	N0.0 黑	79	21	黑		
488	石器	石斧	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	2.5Y R8.3 陶質物	273	170	119.5		
489	土器	圓筒子	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	10YR 6.4 陶質物	19.5mm	21	5	7 おはじき	
490	金属製品	鉈	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	2.5Y R8.3 陶質物	4mm	4			
491	金属製品	鉈	2区	S D202 石綿3	2.5YR 6.4 陶質物	2.5G R8.1 陶質物	7mm	7			
492	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿4	2.5YR 7.1 底白	2.5Y R8.4 陶質物	85	5	5 18C 肥前		
493	瓦	平瓦	2区	S D202 石綿4	2.5YR 7.1 底白	2.5Y R8.4 陶質物	68	30	20	4	
494	陶器	罐	2区	S D202 石綿4	F F8599	10YR 7.4 底白	140	62	44	7.16~17C 肥前 遠野 上野	
495	陶器	罐	2区	S D202 石綿4	F F8599	2.5YR 7.2 底白	100	40	30	7.16~17C 肥前 遠野 四井田	
496	木製品	木製品	2区	S D202 石綿4	F F8599	2.5YR 7.2 底白	269	175	121.5	34	
497	陶器	罐	2区	S K204	F F8599	2.5YR 7.1 底白	88	30	43.5	3 19C 肥前	
498	土器	圓筒子	2区	S K204	F F8599	10YR 8.4 陶質物	35	20	15.5	6	
499	瓦	瓦	2区	S K204	N5.0 黑	N5.0 黑	116.5mm	122	1	中野西	
500	石器	石斧	2区	S K204	N5.0 黑	N5.0 黑	190mm	210	1	中野西	
501	石器	石斧	2区	S K204	N5.0 黑	N5.0 黑	119	119	中野西		
502	瓦	瓦	2区	F F8598	2.5Y 1.0 底白	2.5Y 1.0 底白	79	20	8	8C 前	
503	瓦	瓦	2区	F F8599	2.5Y 1.0 底白	2.5Y 1.0 底白	79	20	8	8C 前	
504	瓦	瓦	2区	F F8599	2.5Y 1.0 底白	2.5Y 1.0 底白	90	30	9	8C 前	
505	土器	長脚甌	2区	F F8599	2.5Y 6.6 棕	2.5Y 6.6 棕	224	6.5			
506	陶器	壺	2区	F F8598	2.5Y 7.1 底白	2.5Y 7.1 底白	70	5	8 本邦		
507	陶器	壺	2区	F F8598	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	90	30	52.5	3 18C 肥前	
508	陶器	壺	2区	F F8598	2.5Y 7.1 底白	透明釉(10G Y8.1 底白)	86	32	52.5	3 18C 肥前	
509	陶器	壺	2区	F F8598	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	85	36	50	3 19C 肥前 遠野	
510	陶器	壺	2区	F F85994	2.5Y 7.1 底白	N6.0 底白	114	38	63	4 19C 肥前 遠野	
511	陶器	壺	2区	F F87949	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	110	45	52.5	3.5 在地	
512	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	84	32	45	4 19C 前 大隅相馬	
513	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(10Y 8.1 底白)	56	4	肥前		
514	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	96	46	25	5 在地	
515	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	134	70	29.5	5 18C 前 肥前	
516	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	84	28	23.5	4 19C 前 長崎 廣島 型打	
517	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	79	20	24	4 19C 前 長崎 廣島 型打	
518	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 7.1 底白	10Y 8.1 底白	65	30	24.5	4 19C 前 長崎 廣島 型打	
519	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 6.6 棕	2.5Y 6.6 棕	84	42	27	2 在地	
520	陶器	壺	2区	F F8599	2.5Y 6.6 棕	2.5Y 6.6 棕	84	42	27	2 在地	
521	陶器	壺	2区	F F8599	10Y 6.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	26	180	268	5 佐世 賀施利	
522	陶器	壺	2区	F F8599	10Y 6.1 底白	10Y 3.2 黒	40	28	25	4	
523	陶器	壺	2区	F F91949	2.5Y R5.4 に赤褐色	2.5Y R5.3 に赤褐色	(256)	(81)	10	19C 西系	
524	陶器	壺	2区	F F91949	2.5Y R5.4 に赤褐色	2.5Y R5.3 に赤褐色	106	106	10	19C 肥前	
525	陶器	壺	2区	F F91949	2.5Y R5.4 に赤褐色	2.5Y R5.3 に赤褐色	78	78			
526	陶器	壺	2区	F F91949	2.5Y R5.4 に赤褐色	2.5Y R5.3 に赤褐色	58	58	13	輪行着	
527	瓦	瓦	2区	F F8599	2.5Y R6.6 棕	10R 4.2 底赤	22	22	22	瓦	
528	瓦	瓦	2区	F F8600G	N5.0 黑	N5.0 黑	22	22	22	瓦	
529	瓦	瓦	2区	F F8600G	N5.0 黑	N5.0 黑	22	22	22	瓦	
530	瓦	瓦	2区	F F8600G	N5.0 黑	N5.0 黑	200	200	20		
531	石器	不明	2区	F F8600G	N5.0 黑	N5.0 黑	304	304	40		
532	石器	不明	2区	F F8600G	10Y 5.1 棕	10Y 5.1 棕	280mm	280	33	53 本邦 中國	
533	石器	不明	2区	F F8600G	10Y 5.1 棕	10Y 5.1 棕	280mm	280	33	53 本邦 中國	
534	石器	不明	2区	F F8600G	10Y 5.1 棕	10Y 5.1 棕	280mm	280	33	53 本邦 中國	
535	石器	不明	2区	F F8600G	10Y 5.1 棕	10Y 5.1 棕	280mm	280	33	53 本邦 中國	
536	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	90	41	41	3	
537	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	71	15	5.5	5.5	
538	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	50	15	3.5	3	
539	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	40	15	3.5	3	
540	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	69	15	14		
541	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	90	15	14		
542	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	27	27	1	文殊木室	
543	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	22	22	1	文殊木室	
544	金属製品	釘	2区	F F8600G	2.5Y 7.1 底白	透明釉(5G Y8.1 底白)	27	27	1	文殊木室	

